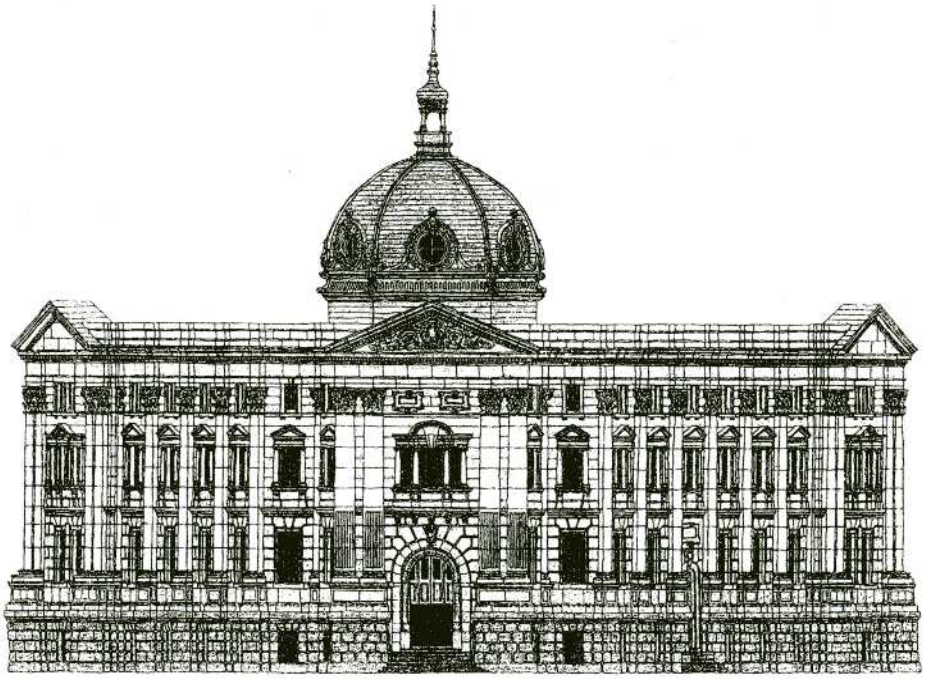
神奈川県立歴史博物館年報

平成25年度



神奈川県立歴史博物館

2014年

はじめに

平成25年度は広報活動の強化を図り、当館のイメージキャラクター「営業部長『パンチの守』」が先頭に立って、より開かれ、親しまれる博物館をめざした展示及び各種行事の広報活動を行ないました。

展示活動では、常設展のほかに特別展３回、特別陳列とコレクション展各１回を開催しました。特別展「江戸時代　かながわの旅 ―『道中記』の世界―」では、江戸時代の旅行ガイドブックとしての「道中記」をはじめ浮世絵や街道資料を展示し、九つの宿場を持つかながわの観光の様相を展開しました。特別展「『キングの塔』誕生！―神奈川県庁本庁舎とかながわの近代化遺産―」では、初代から三代神奈川県庁舎の絵や写真資料から、四代目神奈川県庁舎の建築とその魅力を語る図面、写真、使用されていたシャンデリアや装飾灯等を展示し、さらに神奈川県内に残る近代化遺産を紹介しました。特別展「こもんじょざんまい―鎌倉ゆかりの中世文書―」では、武家発祥の地鎌倉を中心に、東国世界に残された膨大な文書をひもとき、花押と墨色、権利と伝来、墨蹟と置文、料紙の妙味、紙背文書と胎内文書、かな文書の世界という観点から、古文書の魅力を引き出す展示としました。特別陳列「眞葛焼」は一部常設展示している高浮彫作品も含め、館蔵資料の中から秀逸な作品を展示しました。コレクション展「アメリカ人女性が巡った明治の日本」では、1897年の夏に日光、東京、箱根、伊勢、京都、神戸、広島、長崎を巡り観光し、買い物をした、米国人女性ルイーズ・ウイリアムズが集め残したショップカード、領収書、古写真などを展示し、外国人を魅了した日本の文化を再確認しました。

このほかに、平成25年度かながわの遺跡展「地中に埋もれた江戸時代の道具たち」を神奈川県教育委員会と共催し、発掘された江戸時代の食器を始めとして、生活道具を「食べる」「遊ぶ」「祈る」「装う」「働く」の用途別に展示し、江戸時代におけるかながわの町、村の暮らしぶりを紹介しました。

また、学芸員の研究活動の成果を『研究報告』などにより公開するとともに、講座の開催や学校連携を中心とした学習支援活動、さらには、子ども博物館教室、夏の恒例行事である「ミュージアム・クイズラリーよこはま」、６年目を迎えた「ミュージアムコンサート」など、多彩な教育普及活動に取り組み、ホームページについても内容の充実につとめました。

なお、様々な場面で、展示解説などについてご協力いただいているボランティアの方々に例年のとおりご活躍いただきました。

県民の方々から頂戴した展示や教育普及活動などについての貴重なご意見を参考に、今後もより一層、ご利用になられる方々の期待に応えられるよう心がけてまいります。

神奈川県立歴史博物館

目次

はじめに
目次
1　沿革・理念
⑴　沿革…… 3
⑵　神奈川県立歴史博物館の理念…… 4
2　管理運営
⑴　組織…… 5
ア　組織及び分掌
イ　職員名簿
⑵　歳入・歳出…… 6
ア　歳入
イ　歳出
⑶　入館者状況…… 6
ア　入館者数
イ　有料入館者内訳
ウ　無料入館者内訳
エ　特別展の入館者状況
⑷　広報・広聴…… 8
ア　広報実績
⑸　施設概要…… 8
ア　概要
イ　館内施設
ウ　外部協力
エ　平面図
3　調査・研究
⑴　館独自の研究事業費によるもの…… 12
ア　総合研究
イ　個別研究
ウ　グループ研究
エ　調査研究成果報告会
⑵　日本学術振興会科学研究費助成事業によるもの…… 14
⑶　個人研究活動…… 15
ア　研究報告書
イ　個人研究活動
4　資料収集・修理・保管・利用
⑴　考古資料…… 23
⑵　歴史資料…… 23
⑶　美術資料…… 26
⑷　民俗資料…… 32
⑸　写真資料…… 32
⑹　資料の燻蒸等…… 33
⑺　その他の資料…… 33
ア　図書
イ　映像
ウ　写真
エ　情報システム
5　展示・教育普及・学習支援
⑴　常設展…… 36
⑵　特別展…… 36
⑶　コレクション展…… 56
⑷　その他の展示…… 58
⑸　学習支援事業…… 72
ア　講座
イ　特別展記念講演会等行事
ウ　学芸員による展示解説
エ　ミュージアムトーク
オ　その他の行事
カ　子ども・青少年向け教育普及事業
キ　学校連携事業の状況
⑹　ミュージアムライブラリー…… 83
⑺　普及印刷物…… 84
ア　図録
イ　広報印刷物
ウ　神奈川県立歴史博物館だより
⑻　ボランティアの活動…… 84
ア　活動状況及び実績
イ　博物館入門講座
ウ　専門研修
エ　その他の研修
⑼　博物館実習生の受け入れ…… 86
ア　見学実習
イ　実務実習
6　資料
⑴　条例・規則…… 89
ア　神奈川県立の博物館条例
イ　神奈川県立の博物館組織規則
ウ　神奈川県立の博物館の利用等に関する規則
⑵　利用案内…… 93

1　沿革・理念

(1)　沿革

昭和 38 年 6 月	教育庁に博物館準備事務室を設置
昭和 41 年 11 月	神奈川県立博物館条例の制定により、神奈川県立博物館を設置 神奈川県立博物館組織規則の制定により、庶務部、学芸部の 2 部を置く
昭和 42 年 3 月	神奈川県立博物館開館
4 月	附属機関の設置に関する条例の一部改正により神奈川県博物館協議会を設置(委員 20 名)
6 月	神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、庶務部に庶務課、経理課の 2 課を置く
昭和 43 年 4 月	神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、学芸部に学芸課、人文課、自然課の 3 課を置く
昭和 44 年 3 月	旧館である旧横浜正金銀行本店が国の重要文化財に指定される
昭和 44 年 7 月	神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、庶務部を管理部に、庶務課を管理課に名称変更
昭和 47 年 8 月	神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、学芸部の各課の名称を廃し、企画調整課、学芸第一課、学芸第二課及び学芸第三課の 4 課を置く
昭和 49 年 8 月	神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、管理部に施設保全課を置く
昭和 52 年 5 月	神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、学芸部の各課を廃止
昭和 53 年 9 月	文部省学術研究機関の指定を受ける
昭和 55 年 2 月	入館者数 100 万人達成
昭和 62 年 4 月	第 2 次新神奈川計画の重点政策「文化施設 21 世紀構想」の一環として、博物館再編整備事業策定
昭和 63 年 12 月	神奈川県立博物館整備構想懇談会が「神奈川県立博物館整備構想に関する提言－自然系博物館・人文系博物館の基本的な考え方－」を提出
平成 2 年 3 月	人文系博物館の整備計画・展示計画策定
平成 3 年 3 月	博物館総合情報システム整備計画、資料収集計画を策定
平成 4 年 3 月	展示基本設計
平成 5 年 3 月	改修工事基本・実施設計、展示工事実施設計
4 月	県立博物館休館(～7 年 3 月)
10 月	改修工事及び展示工事開始
平成 6 年 11 月	改修工事終了
平成 7 年 1 月	神奈川県立博物館条例改正に伴い「神奈川県立博物館」は「神奈川県立歴史博物館」と名称変更、神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、企画情報部に企画普及課及び情報資料課の 1 部 2 課を置き、管理部の施設保全課を廃止
3 月	展示工事終了、博物館情報システムの一部稼働開始 神奈川県立歴史博物館開館(18 日)
6 月	国の史跡に指定される
平成 9 年 7 月	博物館ボランティアが活動を開始
平成 11 年 2 月	金銅装笈・椿彫木朱漆笈・清拙正澄墨跡・石室善玖墨跡・源頼朝袖判下文・源頼家袖判下文が県の重要文化財に指定される 神奈川の職人の道具(17 職種 1,982 点)が県の有形民俗文化財に指定される
平成 11 年 4 月	重要文化財の公開承認施設として文化庁から承認される
平成 13 年 1 月	三浦市間口洞窟遺跡出土品(450 点)が県の重要文化財に指定される
平成 13 年 3 月	附属機関の設置に関する条例の一部改正により、神奈川県博物館協議会を廃止
平成 18 年 4 月	神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、管理部管理課と経理課を統合し管理課に改め、企画情報部企画普及課、情報資料課及び学芸部の 2 部 3 課となる
平成 19 年 11 月	旧館である旧横浜正金銀行本店が、経済産業省により近代化産業遺産(横浜港周辺の関連建築物群)に認定される
平成 21 年 8 月	入館者数 200 万人達成

(2) 神奈川県立歴史博物館の理念

神奈川県立歴史博物館の前身は昭和 42 年開館の神奈川県立博物館である。昭和 62 年から自然系と人文系が分離分館する再編整備の検討が行なわれ、平成 7 年のリニューアル開館に至るまで、3 回にわたって博物館活動の理念やテーマが検討・提案された。

ア　昭和 63 年 12 月、神奈川県立博物館整備構想懇談会から提出された「神奈川県立博物館整備構想に関する提言－自然系博物館・人文系博物館の基本的な考え方－」(以下「提言」という。)

イ　平成 2 年 3 月に策定された「神奈川県立人文系博物館(仮称)整備計画」(以下「整備計画」という。)

ウ　平成 7 年 3 月の再編整備時に作られた「神奈川県立歴史博物館概要説明」(以下「概要」という。)

ア　「提言」における活動理念・テーマ

(ｱ)　人文系博物館の「意義」(「提言」を要約、抜粋)

ａ　文化の視点からの未来の探求
ｂ　考古、歴史、美術、民俗等を統合化した新しい文化史の創造
ｃ　歴史的、文化的特色による神奈川のアイデンティティーの探求
ｄ　振幅の大きな神奈川の歴史にみる人々の生き方の探求
ｅ　神奈川の文化と内外の文化との交流や相互関係の探求
ｆ　文化史的意義のある資料の集積と後世への継承

(ｲ)　「基本テーマ」等の設定

ａ　基本テーマ：「文化の交流と変容」

上記の意義を踏まえ、また、神奈川の文化と歴史を専門的かつ学際的な観点から総合的にとらえる唯一の博物館として活動していくため、基本テーマが設定された。

ｂ　サブテーマ：「神奈川の文化と歴史を考える」「日本・世界の神奈川を考える」

空間的、時間的な広がりのある視点や、先人から受け継がれた地域の固有性をとらえる視点に立って２つのサブテーマが設定された。

ｃ　展開の視点

これらの基本テーマ、サブテーマを、展示をはじめとした様々な博物館活動に反映させるため、次のような展開の視点が設けられた。

[継 承]　各時代の文化と時代を超えて継承される文化を歴史の流れの中でとらえる
[交 流]　他の国や他の地域との文化交流を空間的、時間的広がりの中でとらえる
[変 容]　文化の変容をダイナミックにとらえる
[風 土]　文化の特色を地域風土を通してとらえる

イ　「整備計画」における活動理念・テーマ

上記「提言」を受け、平成 2 年に「整備計画」が策定され、再編整備の具体的な内容がまとめられたが、「提言」における博物館の意義、性格、基本テーマなどは、歴史博物館のあるべき姿を示す目標・指針として継承されることとなった。

ウ　「概要」における活動理念・テーマ

平成 7 年のリニューアル開館に際して作成された「概要」では、当館を「かながわの文化と歴史」を総合的に扱う博物館と位置付けて博物館活動の基本テーマとし、展示テーマを「文化の交流と変容」とすることが示された。

2　管理運営

(1)　組織

(平成25年4月1日現在)

ア　組織及び分掌

- 館　長 ― 副館長
  - 管理課
    - (分掌)公印、文書、個人情報、人事、財産、予算の経理、観覧料の徴収、物品の調達・処分、寄贈品の受納、寄託品の受返納及び他部課の主管に属しないこと
  - 企画情報部
    - 企画普及課
      - (分掌)博物館活動の企画調整、教育・普及、広報、講演会・講習会・研究会等の開催、他の博物館やその他教育・学術・文化に関する施設・団体との連絡・協力・情報の交換に関すること
    - 情報資料課
      - (分掌)人文科学等に関する図書等の収集、整理、保管、閲覧、博物館情報システムの運用に関すること
  - 学芸部
    - 考古・中世担当
      - (分掌)博物館資料の収集、製作、整理、保管、展示、解説指導、専門技術的な調査研究に関すること
    - 近世・近現代・民俗担当
      - (分掌)博物館資料の収集、製作、整理、保管、展示、解説指導、専門技術的な調査研究に関すること

イ　職員名簿

館長(技術)		薄井 和男
副館長		竹内　廣一
管理課長		橋本 千晴
管理課	副主幹	樋渡 功
	主査(事務)	細山 富幸
	〃	中山 聖枝
	主事	奥田 春菜
	専門員(事務)	瀬戸 昇
	〃	柴田 健治
	非常勤自動車運転員	大塚 清志
	非常勤事務補助員	丸山 百合子
企画情報部長		日比野 典明
企画普及課長(技術)		古宮 雅明
企画普及課	副主幹	藤牧 健
	主事	伊藤 瑞湖
	専門員(事務)	余合 和歌子
	非常勤教育普及員	草間 敏保
	非常勤職員	野島 愛子
	非常勤学芸員	田辺 可奈
	〃	泉山 花江
	〃	内山 美代子
情報資料課長		木佐貫 健二
情報資料課	副主幹	篠崎 淑子
	主査(事務)	秋山 孝之
	専門員(司書)	山中 潤
	専門員(事務)	岩田 正明
	非常勤事務補助員	柳生 真弓
	〃	斎藤 由樹
	〃	鈴木 敏子
	非常勤資料整理員	檜皮 千穂
	〃	浅井 真里子
	非常勤写真職	岸山 浩之
学芸部長(技術)		寺嵜 弘康
(考古・中世担当)		
	専門学芸員	永井 晋
	主任学芸員	古川 元也
	学芸員	小井川 理
	〃	千葉 毅
	専門員(技術)	鳥居 和郎
(近世・近現代・民俗担当)		
	主任学芸員	嶋村 元宏
	〃	桑山 童奈
	〃	丹治 雄一
	学芸員	角田 拓朗
	〃	新井 裕美
	専門員(事務)	鈴木 尚遠
	〃	小堀 信夫
	非常勤資料整理員	吉澤 智恵子

非常勤資料整理員	中村 茉貴	非常勤学芸員	武田 周一郎
非常勤学芸員	岡田 真帆	〃	根本 佐智子

(2) 歳入・歳出

ア 歳入

(単位：千円)

科　　目	金　額	内　　訳
行政財産使用料	553	ショップ等建物使用料
歴史博物館使用料	10,478	観覧料収入(常設展　5,029、特別展　5,449)
立替収入	423	ショップ等電気料・水道料
雑入	3,529	図録販売、ライブラリー複写料金等
教育受講料収入	346	県立機関活用講座受講料
合　　計	15,329	

イ 歳出(人件費含まず)

(単位：千円)

事　業　名	金　額	内　　訳
維持運営費	56,768	維持管理・事業運営
展示事業費	15,890	常設展示維持管理、特別展の開催、総合案内業務
調査研究事業費	425	総合研究・基礎研究、調査研究報告書の作成
資料整備費	10,140	博物館資料収集、資料修繕
学習支援事業費	1,122	講座・講演会の開催、ボランティア活動推進、図書等資料整備、広報用資料作成
情報システム整備費	53,703	システム運用、データ入力等
県立機関活用講座開催事業費	314	講座の開催
教育施設維持修繕費	1,507	施設・設備の修繕
合　　計	139,869	

(3) 入館者状況

ア 入館者数

(単位：人)

月	展示室入館者			フリーゾーン利用者	合　計
	有料入館者	無料入館者	小　計		
4	2,299	1,930	4,229	4,170	8,399
5	6,424	3,725	10,149	9,786	19,935
6	3,941	2,562	6,503	5,082	11,585
7	2,131	852	2,983	4,406	7,389
8	4,927	1,749	6,676	5,107	11,783
9	3,066	1,892	4,958	3,925	8,883
10	2,665	2,246	4,911	4,942	9,853
11	2,776	7,842	10,618	6,464	17,082
12	1,134	1,034	2,168	3,614	5,782
1	2,515	1,503	4,018	3,934	7,952
2	2,800	2,579	5,379	3,946	9,325
3	1,814	2,281	4,095	5,832	9,927
合　計	36,492	30,195	66,687	61,208	127,895

イ　有料入館者内訳　　(単位：人)

月	個人				団体(団体扱い含む)				合計
	20歳以上	20歳未満	高校生	65歳以上	20歳以上	20歳未満	高校生	65歳以上	
4	1,050	81	42	746	266	8	101	5	2,299
5	1,898	152	365	2,489	924	135	414	47	6,424
6	1,204	178	26	1,379	618	50	9	477	3,941
7	957	112	58	549	334	47	10	64	2,131
8	1,801	141	173	1,541	1,168	70	4	29	4,927
9	1,226	142	39	980	414	136	0	129	3,066
10	1,002	111	30	813	345	77	36	251	2,665
11	1,060	166	55	1,027	290	89	31	58	2,776
12	630	53	24	382	42	2	0	1	1,134
1	1,223	98	31	1,040	100	1	1	21	2,515
2	1,370	74	23	1,151	164	8	0	10	2,800
3	996	101	29	541	124	4	0	19	1,814
合計	14,417	1,409	895	12,638	4,789	627	606	1,111	36,492

ウ　無料入館者内訳　　(単位：人)

月	条例別表備考欄指定の無料入館者　(A)				減免による無料入館者　(B)							合　計
	未就学幼児	小学生	中学生	特別支援学校	高校生	生徒引率者	65歳以上	優待券	招待券	障がい者	その他	
4	26	389	599	0	522	53	4	4	124	84	125	1,930
5	46	467	1,323	0	566	79	1	34	742	211	256	3,725
6	35	351	996	0	84	56	11	15	792	127	95	2,562
7	16	181	181	0	20	8	0	6	202	92	146	852
8	77	373	305	0	7	2	0	17	569	167	232	1,749
9	30	395	437	0	38	33	1	16	663	135	144	1,892
10	17	953	306	4	60	110	2	16	520	114	144	2,246
11	21	799	581	0	362	68	1	27	5,796	123	64	7,842
12	15	444	308	0	0	32	0	3	135	48	49	1,034
1	33	99	446	0	36	29	1	19	596	109	135	1,503
2	33	202	913	4	136	34	0	18	1,034	100	105	2,579
3	15	95	265	0	1	1	3	5	1,727	93	76	2,281
合計	364	4,748	6,660	8	1,832	505	24	180	12,900	1,403	1,571	30,195

エ　特別展の入館者状況(前掲表内数)　　(単位：人)

特　別　展　名	有料入館者	無料入館者	合　計
江戸時代　かながわの旅　－「道中記」の世界－	6,250	6,316	12,566
「キングの塔」誕生！ －神奈川県庁本庁舎とかながわの近代化遺産－	4,314	3,717	8,031
こもんじょ ざんまい　－鎌倉ゆかりの中世文書－	2,552	7,779	10,331
合　計	13,116	17,812	30,928

(4) 広報・広聴

ア　広報実績

平成25年度の当館に係る広報実績は下記の通り(館のＰＲ、特別展・テーマ展、催しもの等)。

媒体別	紙媒体				電波媒体		インターネット	計
	新聞	雑誌	単行書	その他	テレビ	ラジオ		
件数	289	101	3	8	7	10	108	526

(5) 施設概要

ア　概要

(ｱ)　施設の規模

敷地面積　　4,160.82㎡

構造　　石・煉瓦造り(一部鉄筋コンクリート造り)地上3階・地下1階

延床面積　　10,565.47㎡

部門別面積　　展示部門＝約3,896㎡、学習支援部門＝約386㎡、収蔵部門＝約619㎡
研究部門＝約1,306㎡、サービス部門＝約438㎡、管理部門＝約1,251㎡
その他共用部分＝約2,670㎡

(ｲ)　建物の特徴

旧館部分　　旧横浜正金銀行本店本館(明治37年(1904)竣工、設計：妻木頼黄)
ネオ・バロック様式

新館部分　　神奈川県立博物館として新築(昭和42年(1967))

指定状況　　国指定重要文化財(建物旧館部分・昭和44年(1969)3月12日指定)
国指定史跡(平成7年(1995)6月27日指定)

(ｳ)　施設の状況

1　　階：【展示室、学習支援関係諸室】
特別展示室、コレクション展示室、
ミュージアムライブラリー、ミュージアムショップ、喫茶室、情報処理室　等

2　　階：【展示室、管理課・企画情報部関係諸室】
総合テーマ展示室(近世・近代・現代、民俗)
館長室、管理課、企画情報部、応接室、図書整理室、書庫　等

3　　階：【展示室、学芸部関係諸室】
総合テーマ展示室(古代・中世)
学芸部、資料整理室、展示準備工作室、作業室、収蔵庫　等

地下1階：【講堂、バックヤード諸設備】
講堂、収蔵庫、荷捌室、防災センター、写場、暗室、資料整理室、
その他機械室、倉庫　等

イ　館内施設

1階のフリーゾーンには来館者のために次の施設がある。

(ｱ)　ミュージアムショップ

博物館の刊行物(展示解説書、特別展図録)をはじめ、神奈川の文化や歴史に関する書籍、所蔵資料の絵はがき、博物館見学の記念になるような品々を販売する。運営は民間の企業が行っている。

(ｲ)　ともしび喫茶室

来館者に休憩してもらえるように喫茶室がある。軽食、喫茶ができ、店内には県内の福祉施設で作られた品々も販売されている。運営は「神奈川県手をつなぐ育成会」が行い、知的障がい者の就業の場ともなっている。

ウ　外部協力

神奈川県立歴史博物館には、県内の博物館の質的向上や文化財に対する普及啓発を行う次の外部団体の事務局が設置されている。

(ｱ)　神奈川県文化財協会

昭和 29 年(1954)から活動している任意団体である。現在は会員に対しての講演会、見学会など、文化財に関する知識の啓発活動を中心に活動している。協会員数 247 人(平成 26 年 3 月 31 日現在)。

事務局長	副館長	竹内 廣一
事務局次長	学芸部長	寺嵜 弘康
事務局員	専門学芸員	永井 晋
〃	学芸員	小井川 理
〃	企画普及課長	古宮 雅明
〃	主査	細山 富幸
〃	主事	奥田 春菜
〃	専門員(事務)	鈴木 尚遠

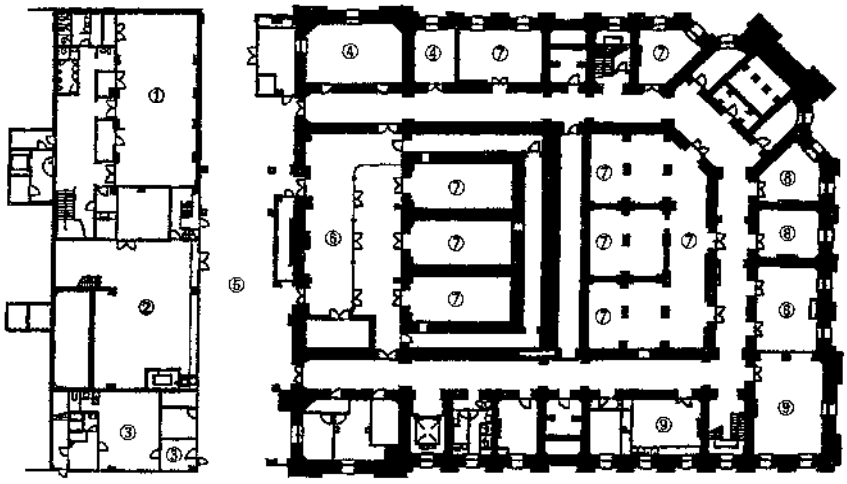
(ｲ)　神奈川県博物館協会

昭和 30 年(1955)から活動している県内博物館施設の任意団体で、博物館のＰＲ、職員の研修、会報の発行など各種活動を行っている。加盟館園数 96 館(平成 26 年 3 月 31 日現在)。

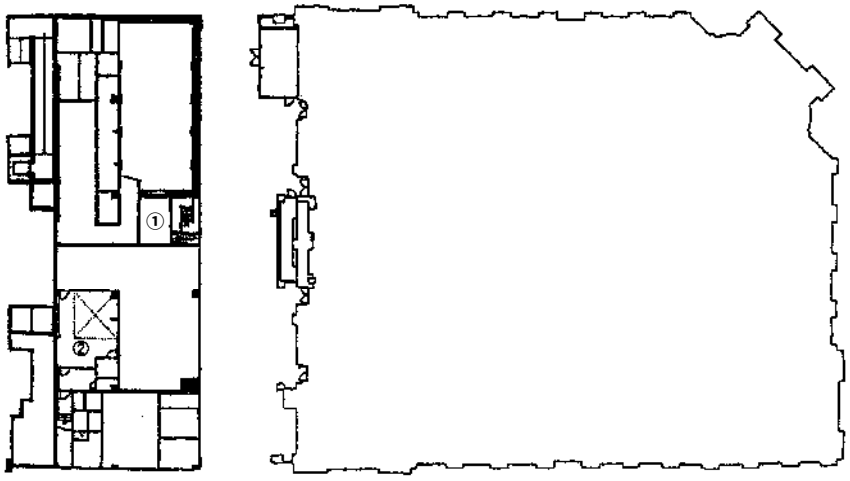
会長	館長	薄井 和男
事務局長	副館長	竹内 廣一
事務局次長	学芸部長	寺嵜 弘康
人文科学部会幹事	学芸員	角田 拓朗
事務局員	副主幹	樋渡 功
〃	主査	中山 聖枝
〃	専門員(事務)	小堀 信夫

エ　平面図

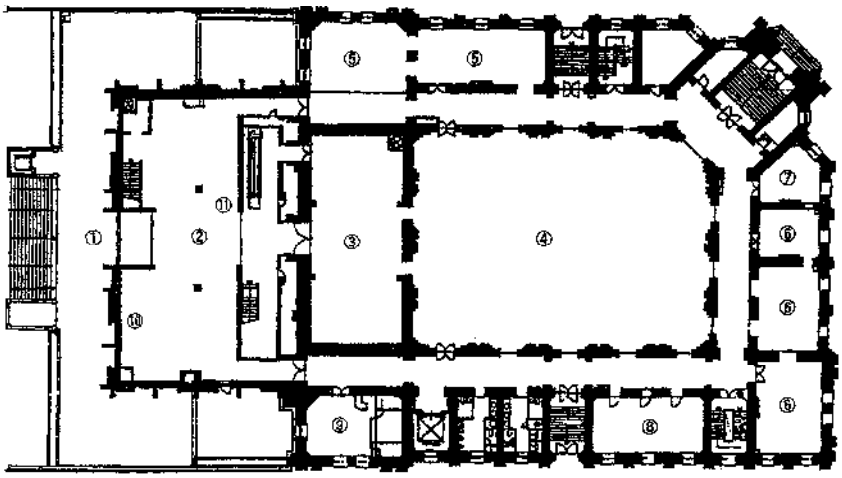
地下平面図
①講堂
②機械室
③防災センター・保安室
④電気室
⑤サービスヤード
⑥荷捌室
⑦収蔵庫
⑧資料整理室
⑨写場・暗室



中１階平面図
①放送器機・映写室
②中央監視室

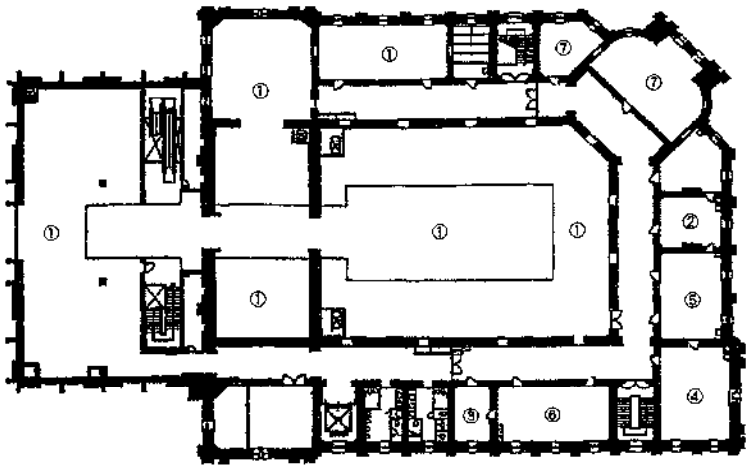


１階平面図
①玄関
②エントランスホール
③導入展示室
④特別展示室
⑤コレクション展示室
⑥ミュージアムライブラリー
⑦情報処理室
⑧会議室
⑨喫茶室
⑩ミュージアムショップ
⑪総合案内



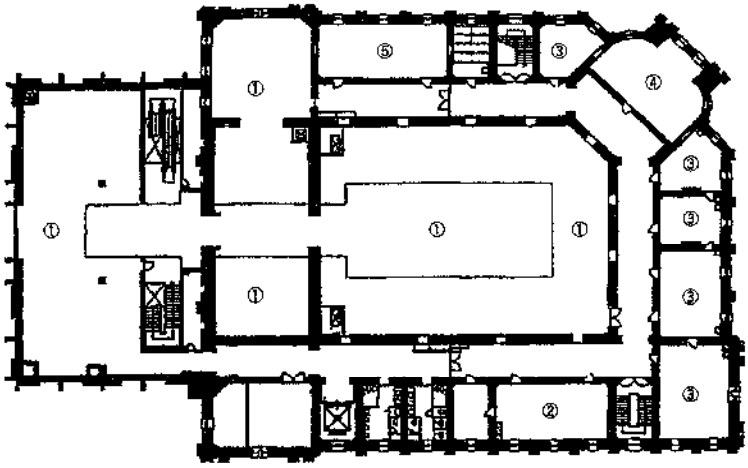
2階平面図

①展示室
②館長室
③第二応接室
④管理課
⑤応接室
⑥企画情報部
⑦図書整理室・書庫



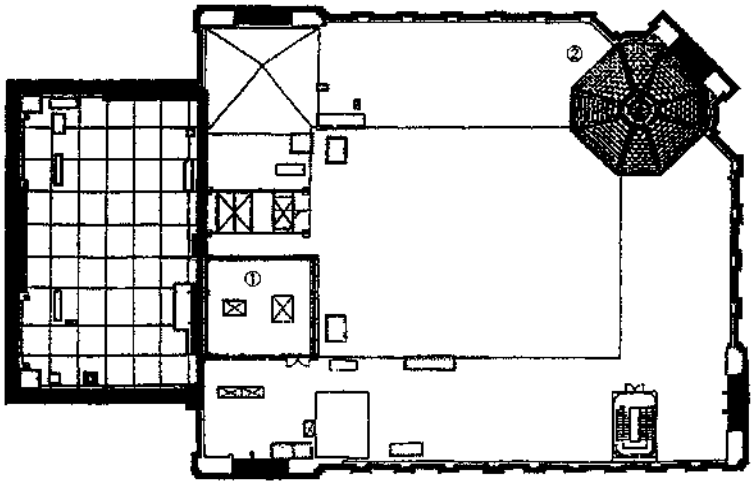
3階平面図

①展示室
②学芸部
③資料整理室
④展示機材倉庫
⑤収蔵庫



屋上平面図

①空調機械室
②ドーム



3　調査・研究

(1)　館独自の研究事業費によるもの

ア　総合研究

テ　ー　マ：近代日本の銀行建築に関する建築史的研究
担　　当：研究代表者　主任学芸員　丹治 雄一
共同研究者：中村 茂樹 氏(日本銀行文書局)、伊藤 稔 氏(日本銀行文書局)
関口 かをり 氏(日本銀行金融研究所貨幣博物館)、岡 義男 氏(Ｙ.岡建築研究所)
期　　間：平成 23～25 年度
概　　要：　本研究の目的は、明治・大正・昭和戦前期に日本全国に建てられた銀行建築を調査対象として、銀行建築を特徴づける詳細なデータ項目を盛り込んだ「近代銀行建築リスト」(仮称)を作成すること(リスト作成作業)と、それらをベースに研究会参加メンバーが設定した個別の研究課題に取り組むこと(研究作業)により近代日本の銀行建築の建築史的特徴を明らかにすることである。
3 年の研究期間の最終年度にあたる今年度は、2 年間かけて収集した全国の銀行建築に関するデータを分析するとともに取りまとめの方向性を検討し、日本銀行および横浜正金銀行の本支店建築に関する調査成果をまとめた報告書を発行した。

イ　個別研究

テ　ー　マ：当館蔵の民俗資料の整理と基礎的研究
担　　当：学芸部(民俗担当)　新井 裕美
期　　間：平成 25 年度
概　　要：　当館には、968点の「御札・御守・小絵馬」資料の資料がある。これらは、当時のある一つの家における庶民信仰の諸相を知ることができる貴重な資料群である。しかしながら、これらは資料の種類や性格ごとに一応の整理はされているものの、資料の詳細な分析やその成果を外部に発信したりするまでにはいたっていなかった。
そこで本研究では、まずこれらの中から御札と御守の資料整理を行った。次に祈願内容の分析や寺社の信仰圏などを調査することによって、当時の民間信仰の実態を明らかにした。また、この際には各地に残された御札・御守の資料と当館蔵の資料群との比較分析も行った。

ウ　グループ研究

次のテーマでグループごとに研究を進めている。

考　　古：神奈川県内遺跡・遺物調査
中　　世：宋風文化の研究
近　　代：横浜の木版印刷に関する基礎的研究
現　　代：戦後横浜における映画館活動に関する基礎的研究
民　　俗：民俗社会における贈答慣行
教育普及：小・中学校の見学実習を支援するワークシートの開発と検証

エ　調査研究成果報告会

開催日時：平成 26 年 3 月 11 日(火) 13:20～17:00
内　　容：総合研究及び個別研究の成果・途中経過と、報告書の内容について報告した。

(ｱ) 総合研究

発表者：主任学芸員　丹治 雄一
テーマ：近代日本の銀行建築に関する建築史的研究
概　要：前記「ア　総合研究」を参照。

(ｲ) 個別研究

ａ　発表者：学芸員　新井 裕美
テーマ：当館所蔵の御札・御守コレクションの資料整理及び調査研究について
概　要：前記「イ　個別研究」を参照。

ｂ　発表者：学芸員　千葉 毅
テーマ：日吉台地下壕の調査
概　要：　横浜市日吉一帯には、太平洋戦争期に構築された戦争資料（戦争遺跡）が多数存在している。特に旧海軍関連の施設は、連合艦隊司令部地下壕、航空本部等地下壕、艦政本部地下壕、人事局地下壕等といった多くの地下施設が知られている。本報告では、平成23年度～平成25年度に実施した慶應義塾大学との共同研究の成果を中心に、報告者がこれまでに行ってきた調査について説明した。

ｃ　発表者：主任学芸員　古川 元也
テーマ：唐物研究資料としての高台について
概　要：　陶磁器の高台部分には墨書や記号が記(捺)されているものがあり、その意味については個別具体的な検討がなされてきている。これらの資料は、器形の様式編年・分類が中心となる(貿易)陶磁研究において、数少ない文字・記号資料との複合資料であり、資料からもたらされる情報は様式のみに依拠した場合よりも多いことはいうまでもない。この文字・記号については、全般的な傾向として商品の所有者、製造者を示すものであるとの理解があるが、一律にそう考えられるという明確な根拠は見出せていないのが現状である。この報告では、このような高台の文字や記号が何を表しうるのかを整理し、商品の所有者・製造者論に検討を加えた。

ｄ　発表者：主任学芸員　桑山 童奈
テーマ：江戸時代の神奈川県域における絵図の出版状況および浮世絵との関係についての研究
概　要：　25年度に行った科学研究費基盤研究（C）(課題番号　25370817）の報告。江戸時代、出版の中心は江戸となる。それ以外にも、地方の寺社などの名所は旅人のお土産用に出版した絵図などを出版していた。現在の神奈川県域には、箱根、大山、江の島、鎌倉など江戸からの小旅行、あるいは東海道の旅人が立ち寄る名所がいくつかあった。絵図は名所を描いた浮世絵と比べると、広域をとらえる鳥瞰図が多く、摺も簡素なものが多い。鳥瞰図は短冊で地名を示すなど名所絵より説明的である。そのような絵図と同様に出版された寺社の縁起類の所在を調査し、県域における出版状況を整理した。また、なかでも神奈川宿の茶屋石崎源六が安政5年(1858)に出版した『三五景一覧』に注目した。神奈川宿から見える十五景を描き、狂歌などを添えた同書の絵師たちを同時代に江戸で出版された「人名録」に見出し、江戸在住の絵師たちらしいことつまり、江戸文化とのつながりを指摘した。

ｅ　発表者：非常勤学芸員　武田 周一郎
テーマ：横浜正金銀行行員の経歴に関する資料整理について
概　要：　当館ではこれまで横浜正金銀行行員の経歴に関する資料が継続的に収集されてきた。特に一般行員については網羅的なものがなく、基礎資料として重要である上、展示や、外部からの問い合わせなど活用の機会は頻繁である。本報告では中井芳楠の事例から活用方法を紹介し、当館で資料収集を続ける意義を示した。

ｆ　発表者：資料整理員　中村 茉貴
テーマ：蕨画塾――横浜市八聖殿郷土資料館所蔵《親鸞像》の制作地
概　要：　1946年秋、長谷秀雄は美校受験生のためにアトリエを開放し、蕨画塾を創立した。元来、本塾は八聖殿に納める《親鸞像》の制作場所として、大谷尊由から寄贈された建

物であった。本発表では、蕨画塾創立までの経緯と調査で明らかになった概要について報告した。

(2) 日本学術振興会科学研究費助成事業によるもの

神奈川県立博物館であった昭和53年度から、文部省学術研究機関の指定を受け、科学研究費助成金が交付されるようになった。神奈川県立歴史博物館に機構変更後も継続して指定されている。平成25年度の採択は3件である。

ア 研究種目名：基盤研究(B)
課題番号：23320147
研究課題：金沢文庫文書及び称名寺聖教の復元的研究（平成23～27）
研究代表者：専門学芸員　永井 晋
研究実績概要：　本研究では、重要文化財「金沢文庫文書」と重要文化財「称名寺聖教」の紙背文書を接続させて本来の古文書の形をデジタル情報として復元すると共に、古文書として整理されたために古文書紙背の聖教として保存されることになった聖教を一綴の聖教として整理できるように、聖教別の整理を行う。その成果は、データベースソフトを用いてインターネットで公開し、全国の研究者が金沢文庫文書・称名寺聖教の基本的なデータ整理を行った後、来館して本格的な調査を行えるように環境整理をしていきたい。

イ 研究種目名：基盤研究(C)
課題番号：24520732
研究課題：中世鎌倉地域における寺院什物帳(文物台帳)と請来遺品(唐物)の基礎的研究
研究代表者：主任学芸員　古川 元也
研究実績概要：　本研究では鎌倉地域に関係して残された寺院什物帳(文物台帳)にみられる請来遺品の完全把握と史料論的検討、大陸から請来された伝世文物、出土遺物の実体把握、およびその比較検討を行うことを目的とする。具体的な実施方法は、①寺院史料の調査研究、②美術・工芸・考古分野の遺品研究、③美術・工芸・考古分野の遺品研究（データ集積）とし、本年度は実査、撮影、調書作成を漸次おこなった。本年度秋に開催した「こもんじょざんまい―鎌倉ゆかりの中世文書―」においては什物帳との関係から関連研究を行った。これらの点は鎌倉国宝館のほか鎌倉市中央図書館近代史・特殊資料室の協力を得た。

ウ 研究種目名：基盤研究（C）
課題番号：25370817
研究課題：江戸時代の神奈川県域における絵図の出版状況および浮世絵との関係について研究
研究代表者：主任学芸員　桑山 童奈
研究実績概要：　江戸時代、日本各地の観光名所では寺社ほか地元の出資元によって土産物として、江戸で出版された浮世絵よりも簡素な摺の寺社境内図や鳥瞰図などの絵図が出版、販売されていた。本研究では東海道の九つの宿場町や金沢八景、鎌倉、江の島、大山、箱根の温泉ほか江戸近郊の名所として親しまれた場所が多い現在の神奈川県域で出版された絵図について、①各地域における絵図の出版状況について各公立図書館や歴史系博物館および地図のまとまったコレクションを所蔵する機関において悉皆的な調査を行い、データ整理と集積、②浮世絵の名所絵と表現を比較して在地の出版物と中央(江戸)における出版物の影響関係、さらに景観イメージの伝播について分析し、③情報は少ないが絵図以外の資料から各地の出版資本について明らかにする、ことを目的とする。

25年度は第一に資料の所在を調査し、東京都立中央図書館、東京大学総合図書館、国文学研究資料館、慶應義塾図書館、名古屋市蓬左文庫、西尾市岩瀬文庫、川崎市立中原図書館、城西国際大学水田美術館にて作品調査、あるいは展示見学をした。途中

から、寺社の縁起類も調査対象に加えることとした。縁起類を発行している寺社の数は絵図の発行元より多い。したがって、双方をあわせることで県域における全体的な出版状況をより明らかにすることができる。また、文字が主体となる簡易な出版である縁起類と多色摺の例もある絵図の出版元を分析することで、神奈川県域の名所の状況を明確にすることができると考える。

エ 研究種目名：若手研究（B）
課題番号：24720054
研究課題：洋風画・洋画を中心とした十九世紀日本絵画史の構築に関する基礎研究
研究代表者：学芸員　角田 拓朗
研究実績概要：　本年度は2年目として、主に版画群に認められる西洋絵画由来の技術や思想の受容について考察を進めた。その研究成果のひとつとして、当館研究報告にて石版画に関する論考を掲載するとともに、その後継研究として銅版画にかかる調査研究をおこなった。

(3) 個人研究活動

ア　研究報告書

(ｱ) 『神奈川県立博物館研究報告 －人文科学－ 』第40号　平成25年(2013)10月31日発行

a 種　別：論文
表　題：「《東海道懐古帖》の史的位置―リアリズムをめぐるあるひとつの断層―」
筆　者：学芸員　角田 拓朗
要　旨：　当館が所蔵する石版画帖《東海道懐古帖》の特徴について三点から分析。第一に、画面内容とその石版画工徳永柳洲の存在について。第二に、原画作者と考えられる亀井竹二郎と彼の友人だった五姓田義松が共有した意識について。第三に、本画帖に付随している英文解説の内容とその存在について。以上の考察の結果、本画帖は明治十年代前半までに形成された洋画家の意識を強く反映し、その意図を充分に汲み取った周囲の人物たちが明治二十年代に復活させ制作させたものであることを明らかとした。
ｷｰﾜｰﾄﾞ：亀井竹二郎、徳永柳洲、五姓田義松、石版画、洋風画／洋画

b 種　別：研究ノート
表　題：外法成就の志一上人について
筆　者：主任学芸員　古川 元也
要　旨：　本稿は、『太平記』に登場する咤枳尼の使い手、志一上人についての一考察である。志一上人は外法成就の人として描かれているが、当然に物語が扱う南北朝時代に実在が確かめられる存在ではない。しかし、近世期から近代初頭にかけて製作された鎌倉を描写する絵図類には「志一屋敷」や「志一稲荷」としてほぼ確実に描写されており、鎌倉在住の志一上人として認識されるべき存在であったことを物語っている。この屋敷の場所は、鶴岡八幡宮境内とされており、同社と志一との関係がどこに見いだされるのかを検証した。その過程で、願成就と怨敵調伏を目的とした咤枳尼法と、同趣旨で実施された密教修法である六字法との関係性についても言及する。
　これら現世利益を目的とする修法や祈祷は、それ自体が秘密裏に行われる傾向があるため、その具体的徴証を明らかにしてゆくことはしばしば困難である。また、虚構性の強い志一上人の具現化が、鶴岡八幡宮寺の関与の下で行われてきた徴証をもとめることも、神主家が現存していない今日では困難であるが、図像上の関連性を手がかりとしてその可能性を提示した。

なお、本稿は研究分担者として従事している科学研究費補助金、基盤研究（B）・課題番号 23320129「高野山宿坊史料の悉皆調査に基づく高野山子院と地方大名家との師檀関係の研究」の研究成果の一部である。

キーワード：志一上人、咤枳尼、鎌倉、鶴岡、絵図

c　種　別：研究ノート
表　題：戦国大名北条氏と手づくねのかわらけについて
筆　者：鳥居 和郎
要　旨：　戦国大名北条氏の本拠地である小田原城や一部の有力支城で検出される手づくねのかわらけは、小田原城に比べると支城での発掘点数はごく僅かで、そのため、北条氏が手づくねかわらけの使用制限や生産統制を行ったとする見解がある。また、本・支城間の数的格差から、このかわらけを北条氏の権力の象徴とする考え方が定説化しつつある。しかしその根拠は主に本・支城間の数的格差のみで、使用状況の復元や使用者の検討などはほとんど行われていない状況にある。小論では、小田原に手づくねかわらけが登場する契機、また、小田原から支城などへ手づくねかわらけが少量移動する幾つかの可能性を示し、このかわらけを権力の象徴として捉えることは慎重になる必要があるとした。
キーワード：　後北条氏、手づくねかわらけ、武家儀礼

d　種　別：資料紹介
表　題：横浜正金銀行員の肖像写真―川島忠之助資料から―
筆　者：学芸部長　寺嵜 弘康
要　旨：　横浜正金銀行リヨン出張所初代主任川島忠之助の手元に残された写真のなかから同銀行の行員たちの肖像写真を抄出し、行員の履歴と、川島と写真を贈呈した人物との関係などについて紹介した。海外支店勤務の行員にとって、同僚行員との手紙のやり取り以外に、近況を確認しあう手段として肖像写真を用いていたのではないかと推考した。
キーワード：横浜正金銀行、川島忠之助、肖像写真

イ　個人研究活動

〈凡例〉(刊行年などは西暦で統一)
1　著作
(1)　単著・共著・学術論文
(2)　書評・余録
(3)　資(史)料紹介
2　学術口頭報告
3　図録執筆・解説書執筆
4　新聞・雑誌等への寄稿
5　各種調査委員会等
6　講座講師等(特に館名などを記さないものは当館での実施。)
7　ここ１年間の課題・研究テーマ

薄井 和男(館長・美術・中世)
5　相模原市文化財保護審議会委員
逗子市文化財保護審議会委員
厚木市文化財保護審議会委員
川崎市文化財保護審議会委員
大磯町文化財保護審議会委員
平塚市文化財保護審議会委員
時宗文化財調査委員
7　県内所在の神社所蔵の神像調査を行った。

永井 晋（専門学芸員・歴史・中世）

1(1)「下総国下河辺庄の現状と課題」
（『民衆史研究』32号　民衆史研究会　pp.23-36、平成25年5月 25日）
「金沢貞顕書状の編年的研究」
（『金沢文庫研究』331号　神奈川県立金沢文庫　pp.1-17、平成25年10月30日）
「鎌倉時代の氷取沢」
（『創立三十周年記念誌』　神奈川県立氷取沢高等学校、pp14-15、平成25年11月1日）

(2)「中世文書は奥深く、おもしろい！一秋季特別展「こもんじょざんまい」によせて一」（『神奈川県立歴史博物館だより』Vol.19、No.2、通巻194号、pp.1-5、2013年9月、古川元也・永井晋共著）

(3)「称名寺所蔵『聖天五』紙背文書について」
（『東京大学史料編纂所紀要』24号　pp.63-77、平成26年3月28日）

2　「金沢貞顕書状の編年について」
（日本古文書学会大会基調講演　平成25年9月21日　於：関東学院大学関内メディアセンター）

3　特別展図録『こもんじょざんまい一鎌倉ゆかりの中世文書一』
（総論、作品解説ほか、pp.1-224、神奈川県立歴史博物館、2013年10月、古川 元也と共編著）

5　日本仏教綜合研究学会評議員
ＮＰＯ法人鎌倉考古学研究所正会員
吉川市史調査員　原始・古代・中世担当
野田市史調査員　中世担当
横須賀市文化財専門審議会委員

6　県立上溝高等学校「鎌倉御家人本間氏について」（2013年12月19日　於：県立上溝高等学校）
都筑区老人クラブ「幕末維新の動乱と金沢藩」（2014年1月23日　於：都筑地区センター）
県博セミナー「鎌倉をとりまく中世文書の世界」第3回「武家文書の世界」(2013年11月2日)

7　東国における源氏の研究及び中世喫茶文化史

古川 元也(主任学芸員・歴史・中世)

1(1)「外法成就の志一上人について」(『神奈川県立博物館研究報告』第40号、pp.29-40、2013年10月）
「The Creation of Shinko-o Mandala（晨狐王曼荼羅の成立）」
(Religious Performance,City and Country in East Asia,University of Illinois,oct,2013)
「中世都市研究としての天文法華の乱」
（『国立歴史民俗博物館研究報告』第180集、pp.129-140、2014年2月）
「中世後期日蓮教団の社会史的研究」（pp.1-514、2014年2月、思文閣出版）

(2)「中世文書は奥深く、おもしろい！一秋季特別展「こもんじょ ざんまい」によせて一」(『神奈川県立歴史博物館だより』Vol.19、No.2、通巻194号、pp.1-5、2013年9月、古川 元也・永井 晋共著）

2　「モノが裏付ける鎌倉の文献史」
（中世都市研究会「鎌倉研究の未来」、2013年9月7-8日、於：鎌倉女子大学二階堂学舎）
「晨狐王曼荼羅の成立」（イリノイ大学・国立歴史民俗博物館国際研究集会「東アジアの仏教をめぐる交流と変容」研究集会“東アジアの宗教とパフォーマンス、都市と地域”、2013年10月9-10日、於：米国イリノイ大学）
「唐物研究資料としての高台について」（神奈川県立歴史博物館調査研究報告会、2014年3月11日）

3　特別展図録『こもんじょ ざんまい一鎌倉ゆかりの中世文書一』
（総論、作品解説ほか、pp.1-224、神奈川県立歴史博物館、2013年10月、永井 晋と共編著）
「印西市仏像調査報告書」（調査協力、2013年3月、千葉県印西市教育委員会）

4　「源頼朝」「足利基氏」（連載記事のうち、2回、神奈川新聞）
「ものをみせるしごと」
（『日本女子大学博物館学芸員課程年報』№12、pp.2-3、2013年3月、日本女子大学）
「見せて「魅せる」展示　モノを通じて過去と対話」
（「かながわの地域博物館から」連載記事、神奈川新聞、2014年4月25日）

5　国立歴史民俗博物館共同研究員
三田史学会（慶應義塾大学）委員会委員

日本古文書学会大会運営委員・『古文書研究』（吉川弘文館）編集委員

6　かねさわ歴史の会「太平記の虚実」（2013年5月22日）、「後醍醐天皇が残した多くの文書」（2014年3月25日）

日本大学文理学部　鎌倉学Ⅲ「鎌倉びとの信仰」（2013年6月27日）

＜秋季特別展にかかわる講座＞

かねさわ歴史の会「中世古文書の面白さ」（2013年7月23日）、「こもんじょざんまいを10倍楽しむ」（2013年11月22日）

コロタイプ研究会「こもんじょを観る」（2013年10月5日）

県博セミナー「鎌倉をとりまく中世文書の世界」第1回「こもんじょを鑑賞すること」
（2013年10月19日）

栄区鎌倉研究会歴史講座「こもんじょ ざんまい」展展示見学（2013年11月6日）

高校生のための古文書講座「歴史好き集まれ！」講師（2013年11月10日）

「中世文書の世界を歩く」講師（2013年11月14日）

鎌倉国宝館友の会講師「こもんじょ ざんまい展のみどころについて」（2013年11月15日）

国宝史蹟研究会見学会講師（2013年11月17日）

7　日本中世宗教文化史の研究。特に本年度は東国武家文書を中心に研究を展示に発展させた。また継続　的研究として、石造供養等をはじめとする非文献資料を調査・研究し、総体的な歴史復元に資することが出来る部分の検証を試みた。

小井川 理(学芸員・美術・中世)

1(1)「白綾屏風の復元的考察」(『鹿島美術研究』別冊第30号、鹿島美術財団、2013年11月15日)

(2)「明治、横浜の花　眞葛焼の魅力　特別陳列「眞葛焼―田邊哲人コレクションと館蔵の名品―」に寄せて」（『神奈川県立歴史博物館だより』vol.19、No.3、通巻195号、pp.2-5、2013年12月3日）

3　図録『眞葛焼―田邊哲人コレクションと館蔵の名品―』
（解説、神奈川県立歴史博物館、2014年1月10日）

4　「特別陳列　眞葛焼―田邊哲人コレクションと館蔵の名品―<上> 輸出で脚光「高浮彫」」
(『毎日新聞』2014年1月12日)

「特別陳列　眞葛焼―田邊哲人コレクションと館蔵の名品―<中>港町横浜の「やきもの街」」
(『毎日新聞』2014年2月5日)

「特別陳列　眞葛焼―田邊哲人コレクションと館蔵の名品―<下> 釉薬極めた初代香山」
(『毎日新聞』2014年2月19日)

5　国立歴史民俗博物館共同研究員

6　「特別陳列「眞葛焼―田邊哲人コレクションと館蔵の名品―」について」
（國寶史蹟研究會 見学解説、2014年1月18日）

「特別陳列「眞葛焼―田邊哲人コレクションと館蔵の名品―」
（神奈川県文化財協会　平成25年度第7回見学会、「かながわの遺跡展」との分担解説、2014年2月19日）

7　館所蔵・保管の美術資料（中世絵画・工芸）に関する調査研究。特別陳列「眞葛焼―田邊哲人コレクションと館蔵の名品―」にかかる調査研究。「白絵」技法による美術工芸作品と関係資料についての調査研究。

鳥居 和郎（専門員・歴史・中世）

1(1) 研究ノート「戦国大名北条氏と手づくねのかわらけについて」
（『神奈川県立博物館研究報告 ―人文科学― 』第40号、pp.41-pp.51、2013年10月）

(2)「戦場の手柄はどのように認定されたのだろうか―『桜井武兵衛覚書』の記事の検討をとおして―」
（『神奈川県立歴史博物館だより』vol.19、 No1、通巻193号、pp.6-8、2013年6月20 日）

3　特別展図録『こもんじょざんまい―鎌倉ゆかりの中世文書―』
(解説分担執筆pp.6-8、神奈川県立歴史博物館、2013年10月)

5　箱根町文化財保護委員会委員
小田原市郷土文化館協議会委員

小田原市文化財保護委員会委員
小田原城耐震改修等検討委員会委員

6　とつか歴史講演会（2013 年 12 月 14 日、於：男女共同参画センター横浜）
「戦国大名北条氏と一向宗」
県博セミナー「鎌倉をとりまく中世文書の世界」第 5 回　「戦国大名北条氏とその文書　―印判状制度の創出―　」(2013 年 11 月 16 日)

7　後北条氏の京都外交に関する史料の検討。

千葉 毅(学芸員・考古)

1(1)「矢上台周辺における小規模地下壕の調査」
(『慶應義塾大学日吉キャンパス一帯の戦争遺跡の研究―2011～2013 年度科学研究費補助金研究成果報告書―』pp.78-86、安藤広道編、慶應義塾大学文学部民族学考古学研究室、2014 年 3 月)

2　「関東甲信越地方における称名寺式土器と加曽利 EV 式土器の混在の様相」
(「完新世の気候変動と縄紋文化の変化」公開シンポジウムIV『関東甲信越地方における中期／後期変動期―4.3Ka イベントに関する考古学現象 3―』、同実行委員会、2013 年 4 月 27 日、於：早稲田大学)
「下北半島石灰岩洞穴における考古学的・人類学的研究」
（共同発表：渡辺 丈彦・阿部 祥人・奈良 貴史・ 佐藤 孝雄・澤田 純明・千葉 毅・澤浦 亮平・金井 紋子、「日本考古学協会　第 79 回総会」日本考古学協会、2013 年 5 月 26 日、於：駒沢大学）
「青森県尻労安部洞窟の発掘調査成果（2011～2013 年）」
（共同発表：澤浦 亮平・奈良 貴史・渡辺 丈彦・澤田 純明・千葉 毅・萩原 康雄・平澤 悠・金井 紋子・竹内 俊吾・佐藤 孝雄、「日本動物考古学会　第 1 回研究大会」、日本動物考古学会、2013 年 11 月 16 日、於：慶應義塾大学）
「阿久型方形柱穴列の分析についての現状と課題」
（山梨県考古学協会 2013 年度研究集会「縄文時代前期前葉の甲信地域―山梨からみた中越式期―」、山梨県考古学協会、2013 年 12 月 8 日、於：帝京大学山梨文化財研究所）
「板橋遺跡出土黒曜石資料の産地分析」
（共同発表：建石 徹・大工原豊・佐野 隆・千葉 毅・二宮 修治、山梨県考古学協会 2013 年度研究集会「縄文時代前期前葉の甲信地域―山梨からみた中越式期―」、山梨県考古学協会、2013 年 12 月 8 日、於：帝京大学山梨文化財研究所）
「尻労安部洞窟（安部遺跡）」
（共同発表：金井 紋子・奈良 貴史・佐藤 孝雄・鈴木 敏彦・渡辺 丈彦・澤田 純明・千葉 毅・澤浦 亮平・萩原 康雄・ 平澤 悠・竹内 俊吾・高橋 鵬成・大西 凛、「平成 25 年度 青森県埋蔵文化財発掘調査報告会」、青森県公立発掘調査機関連絡協議会・青森県埋蔵文化財調査センター、2013 年 12 月 14 日、於：青森県総合社会教育センター）
「青森県尻労安部洞窟（安部遺跡）」
（共同発表：竹内 俊吾・金井 紋子・平澤 悠・澤浦 亮平・千葉 毅・澤田 純明・渡辺 丈彦・鈴木 敏彦・佐藤 孝雄・奈良 貴史、「第 27 回 東北日本の旧石器文化を語る会」東北日本の旧石器文化を語る会、2014 年 2 月 1 日、於：北海道大学）
「パーソナルファブリケーションを活用した縄文土器の展示」
（共同発表：桐山 孝司・木村 稔・千葉 毅、「画像電子学会 第 12 回画像ミュージアム研究会」、画像電子学会、2014 年 2 月 28 日、於：(財)電磁応用研究所）
「土器様相からみた加曽利 EV 式と称名寺式土器の相互作用」
(「縄文研究の地平 2014―縄文時代中期末葉から後期初頭の文化変化―」、2014 年 3 月 8 日、於：中央大学)
「神奈川県の土偶 ―相模原市域―」
(「第 11 回　土偶研究会」、土偶研究会、2014 年 3 月 15 日、於：青森県八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館)

7　縄文時代の人々の交流や移動、あるいは情報の動きをテーマにした研究
南関東地方を中心とした地域をフィールドとして、遺構や遺物に周辺地域からの影響や要素を見出し、

それらが流入する背景やその仕方、あるいは時間的な変化について検討している。
横浜市日吉周辺に存在している、太平洋戦争期に構築された戦争遺跡の基礎的な調査。
当館所蔵の考古資料のうち、当館が発掘調査したものを中心とした資料群の現在的視点からの再整理、再検討。

寺嵜 弘康(学芸部長・歴史・現代)
1(3)「横浜正金銀行員の肖像写真－川島忠之助資料から－」
(『神奈川県立博物館研究報告 －人文科学－ 』第40号　2013年10月)
5　首都圏形成史研究会常任委員
7　横浜正金銀行頭取及び役員の旧蔵資料の整理と分析を継続して実施した。

古宮 雅明(企画普及課長・専門学芸員・歴史・近世)
3　特別展図録「江戸時代 かながわの旅 －『道中記』の世界－ 」
(総論、資料解説分担執筆、pp.1-96、神奈川県立歴史博物館、2013年4月26日)
4　「江戸時代 かながわの旅－『道中記』の世界－　1　旅を楽しくする案内書」
(『毎日新聞』2013年4月27日)
「江戸時代 かながわの旅－『道中記』の世界－　3　手ごろな旅の好適地」
(『毎日新聞』2013年5月26日)
6　県博講座「道中記の世界」第1回「道中記入門」(2013年5月11日)
県博講座「道中記の世界」第4回 現地見学会「東海道を歩く-平塚宿から大磯宿へ-」
(2013年5月29日)
秦野市中学校社会科教科研究会「富士山宝永噴火による秦野地域の被災と復興」
(2013年11月12日　於：秦野市立鶴巻中学校)
7　街道絵図の研究。道中記を中心とした江戸時代の旅文化の研究。江戸時代の自然災害史の研究。

嶋村 元宏(主任学芸員・歴史・近代)
1(1)「松代藩とペリー来航」
(長野市教育委員会　文化課／松代文化施設等管理事務所(真田宝物館)『松代藩と黒船来航』pp. 1-6、2013年9月)
(2)「コレクション展示アメリカ人女性が巡った明治の日本」
(『神奈川県立歴史博物館だより』Vol.19、No.3、通巻199号、pp.6-8、2013年12月3日)
6　関東地区ＪＡ情報センター会議　講演会講師「横浜開港史」(2013年7月13日)
横浜市教育委員会　指導技術養成講座講師「授業に役立つ教材開発」～明日の授業に役立つ教材を集めよう！～(2013年8月1日)
大和市教育委員会　やまと市民大学『 幕末・明治維新と神奈川』講師「「鎖国」から開国へ～アジアにおける日本開国の位置づけ～」(2013年8月23日)
真田宝物館特別企画展『松代藩と黒船来航』記念講演会講師「松代藩とペリー来航」
(2013年11月16日)
7　「19世紀中葉の国際秩序の変容」をメインテーマに研究を継続した。
特に、上半期はペリー来航時の横浜警衛を担った信州松代藩の動向について国文学研究資料館所蔵資料を対象に追究し、下半期は前年度にとりまとめを行った当館所蔵「ウィリアムズ女史日本旅行記念収集資料」を中心としたコレクション展示準備を行った。

桑山 童奈(主任学芸員・美術・近世)
3　「江戸時代かながわの旅　－『道中記』の世界－」
(分担執筆、pp.1-96、神奈川県立歴史博物館2013年4月26日)
4　「江戸時代 かながわの旅－『道中記』の世界－　2　浮世絵にみる名所」
(『毎日新聞』2013年5月1日)
「江戸時代 かながわの旅－『道中記』の世界－　4　必要な情報を一目で」
(『毎日新聞』2013年6月13日)

5　国際浮世絵学会理事、企画委員
6　県博講座「道中記の世界」第3回　「描かれたかながわ」（2013年5月18日）
やまざくら～自然と歴史の会～「「江戸時代における神奈川への旅」(2013年6月22日)
2013年度明治大学人文科学研究所公開文化講座「〈横浜浮世絵〉の位置」
(2013年11月30日、『明治大学人文科学研究所紀要』第75号、2014年、に収録)
7　科学研究費の調査および常設展示テーマ3、4の充実を目指した。

丹治 雄一 (主任学芸員・歴史・近代)
1(1)報告書『日本銀行と横浜正金銀行の建築―神奈川県立歴史博物館総合研究報告書―』
(中村 茂樹・伊藤 稔・関口 かをりとの共著、pp.1-80、神奈川県立歴史博物館、2014年3月)
「神奈川県庁」「横浜税関」（文化庁文化財部記念物課編『近代遺跡調査報告書―政治（官公庁等）―』、pp.41-45,103-107、文化庁文化財部記念物課、2014年3月）
(2)「神奈川県庁本庁舎旧貴賓室に飾られている綴織額について―特別展『キングの塔』誕生！開催のための調査でわかったこと―」（『神奈川県立歴史博物館だより』Vol.19、No.1、通巻第193号、pp.1-5、2013年6月）
3　特別展図録『「キングの塔」誕生！―神奈川県庁本庁舎とかながわの近代化遺産―』
（編著、神奈川県立歴史博物館、pp.1-88、2013年7月）
4　「秘話　キングの塔　上　圧巻　大シャンデリア」（『読売新聞』、2013年8月17日）
「秘話　キングの塔　中　貴賓室の額絵　実は織物」（『読売新聞』、2013年8月20日）
「秘話　キングの塔　下　氷川丸との共通点は」（『読売新聞』、2013年8月22日）
5　首都圏形成史研究会常任委員
6　神奈川県庁本庁舎一般公開建物見学ツアー講師（2013年5月5日）
MUFG(三菱UFJフィナンシャルグループ)エクステンションカレッジ「当行の源流に学ぶ」講師
「旧横浜正金銀行本店本館について」(2013年6月22日)
神奈川県文化財協会見学会講師
「特別展『キングの塔』誕生！―神奈川県庁本庁舎とかながわの近代化遺産―と神奈川県庁本庁舎建築について」（2013年8月8日）
横浜シティガイド協会例会講師
「特別展『キングの塔』誕生！と神奈川県庁本庁舎建築について」（2013年9月14日）
神奈川県建築士会「図説　近代神奈川の建築と都市」講演会&見学会講師
「旧横浜正金銀行本店本館について」(2014年3月27日)
7　特別展「『キングの塔』誕生！―神奈川県庁本庁舎とかながわの近代化遺産―」を担当した。その出品候補資料の調査過程では、旧貴賓室に飾られている織額や同室の衝立の制作者を特定し、その原画が現存していることを確認するなど、新たな成果を見い出すことができた。
また、3年計画で取り組んできた総合研究「近代日本の銀行建築に関する建築史的研究」では、研究期間最終年度の取りまとめとなる報告書を編集・発行した。

角田拓郎(学芸員・美術・近代)
1(1)共著『近代美術の名作150』　(担当：五姓田義松ほか) (美術出版社　2013年4月)
共著『日本美術全集　第16巻　激動期の美術』　(担当：五姓田義松ほか) (小学館　2013年10月)
「『國華』の確立―瀧精一・辰井梅吉体制下の模索」
(『美術フォーラム21』28、醍醐書房、2013年11月)
「動乱の國華社―『國華』変質の舞台裏―」(『近代画説』22、明治美術学会、2013年12月)
「「高橋由一工房」という可能性」
(『新出と既知の高橋由一「西周像」』研究報告書、神奈川県立近代美術館、2014年2月)
2　「新出の岩橋教章資料について」(第12回版画史研究会、2013年7月27日)
「拙稿『美人画から風俗画へ―鏑木清方の官展再生論―』を読む」（美人画研究会、2013年8月9日）
「『國華』草創期から計世紀への蛇行―朝日新聞大阪本社社史資料を中心に―」
(明治美術学会例会、2013年9月7日、於：東京大学)
3　特別展図録『第三の男・KANZAN　下村観山』(駿府博物館、2014年1月)

6　「高橋由一」
(連続講座「19 世紀を歩く」、多摩美術大学生涯学習センター、2013 年 6 月 8 日、於：中町ふれあいホール)
「資料から読み解く下村観山」(2014 年 2 月 1 日、於：駿府博物館)

7　橘忠助氏旧蔵美術資料群に関する調査研究、特に五姓田義松関係資料群について。
日本学術振興会科学研究費助成事業「若手研究（B） 洋風画・洋画を中心とした十九世紀日本絵画史の構築に関する基礎研究」(平成 24 年度～26 年度　課題番号：80435825　研究代表：角田 拓朗)を推進した。「基盤研究（C） 新出と既知の高橋由一作《西周像》について」(平成 23 年度～25 年度　課題番号：23520140　研究代表：長門佐季)の分担研究者として、特に高橋源吉について調査研究をおこない、その事績をまとめた。さらに、前年度におこなったポーラ美術振興財団助成調査研究事業「『國華』創刊に関する研究 ―新出の高橋健三資料を中心として―」の延長線上に位置する研究を継続した。
　また、駿府博物館が開催した特別展「第三の男 KANZAN　下村観山」に企画協力し、その展示内容や構成、図録の編集などをおこなった。

新井 裕美(学芸員・民俗)

3　「当館の御札・御守コレクションについて」
(『神奈川県立歴史博物館だより』Vol.19、No.2、通巻 194 号、pp.6-8、2013 年 9 月 1 日)

7　死者供養・他界観・道祖神に関する継続的な研究を実施している。

武田 周一郎(非常勤学芸員・歴史・現代)

2　「横浜正金銀行行員の経歴に関する資料整理について」
(神奈川県立歴史博物館平成 25 年度調査研究成果報告会、2014 年 3 月 11 日)

7　横浜正金銀行頭取及び役員の旧蔵資料整理。同行行員の経歴に関する資料整理。

根本 佐智子（非常勤学芸員・歴史・近世）

7　近世初期の後北条氏遺臣の研究、松平造酒助江戸在勤日記の翻刻、収蔵資料の整理、常設展示テーマ３の充実。

中村 茉貴（非常勤資料整理員）

1(3)「研究ノート『蕨画塾』―長谷秀雄と若山順子―」
(『美術運動史』NO.139.pp.6-15、美術運動史研究会、2013 年 10 月 30 日)

7　蕨画塾の塾生が保管する写真・書簡等の史料調査および塾長の長谷秀雄をはじめ塾に関わっていた人物についての調査を進めている。

4　資料収集・修理・保管・利用

<凡例>
ア 購入、　イ 寄贈・寄託・借用、　ウ 修理、　エ 貸出、　オ 特別利用、　カ その他

(1)　考古資料

イ　寄贈・寄託・借用
(借用)

№	資　料　名	件―点	当初借用年月日
1	宗元寺軒瓦 外	1件1,088点	昭和46年　1月　1日
2	壺(横須賀高校裏山遺跡) 外	1件3点	平成 7年　2月 10日
3	饒益神宝(中原上宿遺跡出土)	1件1点	平成 8年　3月　1日
4	藤沢市代官山遺跡出土土器 外	1件283点	平成21年　3月　1日
5	相模原市川尻中村遺跡出土土器　外	1件16点	平成23年　8月 19日
6	平塚市湘南新道関連遺跡　外	1件218点	平成23年 12月 27日
7	綾瀬市寺尾遺跡出土石器　外	1件209点	平成24年　3月　9日
8	藤内式土器(久野一本松遺跡12号土坑出土) 外	4件4点	平成24年　7月 12日
	合　　計	11件1,822点	

エ　貸出

№	申請者・目的	資　料　名	件―点	利用方法	利用期間
1	横浜市末吉地区センター１Ｆロビー 地域の文化財に対する啓発	小林幸雄氏コレクション	1件72点	展示	平成25年 4月 1日 ～ 平成28年 3月31日
2	横浜市歴史博物館 レプリカ制作	縄文土器 (注口土器)	1件 1点	展示	平成25年11月21日 ～ 平成26年 2月28日
		合　　計	2件73点		

オ　特別利用

№	申請者・目的	資　料　名	件―点	利用方法	利用期間
1	京都大学文化財総合研究センター 調査研究	横浜市称名寺貝塚出土 縄文土器	1件1点	熟覧、写真撮影、メモ	平成25年 3月7日

(2)　歴史資料

ア　購入

№	資　　料　　名	件―点
1	土屋宗直軍忠状	1件1点

資料の概要：　土屋氏は桓武平氏中村氏族。中村庄司宗平の子孫宗遠から土屋氏を名乗る。相模国大住郡土屋郷（平塚市土屋）を本貫地とした。当該地で有力武士団として頼朝挙兵時には従軍している。相模三浦氏とは親戚関係。鎌倉時代を通じて御家人として活躍した氏族である。文書作成当時は足利尊氏配下にあり、室町幕府成立後は関東管領上杉氏の配下である。土屋氏の一部は河内国伊香賀郷の地頭職を拝領しており、本文書は内容から河内国に由緒を持った孫次郎家に伝来したものであろう。

イ　寄贈・寄託・借用

(寄贈)

№	寄贈主	資　　料　　名	件一点
1	個人(神奈川県在住)	大磯鈴木邸絵葉書	1件4点
2	個人(神奈川県在住)	箱根底倉温泉千石屋旅館絵葉書	1件2点
3	個人(神奈川県在住)	満州国国宝展覧会絵葉書	1件20点
4	個人(神奈川県在住)	割増金附勧業債券	1件206点
5	個人(神奈川県在住)	割増金附勧業債券	1件28点
6	個人(神奈川県在住)	割増金附勧業債券	1件8点
7	個人(神奈川県在住)	割増金附勧業債券	1件1点
8	個人(神奈川県在住)	割増金附勧業債券	1件1点
9	個人(神奈川県在住)	応召幟	1件1点
10	個人(神奈川県在住)	出征幟	1件1点
11	個人(神奈川県在住)	東京オリンピックグッドウィルガイドバッジ	1件1点
12	個人(静岡県在住)	大正十二年震災救援出動間行動詳報陣中日誌綴	1件1点
		合　　計	12件274点

(寄託)

№	資　　料　　名	件一点	当初寄託年月日
1	帝政ロシア製32ポンド砲(旧居留地90番出土の大砲)	1件1点	平成16年 2 月 1 日
2	長谷川家文書	1件22点	平成23年 2 月17日
3	大太鼓	1件1点	平成23年 2 月18日
	合　　計	3件24点	

(借用)

№	資　　料　　名	件一点	当初借用年月日
1	烏帽子形兜	1件1点	昭和43年10月22日
2	古瀬戸瓶子	1件1点	昭和45年 9 月 1 日
3	刀片(三増合戦場出土)	1件1点	昭和47年 6 月10日
4	関山家文書	1件24点	昭和47年 9 月 8 日
5	久崎家文書	1件197点	昭和47年 9 月13日
6	瀬戸 四耳壺 外	1件3点	昭和48年 7 月 1 日
7	渥美 灰釉壺 外	1件5点	昭和48年10月 1 日
8	本多家文書	1件953点	昭和49年 3 月 1 日
9	御用取締りのぼり	1件1点	昭和49年 4 月26日
10	嘆願書	1件1点	昭和52年 3 月23日
11	生麦村新地実測図(神奈川県令中島信行宛)	1件5点	昭和52年12月 1 日
12	舊荻野山中建物之繪図 外	1件19点	昭和53年12月 1 日
13	寺井家文書	1件16点	昭和55年 2 月15日
14	散弾銃	1件1点	昭和55年 4 月 1 日
15	羽柴秀吉知行充行状　天正十一年六月五日付	1件1点	昭和58年 5 月20日
16	平本家文書	1件1,309点	昭和58年10月14日
17	黒船来航絵巻	1件1点	平成 4 年 5 月15日
18	日月鳳凰螺鈿鞍	1件1点	平成 4 年11月 1 日
19	旧小田原城天守閣模型	1件1点	平成 5 年12月15日
20	辰御年貢可納割付之事 外	1件2点	平成 6 年 7 月20日
21	享保十四年九月酉之内検見引楪 外	1件22点	平成 6 年10月 7 日

22	黒地竹矢来に小花模様小袖裂 外	1件11点	平成 8 年 2 月 1 日
23	長禄元年銘板碑　同破片	1件2点	平成13年 5 月 1 日
24	中国青磁 碗　線描き蓮弁文 外	1件50点	平成18年 6 月 1 日
25	茅ヶ崎市出土板碑関係(梵字板碑、破片)	1件4点	平成20年 7 月 1 日
26	旧横浜正金銀行本店本館改修工事関係資料 一括	1件1点	平成20年 9 月 1 日
27	旧横浜正金銀行本店本館彩色立面図 外	1件119点	平成22年10月15日
28	銅造　明治天皇立像　外	1件 3点	平成23年12月15日
29	唐船渡来ニ付御手配	1件 1点	平成24年 3 月 6 日
	合　　計	29件2,756点	

ウ　修理

(ｱ)　修理対象

脇差　（銘「相州住綱廣」）　一振

室町時代末期～桃山

（赤羽刀、№2009、官報№2136）

(ｲ)　対象の概要

作込み：平造

刃　長：53.7㎝

反　り：1.3㎝

目釘穴：1

茎　尻：栗尻

彫　物：なし

(ｳ)　修理の内容

刀身に発生した錆を除去するため、作業の状況に応じ複数の砥石を用い研磨を行った。また、保存のため鎺（金）と白鞘を新調した。

エ　貸出

№	申請者・目的	資　料　名	件一点	利用方法	利用期間
1	公益財団法人　馬事文化財団　馬の博物館 特別展 「鎌倉時代の馬と道」	赤糸威鎧(複製)	1件 1点	展示	平成25年 4月19日～ 6月19日
2	国立歴史民俗博物館 企画展 「時代を作った技－中世の生産革命」	北条雲画(複製) 北条氏康画像(複製) 善宝寺地絵図 善宝寺分年貢注文	4件 4点	展示	平成25年 6月12日～ 11月22日
3	真田宝物館 特別企画展示 「松代藩と黒船来航」	阿蘭陀別段風説書 日本遠征石版画集「ペリー肖像」 エチオピアンコンサートプログラム	3件 3点	展示	平成25年 8月23日～ 12月13日
4	鎌倉国宝館 特別展 「北条時頼とその時代」	北条時頼像 大日本名将鑑　最明寺時頼入道(月岡芳年) 芳年武者无類 相模守北条最明寺入道時頼(月岡芳年)	5件 5点	展示	平成25年 9月11日～ 11月12日

		鉢ノ木(桜井版)(歌川国芳) 鉢ノ木(松木平吉版)(小林清親)			
5	国立歴史民俗博物館 企画展 「中世の古文書ー機能と形-」	源頼朝袖判下文(建久三年九月十二日付) 将軍家政所下文(建久三年九月十二日付・複製)	2件 2点	展示	平成25年 9月24日～ 12月20日
6	川越市立博物館 企画展 「戦国時代の河越」	北条氏康画像(絹本) 北条氏政画像 鉄黒漆塗四十八間筋兜鉢	3件 3点	展示	平成25年 10月8日～ 12月7日
7	千代田区立日比谷図書文化館 文化財特別展	源頼朝袖判下文(複製)	1件 1点	展示	平成25年 10月15日～ 12月13日
8	茨城県立歴史館 特別展 「常陸南北朝史ーそして、動乱の中世へー」	紙本著色　足利尊氏像(神奈川県指定文化財) 絹本著色　一遍上人像(神奈川県指定文化財) 複製　永享六年三月十八日付　足利持氏血書願文	3件 3点	展示	平成26年 1月15日～ 3月31日
9	神奈川県立金沢文庫 特別展 「中世密教と<玉体安穏>の祈り」	神奈川県指定文化財　石清水八幡宮曼荼羅 両界曼荼羅 五大明王像 後醍醐天皇像(清浄光寺所蔵品の複製) 五大明王像 尊勝曼荼羅	6件 9点	展示	平成26年 2月6日～ 5月4日
		合　　計	28件 31点		

オ　特別利用

№	申請者・目的	資　料　名	件ー点	利用方法	利用期間
1	個人 調査研究	神奈川県管内之図	1件1点	閲覧 撮影	平成25年 9月13日
2	小田原市 調査研究	小田原城天守閣雛形 (東京国立博物館所蔵)	1件1点	撮影	平成25年 9月24日
3	個人 調査研究	近海見分之図	1件4点	閲覧 撮影	平成26年 2月26日
		合　　計	3件6点		

(3)　美術資料

ア　購入

№	資　　料　　名	件ー点
1	初代宮川香山作　「青磁向獅子香炉」	1件1点
2	初代五姓田芳柳筆　藻谷伊作君息故民女真像	1件1点
	合　　計	2件2点

名　称：初代宮川香山作　「青磁向獅子香炉」
員　数：１基
法　量：高 16.7 ㎝　幅 11.5 ㎝　丈 16.4 ㎝
説　明：　頭部と体部を取り外しできるようにした獅子型の空炷用香炉。獅子は四脚を伸ばして立ち、顔はわずかに右方に向ける。頭部のたてがみの一部を透かし、火舎とする。白磁の素地に足指や筋肉の盛り上がりや毛筋を表し、灰青色の青磁釉を厚く掛ける。体部内側にも施釉。腹部に、方印形の「真葛」の陰刻を施す。

名　称：初代五姓田芳柳筆　　藻谷伊作君息故民女真像
員　数：１点
法　量：縦 135.8×横 48.6㎝（表装込）　縦 57.5×横 33.9㎝（画面）
説　明：　五姓田派の始祖である初代五姓田芳柳の肖像画。明治 16 年頃は北関東から北越へ画嚢を肥やしていた時期にあたり、落款等から見てもその折の制作とみて間違いない。妙齢の女性だが、落款にあるように故人を描いたため、おそらくは写真をもとに描いたと考えられ、軸裏には「母之像」という書き込みもあることから、追善を目的とした制作であることが判明する。簪や帯、襟を、鮮やかな色彩で描き、特に帯の細やかな文様表現を丹念におうところは初代芳柳の画力をうらなう上でも貴重な作といえる。

イ　寄贈・寄託・借用

(寄贈)

№	寄贈主	資料名	件一点
1	個人(神奈川県在住)	後陽成天皇和歌一首	一幅

(寄託)

№	資　料　名	件一点	当初寄託年月日
1	江の島関係浮世絵コレクション	88 点	昭和 56 年 4 月　1 日
2	重要文化財　木造他阿真教坐像	1 点	平成 17 年 5 月 24 日
3	束帯天神像 外	9 点	平成 21 年 4 月 24 日
4	祖栄筆　柳に鷺図 外	18 点	平成 21 年 8 月　1 日
5	眞葛焼	19 点	平成 22 年 3 月　1 日
6	高浮彫牡丹ニ眠猫覚醒大香炉 外	5 点	平成 24 年 3 月 27 日
7	龍神立像	1 点	平成 25 年 4 月 25 日
8	潘閬図右都御史筆	1 点	平成 25 年 7 月　2 日
9	阿羅漢図	3 点	平成 25 年12 月　1 日
	合　　計	145 点	

(借用)

№	資　料　名	件一点	当初借用年月日
1	県重要文化財　紙本墨画淡彩　十六羅漢図	1 件 17 点	昭和 44 年 3 月　1 日
2	県重要文化財　絹本著色　熊野権現影向図	1 件 1 点	昭和 44 年 3 月　1 日
3	県重要文化財　絹本著色　両界曼荼羅図 外	1 件 37 点	昭和 44 年 7 月　1 日
4	東山天皇即位図屏風	1 件 1 点	昭和 47 年 6 月 17 日
5	常滑印花文壺 外	1 件 12 点	昭和 48 年 3 月　1 日
6	東海道図屏風	1 件 1 点	昭和 49 年 7 月　1 日
7	源氏物語図屏風	1 件 1 点	昭和 50 年 3 月 10 日

8	絹本著色　七星如意輪曼荼羅図	1件25点	昭和 50 年 6 月　1 日
9	横浜浮世絵	1件473点	昭和 52 年 1 月 10 日
10	張交屏風	1件1点	昭和 52 年 7 月 15 日
11	下村観山デスマスク 外	28件414点	昭和 53 年 4 月　1 日
12	木造薬師如来坐像	1件1点	昭和 56 年 2 月 25 日
13	大小暦コレクション(長谷部コレクション)	1件40点	昭和 59 年 4 月　1 日
14	双六(下村観山)	1件1点	昭和 59 年 7 月　1 日
15	鴉図 外(以天宗清)	1件2点	昭和 63 年 7 月　7 日
16	短刀(チャールズ・ワーグマン所用)	1件1点	平成　2 年 8 月 25 日
17	江島金沢八景図屏風 外	1件4点	平成　4 年12 月　1 日
18	本牧風景 外	1件2点	平成　5 年 6 月 15 日
19	鶴岡八幡宮境内出土品の内　板草履の芯 外	1件19点	平成　7 年 3 月　1 日
20	梵鐘	1件1点	平成 10 年 1 月　1 日
21	仁清意鶏形香合 外	1件4点	平成 12 年 3 月　1 日
22	俵藤太絵巻	1件5点	平成 12 年 5 月　1 日
23	好色十二候 外(喜多川歌麿)	1件12点	平成 12 年12 月 20 日
24	箱根権現縁起絵巻　付 納入箱	1件2点	平成 13 年 8 月　1 日
25	闘鶏下絵 外(下村観山)	1件3点	平成 21 年 3 月　1 日
26	高浮彫大鷲雀捕獲花瓶　外	1件5点	平成 23 年10 月　8 日
27	高浮彫桜ニ群鳩大花瓶　外	1件2点	平成 23 年10 月　8 日
	合　　計	54件1,087点	

エ　貸出

№	申請者・目的	資　料　名	件-点	利用方法	利用期間
1	富士市立博物館 特別展 「鳥の目から見た富士～鳥瞰図の世界」展	神奈川県鳥瞰図	1件1点	展示	平成25年 7月 1日 ～ 10月6日
2	三井記念美術館 特別展 「大妖怪展－鬼と妖怪そしてゲゲゲ－」展	名所江戸百景　王子装束ゑの木大晦日の狐火(初代　歌川広重)	1件1点	展示	平成25年 6月20日 ～ 9月13日
3	横須賀美術館 企画展 「日本の『妖怪』を追え！」	平清盛怪異を見る図（初代　歌川広重） 新形三十六怪撰　皿やしき於菊の霊（月岡芳年） 新形三十六怪撰 清盛福原に数百の 人頭を見る図」(月岡芳年)	3件3点	展示	平成25年 7月 6日 ～ 9月 8日
4	鎌倉国宝館 特別展 「国宝鶴岡八幡宮古神宝」	石清水八幡宮曼荼羅	1件1点	展示	平成25年 7月24日 ～ 9月25日
5	一般財団法人神奈川県建築安全協会 「彩色立面図に見る近代建築－岡義男氏作品－展示会」	旧三井物産横浜支店 赤レンガ倉庫２号館 旧柳下邸 横浜ユナイテッドクラブ 横浜市役所	20件20点	展示	平成25年 8月23日 ～ 9月17日

		富士屋ホテル本館			
		旧生糸検査所(国合庁)			
		旧第一銀行横浜支店(ＹＣＣ)			
		旧横浜商工奨励館(情文Ｃ)			
		大倉山記念館			
		横浜海岸教会			
		横浜銀行協会			
		日本郵船歴史博物館			
		横須賀鎮守府司令長官官舎			
		華頂宮邸			
		鎌倉文学館			
		横浜ゴム平塚記念館			
		秦野五十嵐商店			
		鎌倉教会会堂			
		藤沢体育センター・グリーンハウス			
6	町田市立国際版画美術館 「縁起もの　版画と町絵画で楽しむ吉祥図像」展	大黒を夢に見る美人(鳥居清長)	15件15点	展示	平成25年 9月28日 ～ 11月24日
		土蔵前で俵を作る布袋と大黒と弁天(北尾政美)			
		紅牡丹に白蝶(勝川春扇)			
		無題：宝珠を描きおえた紙をもつ金太郎と山姥の喜び(初代　喜多川歌麿)			
		南天に小鳥(初代　喜多川歌麿)			
		一富士二鷹三茄子の初夢を見る大黒天(春斎英笑)			
		宝船に七福神の集い(初代　歌川広重)			
		高波に富士(初代　歌川広重)			
		海辺の松に富士(初代　歌川広重)			
		波の寄せる岩頭に立つ丹頂鶴(初代　歌川広重)			
		日の出に松上の鷹((初代　歌川広重)			
		日の出に松上の鶴(初代　歌川広重)			
		月下水辺の虎　花鳥(渓斎英泉)			
		亀　他二図(初代　歌川広重)			
		牡丹に蝶(歌川重宣)			
7	桑名市博物館 特別企画展 「北斎・広重・国芳―浮世絵に見る東海道五十三次・桑名―」展	東海道五拾三次之内　桑名：保永堂版(初代　歌川広重)	6件6点	展示	平成25年 10月 5日 ～ 11月30日
		無款　東海道五十三次　くわな(葛飾北斎)			
		東海道　四十三　五十三次　桑名(初代　歌川広重)			
		東海道五十三次　四十三　桑名(二代　歌川広重)			
		東海道五十三次　四十四　桑名(三代　歌川広重)			
		東海道写真五十三次勝景のうち後編上(五雲亭貞秀)			

8	公益財団法人 馬事文化財団 馬の博物館 企画展 「馬のアート展コミック編」	1865年　9月号　ジャパンパンチ復刻版 1866年　1月号　ジャパンパンチ復刻版 1866年　3月号　ジャパンパンチ復刻版 1866年　4月号　ジャパンパンチ復刻版 1868年 12月号　ジャパンパンチ復刻版 1869年　1月号　ジャパンパンチ復刻版 1882年　1月号　ジャパンパンチ復刻版 1882年　5月号　ジャパンパンチ復刻版 1883年11月号　ジャパンパンチ復刻版 1884年　2月号　ジャパンパンチ復刻版 1884年11月号　ジャパンパンチ復刻版 1884年12月号　ジャパンパンチ復刻版 1886年11月号　ジャパンパンチ復刻版 合冊A　1880年1～12月 1880年　6月号　ジャパンパンチ復刻版 合冊B　1881年1・2・3月号 1881年　2月号　ジャパンパンチ復刻版	17件17点	展示	平成25年 9月17日 ～ 12月13日
9	埼玉県立歴史と民俗の博物館 特別展 「狩野派と橋本雅邦」	橋本雅邦筆　双竜図屏風 橋本雅邦遺品　筆・刷毛	2件7点	展示	平成25年 9月20日 ～ 12月10日
10	江戸東京博物館 名古屋市博物館 山口県立博物館 特別展 「国際浮世絵学会創立五十周年記念展　大浮世絵展」	高砂の尉と媼　(奥村利信) 九郎助稲荷の鳥居の前に立つ遊女若松と禿(磯田湖龍斎) 藤下橋上男女(磯田湖龍斎) 青楼名君自筆集　瀬川　松人(北尾政演) 青楼名君自筆集　あふぎや　滝川　花扇(北尾政演) 青楼名君自筆集 まつがねやうち　東家九重(北尾政演) 青楼名君自筆集　よつめや　歌川　なな里(北尾政演) 青楼名君自筆集　角玉屋　濃紫　花紫(北尾政演) 青楼名君自筆集　てうしや　ひなつる　てう山(北尾政演) 青楼名君自筆集　大もんしや　ひともと　たか袖（北尾政演) 大当狂言ノ内　八百屋お七(三代　歌川豊国) 大当狂言ノ内　大工六三郎(三代　歌川豊国) 星の霜当世風俗(三代　歌川豊国) 江戸自慢　四万六千日(三代　歌川豊国) 諸国瀧廻り　相洲大山ろうべんの瀧(葛飾北斎) 青楼美人合　松葉屋内粧ひ華妻(菊川英山)	22件22点	展示	平成25年 12月 1日 ～ 平成26年 7月31日

		青楼五節句遊　七夕(菊川英山)			
		両国涼之図(菊川英山)			
		浮世風俗美女競(渓斎英泉)			
		江戸高輪之景(渓斎英泉)			
		日光山名所之内　素麺之滝(渓斎英泉)			
		芳沢いろは(流光斎)			
11	千葉市美術館 企画展 「江戸の面影－浮世絵は何をえがいてきたか」	雛形若菜の初模様　角玉屋内みやと(磯田湖龍斎)	10件10点	展示	平成26年 1月 8日 ～ 3月20日
		小児の用を達させる母と娘(鳥居清長)			
		浅草観音奉拭額之図　　扇屋内滝川(喜多川月暦)			
		冨嶽三十六景　東都浅草本願寺(葛飾北斎)			
		名所江戸百景　両国花火(初代　歌川広重)			
		名所江戸百景　猿わか町よる乃景(初代　歌川広重)			
		名所江戸百景　亀戸梅屋舗(初代　歌川広重)			
		東都富士見三十六景　昌平坂の遠景(歌川国芳)			
		北廓月の夜桜(三代　歌川豊国)			
		逢妓八契　冨ヶ岡の時雨(渓斎英泉)			
12	練馬区立石神井公園ふるさと文化館 特別展 「江戸の食文化」	日本橋魚市繁栄図(歌川国安)	5件5点	展示	平成26年 1月16日 ～ 3月25日
		江戸じまん名物くらべ　こま込のなす(歌川国芳)			
		江戸じまん名物くらべ　すな村のとうなす(歌川国芳)			
		東都名所高輪廿六夜待遊興之図(初代　歌川広重)			
		東都名所　日本橋真景并に魚市全図(初代歌川広重)			
13	大阪市立美術館 特別展 「山の神仏」	熊野権現影向図	1件1点	展示	平成26年 3月 1日 ～ 6月30日
		合　　計	104件 109点		

オ　特別利用

№	申請者・目的	資　料　名	件―点	利用方法	利用期間
1	個人 調査研究	西田武雄著　高橋由一関係記事原稿	1件1点	閲覧	平成25年 11月21日
		西田武雄著　五姓田義松履歴調査ノート	1件1点		
		西田武雄著　五姓田芳柳履歴調査ノート	1件1点		
		西田武雄宛　葉書	1件1点		
		版画略史と技法解説	1件1点		
		ああ二千六百有余年	1件1点		
		合　　計	6件6点		

(4) 民俗資料

イ 寄贈・寄託・借用

(借用)

№	資　　料　　名	件―点	当初借用年月日
1	階段 外	1件4点	昭和43年 4 月 1 日
2	神楽面 外	1件151点	昭和44年12月11日
3	お食初め膳 外	1件3点	昭和46年10月23日
4	燭台	1件1点	昭和47年 3 月 6 日
5	長持 外	1件2点	昭和47年 3 月 6 日
6	お歯黒さし 外	1件2点	昭和47年 3 月 8 日
7	お歯黒の道具	1件1点	昭和47年 3 月11日
8	ミノ	1件2点	昭和47年 7 月11日
9	天狗の面 外	1件3点	昭和48年 2 月27日
10	帳場格子 外	1件15点	昭和48年 3 月 2 日
11	結納樽	1件1点	昭和48年 4 月 1 日
12	スエヒロ	1件3点	昭和48年 8 月20日
13	鏡台と鏡 外	1件4点	昭和49年 4 月26日
14	張子面木型	1件7点	昭和51年 6 月19日
15	獅子皿 外	1件9点	昭和54年 3 月 1 日
16	婚礼用具	1件1点	昭和54年 3 月 1 日
17	足踏み脱穀機	1件2点	平成 6 年 4 月15日
	合　　計	17件211点	

エ 貸出

№	申請者・目的	資　料　名	件―点	利用方法	利用期間
1	横浜市歴史博物館 企画展 「昔のくらしと年中行事― ちょっとむかしのよこはま ―」	カセドリの道具(横浜市緑区川向町) ノウギ一式(藤野町牧野)	2件18点	展示	平成26年 1月15日 ～ 4月5日

オ 特別利用

№	申請者・目的	資　　料　　名	件―点	利用方法	利用期間
1	横浜市歴史博物館	カセドリの道具（横浜市緑区川向町）	1件10点	閲覧	平成25年 12月13日
		ノウギ一式（藤野町牧野）	1件13点		
		ノウギ（藤野町鎌沢）	1件28点		
		合　　計	3件51点		

(5) 写真資料

ア 平成25年度写真撮影資料

(ｱ) 特別展図録用

- 「『キングの塔』誕生！―神奈川県庁本庁舎とかながわの近代化遺産―」
- 「こもんじょざんまい―鎌倉ゆかりの中世文書―」
- 「明治大学　クリスチャン・ポラック　コレクション　繭と鋼―神奈川とフランスの交流史―」

(ｲ) コレクション展示用

・「アメリカ人女性が巡った明治の日本」

(ｳ) 特別陳列用

・「眞葛焼　―田邊哲人コレクションと館蔵の名品―」

(6) 資料の燻蒸等

原則として、IPM(総合的病害虫管理 Integrated Pest Management)に基づき、薬剤による定期的な燻蒸は行っていないが、設備の老朽化に伴い収蔵環境が不安定になったことから、考古、民俗、絵画収蔵庫を対象とした密閉燻蒸を実施した。また、年間を通して定期的に館内の虫菌相･保存環境調査を実施し、必要に応じて脱酸素剤による処理を行なっている。

(7) その他の資料

ア 図書

平成25年度図書資料の状況は次のとおりである。大学等の関係機関からの寄贈も多く、当館の貴重な資料として活用されている。

受入種別	購入	寄贈	計	総数	ライブラリー公開数
図　　書(冊)	2	417	419	18,693	4,290
逐次刊行物(タイトル)	21	33	54	3,747	78

※逐次刊行物はタイトル数で、寄贈は新規のみの数値。

イ 映像

ライブラリーのおよそ300本のビデオテープやDVDが利用できる。分類は次のとおり。

A 古代、B 中世、C 近世、D 近代、E 現代、F 民俗、G 当館・博物館、H 日本の歴史、I その他

ウ 写真

展示・調査研究資料として、収蔵資料を中心に撮影したフィルム99,763枚を保存し、データベース化するとともに、写真の特別利用として貸出しを行っている。

特別利用件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件　数	14	22	14	21	29	16	26	21	26	24	11	29	253
点　数	41	54	75	61	56	29	68	78	65	91	22	42	682

エ 情報システム

(ｱ) システム整備の目的と背景

・学習の支援

・高度な知的ニーズへの対応

・博物館活動の活性化、効率化

・研究活動の高度化

各種アプリケーションの利用

博物館が所有する情報の活用

・情報公開

博物館の再編整備の方向（「県立博物館整備構想に関する提言」昭和63年度）
(1) 高度情報化社会における自然・文化の情報センター (2) 映像資料等、新しい形態の資料の収集・保存と活用の拠点 (3) 内外の博物館、学習文化施設等とのネットワークの拠点

(ｲ) システム開発と運用

システム基本設計・詳細設計	平成 5 年度
システム運用開始	平成 7 年度
システム更新	平成 13 年度、平成 17～18 年度、平成 23 年度

(ｳ) 稼動しているシステム（「デジタルミュージアム」）の内容

ａ 展示情報システムの内容

ミュージアムライブラリーに設置された 3 台の来館者用パソコンで提供。一部の資料については、高精細の拡大画像も提供。

従来、館内利用に限定されていた展示情報システムは、当館のホームページに掲載され、利用者が自宅や学校で閲覧可能(タイトルのうち、№2 絵馬、№5 水墨画、№11 収蔵コレクションは除く)。

№	タイトル	内容
1	浮世絵	博物館所蔵の約 7,000 点ある浮世絵の中から、浮世絵の歴史、神奈川を描いた浮世絵、横浜浮世絵、著名な浮世絵師たち、一枚の絵から見る江戸時代の風俗など、テーマごとに選択した 230 点の浮世絵を紹介。
2	絵馬	神奈川県でよく見ることが出来る絵馬や珍しい絵馬など 125 点を紹介。
3	関東大震災	震災時の惨状等を伝える写真資料 70 点を紹介。
4	古地図・絵地図	当館収蔵の古地図の中から 50 点を紹介。館内端末では拡大画像により、細部まで見ることが可能。
5	水墨画	平成 10 年度に開催した水墨画の特別展に出品された作品の中から代表的な作品 85 点を紹介。
6	横浜正金銀行	かつて世界三大為替銀行の一つに数えられた横浜正金銀行の写真資料 221 点を紹介。
7	眞葛焼	かつて世界に名を知られた横浜の焼き物の中から 46 点を紹介。
8	後北条氏関係文書	戦国大名北条氏の多様な文書の世界を人物などとともに 118 点を紹介。
9	東海道分間絵図	東海道の情景を描いた道中案内記(1 件 5 冊)を紹介。拡大画像により、細部まで見ることが可能。
10	県有形民俗文化財 職人の道具コレクション	神奈川県指定有形民俗文化財「神奈川の職人の道具コレクション」(17 職種 1,982 点)のうち、大山木地師、小田原物差職人、下駄職人、傘職人の道具など、338 点を紹介。
11	収蔵コレクション	収蔵データベースの一部について、概要を一覧形式で提供する。 考古：206 点、中世文書 95 点、彫刻：14 点、中世絵画 80 点、 浮世絵：117 点、近代歴史資料 260 点、近代絵画 156 点、民俗 306 点

※この他に、神奈川県立生命の星・地球博物館が作成・提供している「神奈川の自然」「恐竜」「酒井コレクション細密画」「図書・雑誌検索」も閲覧が可能

ｂ 業務システムの内容

・収蔵資料管理システム

収蔵品管理機能、画像登録機能、受入管理機能、特別利用管理運用機能、各種帳票ラベル出力機能

・図書文献管理システム

(ｴ) システム構成

ａ 概要

・サーバＯＳ：Red Hat Enterprise Linux ES v3、Windows Server 2008

・クライアントＯＳ：Windows7

ｂ 設置機器

(a) 情報処理室・電源室

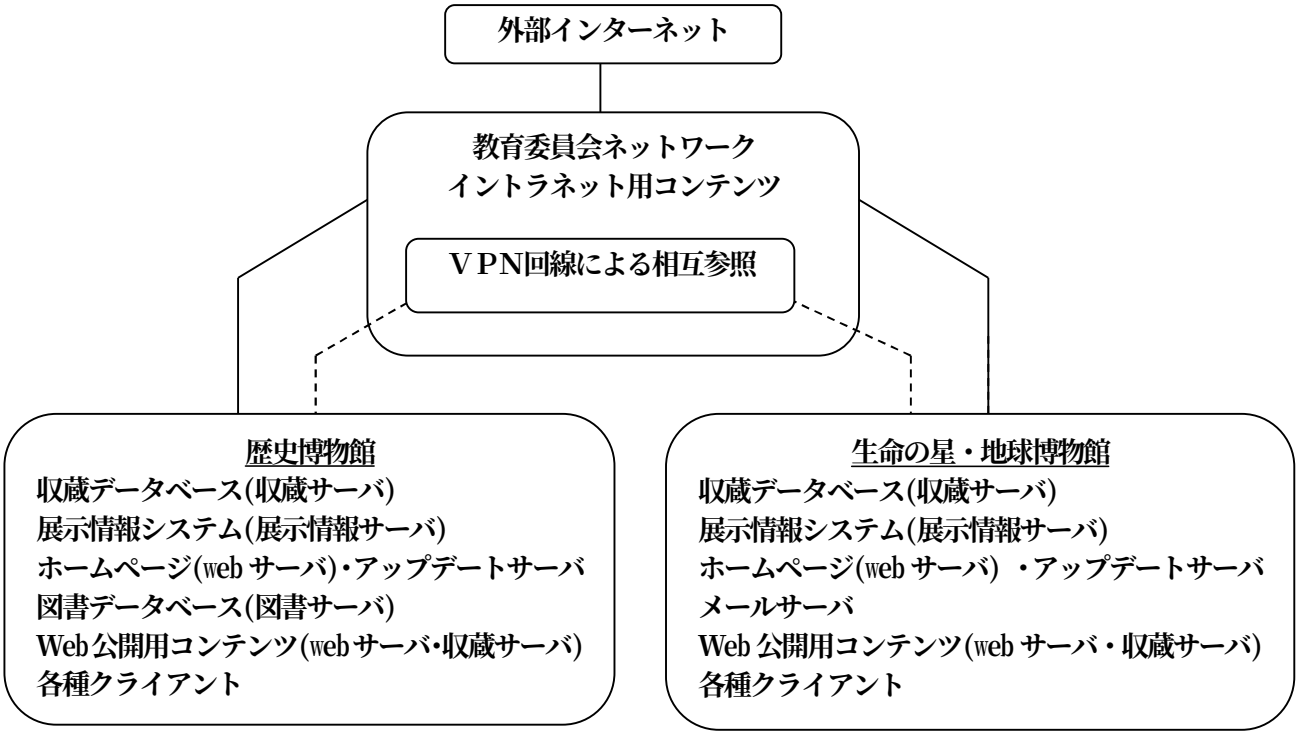
収蔵システムサーバ　1台、Web サーバ　1台、展示情報用サーバ　1台
アップデートサーバ　1台、図書サーバ　1台、作業用パソコン　7台

(b)　ミュージアムライブラリー
来館者用パソコン　3台
レファレンス用パソコン　2台

(c)　展示機材倉庫・印刷室
画像入力用パソコン　2台

(d)　学芸部室・学芸部各資料整理室・管理課室・企画情報部室・図書資料整理室・写真室・暗室
各室作業用パソコン　計36台

(オ)　歴史博物館システム機器構成図



(カ)　歴史博物館ホームページ　アクセス件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
ＨＰ	60,519	65,256	56,269	62,150	67,537	52,873	54,882	52,895	46,935	53,300	43,830	46,035	662,481
携帯	2,635	2,736	2,413	2,551	2,409	2,095	2,310	2,309	2,201	1,920	2,030	1,777	27,386
合計	63,154	67,992	58,682	64,701	69,946	54,968	57,192	55,204	49,136	55,220	45,860	47,812	689,867

参考(内数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
デジタルミュージアム	3,164	3,436	2,803	3,078	3,232	2,772	3,086	2,925	2,413	2,945	2,537	2,417	34,808
子ども向けページ	1,265	1,333	1,318	1,621	1,663	1,314	1,342	1,416	1,417	1,482	1,266	1,305	16,742

5　展示・教育普及・学習支援

(1)　常設展

当館の常設展示は「文化の交流と変容」という基本テーマに基づき、「かながわの文化と歴史」について、五つの時代に分け、それぞれのテーマのもとに、人々の生活や信仰、政治や経済の変化、外来文化の影響などを、さまざまな角度からとらえ、歴史的視点で展開している。

1　さがみの古代に生きた人びと
- ・大地に生きる狩人
- ・海への進出
- ・米づくり、はじまる
- ・古墳を築く
- ・都とさがみの国

2　都市鎌倉と中世びと
- ・源頼朝と東国武士団
- ・戦国大名後北条氏
- ・掘り起こされた鎌倉
- ・唐物とその影響
- ・民衆と仏教

3　近世の街道と庶民文化
- ・宿場と関所
- ・庶民信仰と名所めぐり
- ・村の支配と生活
- ・相武の産物と江戸

4　横浜開港と近代化
- ・蒸気船が導いた新たな時代
- ・世界へ開かれたみなとＹＯＫＯＨＡＭＡ
- ・文明開化の音
- ・近代化と神奈川
- ・横浜浮世絵に見る神奈川
- ・横浜正金銀行

5　現代の神奈川と伝統文化
- ・関東大震災を越えて
- ・昭和恐慌と社会変化
- ・戦時体制と敗戦
- ・占領から講和へ
- ・高度経済成長と環境の変化
- ・メディアコミュニケーション
- ・変貌する町と村
- ・イエと暮らし
- ・くらしの中の祈り
- ・なりわいと儀礼
- ・伝承される技術と芸能

(2)　特別展

ア　「江戸時代　かながわの旅－『道中記』の世界－」

会　期：平成25年4月27日(土)～6月23日(日)
主　催：神奈川県立歴史博物館
後　援：毎日新聞社横浜支局、神奈川新聞社、朝日新聞横浜総局、読売新聞東京本社横浜支局、産経新聞社横浜総局、東京新聞横浜支局、日本経済新聞社横浜支局、tvk(テレビ神奈川)、NHK横浜放送局
展示資料件数：217件
入場者数：12,566名(有料6,250名、無料6,316名)
担　当：企画普及課長　古宮 雅明、主任学芸員　桑山 童奈
概　要：　江戸時代、東海道をはじめとする五街道が整備され、人々はさかんに往来した。江戸時代に旅の案内のためにつくられた冊子状や絵図状の出版物を「道中記」と呼んだ。宿駅間の距離、川の渡り方、駄賃などの旅の基本情報のほかに、街道沿いの名所や旧跡などの情報を網羅した「道中記」は、実際の旅に役立ち、旅への憧れをかき立てたことであろう。このよう

な「道中記」で、現在の神奈川県域-武蔵国三郡と相模国-はどのように紹介されていたか。九つある東海道の宿駅は江戸から京都への旅路であり、ほかにも杉田、金沢八景、鎌倉、江之島、大山、箱根など江戸からは小さな旅を楽しめる名所があった。それらには現在も観光地として親しまれている場所もあれば、今は面影もない場所もある。展覧会では「道中記」を中心に浮世絵、双六、そのほか風景や旅にまつわる資料で江戸時代のかながわへの旅の諸相を紹介した。

○特別展関連行事

①県博講座(4回連続、無料　ただし特別展観覧券が必要　14：00～16：00

・全体テーマ：「道中記の世界」（応募者100名〈単回を含む事前申込者〉）
・第1回　：5月11日(土)(受講者83名)
「『道中記』入門」　企画普及課長　古宮 雅明
・第2回　：5月18日(土)(受講者74名)
「描かれたかながわ」主任学芸員　桑山 童奈
・第3回　：5月25日(土)(受講者79名)
「『道中記』を読む」鎌倉国宝館館長　鈴木 良明 氏
・第4回　：5月29日(水)(受講者65名)
現地見学会　「東海道を歩く－平塚宿から大磯宿－」　館長　薄井 和男、
企画普及課長　古宮 雅明、主任学芸員　桑山 童奈

②特別記念落語会　落語「大山詣り」を聴く！(無料　ただし特別展観覧券が必要)

日　時 :6月1日(土) 第1回13:30～　第2回15:00～
演　者 :桂　歌助 師匠
応募者 :第1回 100名　第2回99名
参加者 :第1回　91名　第2回86名

③学芸員による展示解説

・第1回
日　時：5月3日(金・祝) 13:30～
講　師：企画普及課長 古宮 雅明・主任学芸員 桑山 童奈
参加者：79名
・第2回
日　時：5月5日(日) 13:30～
講　師：企画普及課長 古宮 雅明・主任学芸員 桑山 童奈
参加者：70名
・第3回
日　時：5月12日(日) 13:30～
講　師：企画普及課長 古宮 雅明・主任学芸員 桑山 童奈
参加者：38名
・第4回
日　時：5月19日(日) 13:30～
講　師：企画普及課長 古宮 雅明・主任学芸員 桑山 童奈
参加者：28名
・第5回
日　時：5月26日(日) 13:30～
講　師：企画普及課長 古宮 雅明・主任学芸員 桑山 童奈
参加者：35名
・第6回
日　時：6月2日(日) 13:30～
講　師：企画普及課長 古宮 雅明・主任学芸員 桑山 童奈

参加者：18 名

・第 7 回

日　時：6 月 9 日(日) 13:30～

講　師：企画普及課長 古宮 雅明・主任学芸員 桑山 童奈

参加者：45 名

・第 8 回

日　時：6 月 16 日(日) 13:30～

講　師：企画普及課長 古宮 雅明・主任学芸員 桑山 童奈

参加者：36 名

○出品目録

(凡例)　資料番号、資料名、著者・編者、所蔵等

1-1　東海道分間絵図　巻一、二　遠近道印、菱川師宣　元禄 3 年(1690)　五巻五帖　神奈川県立歴史博物館

1-2　東海道分間絵図（宝暦版）　桑楊　宝暦 2 年(1752)　一巻　神奈川県立歴史博物館

1-3　東海道分間絵図（宝暦版）　桑楊　宝暦 2 年(1752)　一巻　神奈川県立歴史博物館

1-4　従江戸長崎迄名所旧跡　17 世紀後半　一巻　神奈川県立歴史博物館

1-5　江戸長崎道中絵図　江戸時代後半　一帖　神奈川県立歴史博物館

1-6　東海道行程図　上巻　安政 3 年(1856)　一帖　豊橋市美術博物館

1-7　東海道名所記　一　浅井了意　江戸時代前期　　西尾市岩瀬文庫

1-8　一目玉鉾　二巻　井原西鶴　元禄 2 年(1689)　　西尾市岩瀬文庫

1-9　驛路之鈴　巻一　宝永 6 年(1709)　五巻五冊　西尾市岩瀬文庫

1-10　東海道名所図会　巻五、六　秋里籬島　寛政 9 年(1797)　六冊　神奈川県立歴史博物館

1-11　江戸名所図会　巻五、六　斎藤幸雄　幸孝　幸成　長谷川雪旦　天保 5、7 年(1834、36)　　神奈川県立歴史博物館

1-12　東海道中膝栗毛　初編　十返舎一九　享和 2 年(1802)　神奈川県立歴史博物館

1-13　旅行用心集　八隅蘆庵　文化 7 年(1810)　一冊　神奈川県立歴史博物館

1-14　諸国案内旅雀　享保 5 年(1720)再版　九冊　神奈川県立歴史博物館

1-15　東路塩土伝　上　岡田正利　享保 6 年(1721)　一冊　神奈川県立歴史博物館

1-16　吾嬬路記　貝原益軒 谷重遠　柳枝軒　安永年間(1772～81)　一冊　神奈川県立歴史博物館

1-17　享和新版改正増補　東海道木曽路増補広駅道中記　享和 2 年(1802)　一冊　神奈川県立歴史博物館

1-18　東海木曽両道中懐宝図鑑　文化 4 年(1807)以降　一冊　神奈川県立歴史博物館

1-19　大日本海陸行程図鑑　天保 7 年(1836)　一冊　神奈川県立歴史博物館

1-20　諸国道中袖鏡　天保 10 年(1839)　一冊　神奈川県立歴史博物館

1-21　新板東海道木曽路道中記　江戸時代後期　一冊　神奈川県立歴史博物館

1-22　安永新改　諸国道中二面鑑　安永 7 年(1778)　一舗　神奈川県立歴史博物館

1-23　大日本道中行程細見記大全　酔雅子　寛政 6 年（1794）頃　一帖　神奈川県立歴史博物館

1-24　新増重鐫　大日本道中行程細見記　酔雅子　天保 8 年(1837)　一帖　神奈川県立歴史博物館

1-25　改正　大日本道中独案内図　池田東籬　天保 12 年(1841)　一舗　神奈川県立歴史博物館

1-26　弘化改正　大日本道中独案内大全　池田東籬　弘化 2 年(1845)　一舗　神奈川県立歴史博物館

1-27　旅仲必携五海道中独案内記　嘉永 4 年(1851)　一帖　神奈川県立歴史博物館

1-28　大日本早見道中記　友鳴松旭、東遊子　安政元年(1854)　一舗　神奈川県立歴史博物館

1-29　大日本細見道中図鑑　友鳴松旭、東遊子　江戸時代後期　一舗　神奈川県立歴史博物館

1-30　大日本行程大絵図　鎌田酔翁、西川祐春補　安政 4 年(1857)一舗　神奈川県立歴史博物館

1-31　元治新版　大日本道中細見記　河童庵主人校正　元治年間(1864～65)一舗神奈川県立歴史博物館

1-32　大日本早引細見絵図　文久 4 年(1864)　一舗　神奈川県立歴史博物館

1-33　新板　諸国道中旅寿ゝ免　江戸時代後期　一舗　神奈川県立歴史博物館

1-34　玉蘭斎写真　五十三次勝景　五雲亭貞秀　万延元年(1860)　一帖　神奈川県立歴史博物館

1-35　玉蘭斎写真　五十三次勝景　五雲亭貞秀　明治 2 年(1869)再版　一帖　神奈川県立歴史博物館

1-36　道中日記　江戸時代後期　個人

1-37　浪花講定宿帳　天保 15 年(1844)　一冊　神奈川県立歴史博物館

1-38　大日本道中細見定宿帳　嘉永４年(1851)　一冊　神奈川県立歴史博物館
1-39　安政三丙辰年改正増補　浪花講定宿帳　安政３年(1856)　一冊　神奈川県立歴史博物館
1-40　浪花講定宿帳　江戸時代後期　一冊　神奈川県立歴史博物館
1-41　浪花講定宿帳　江戸時代後期　一冊　神奈川県立歴史博物館
1-42　早引浪花講定宿図会　江戸時代後期　一帖　神奈川県立歴史博物館
1-43　道中細見定宿帳　明治３年(1870)　一冊　神奈川県立歴史博物館
1-44　浪花講鑑札　袋　江戸時代末期　川崎市市民ミュージアム
1-45　浪花講看板　江戸時代末期　一面　川崎市市民ミュージアム
1-46　東講商人鑑　大城屋良助　安政２年(1855)　一冊　神奈川県立歴史博物館
1-47　五海道中細見独案内　上　江戸時代末期　　神奈川県立歴史博物館
1-48　永福関東講　江戸時代末期　一冊　個人
1-49　東海道伊勢道中双六(永福関東講双六)　五雲亭貞秀　江戸時代末期　一舗　横浜開港資料館
2-1　東海道五拾三次之内　川崎　六郷渡舟　歌川広重(初代)　天保４年(1833)頃　神奈川県立歴史博物館
2-2　東海道五拾三次之内　川崎　六郷渡舟　歌川広重(初代)　天保４年(1833)頃　神奈川県立歴史博物館
2-3　東海道五十三次細見図会　川崎　歌川広重(初代)　弘化年間(1844～48)　神奈川県立歴史博物館
2-4　東海道　大師河原　歌川広重(二代)　文久３年(1863)　神奈川県立歴史博物館
2-5　奈良茶飯（複製）　現代　豊橋市二川宿本陣資料館
2-6　米饅頭（複製）　現代　豊橋市二川宿本陣資料館
2-7　旅籠の食事（複製）　現代　豊橋市二川宿本陣資料館
2-8　細見神奈川絵図　穆齋　天保15年(1844)　一紙　神奈川県立歴史博物館
2-9　東海道五拾三次之内　神奈川　台之景　歌川広重(初代)　天保４年(1833)頃　神奈川県立歴史博物館
2-10　東海道五拾三次之内　神奈川　台之景　歌川広重(初代)　天保４年(1833)頃　神奈川県立歴史博物館
2-11　東海道五十三次之内　神奈川宿　歌川豊国(三代)　文化年間(1804～18)後期　神奈川県立歴史博物館
2-12　見立役者五十三対ノ内　神名川　歌川豊国(三代)　天保年間(1830～44)　神奈川県立歴史博物館
2-13　東海道中栗毛弥次馬　神奈川　落合芳幾　万延元年(1860)　神奈川県立歴史博物館
2-14　東海道五十三次細見図会　神名川　歌川広重(初代)　弘化年間(1844～48)　神奈川県立歴史博物館
2-15　東海道名所之内　神奈川浦島古跡　河鍋暁斎　文久３年(1863)　神奈川県立歴史博物館
2-16　神奈川台石崎楼上十五景一望之図　歌川広重(初代)　安政５年(1858)　神奈川県立歴史博物館
2-17　三五景一覧　石崎源六ほか　安政５年(1858)　一冊　神奈川県立図書館
2-18　東海道神奈川宿本陣石井源左衛門宅間取図　江戸時代　神奈川県立公文書館
2-19　神奈川町絵図　天明８年(1788)　神奈川県立公文書館
2-20　神奈川町宿入口土居絵図　江戸時代　神奈川県立公文書館
2-21　神奈川宿高札　慶応４年(1868)　神奈川県立公文書館
2-22　東海道五拾三次之内　保土ヶ谷　新町橋　歌川広重(初代)　天保４年(1833)頃　神奈川県立歴史博物館
2-23　東海道五拾三次之内　保土ヶ谷　新町橋　歌川広重(初代)　天保４年(1833)頃　神奈川県立歴史博物館
2-24　東海道五十三次細見図会　程ヶ谷　歌川広重(初代)弘化年間(1844～48)　神奈川県立歴史博物館
2-25　東海道　五　五十三次之内　程ヶ谷　歌川広重(初代)　嘉永年間(1848～54)　神奈川県立歴史博物館
2-26　東海道五拾三次之内　戸塚　元町別道　歌川広重(初代)　天保４年(1833)頃　神奈川県立歴史博物館
2-27　東海道五拾三次之内　戸塚　元町別道　　歌川広重(初代)　天保４年(1833)頃　神奈川県立歴史博物館
2-28　東海道　戸塚　歌川豊国（四代）　文久３年(1863)　神奈川県立歴史博物館
2-29　東海道五十三次　六　戸塚　葛飾北斎　文化年間(1804～18)中期　神奈川県立歴史博物館
2-30　東海道五十三次細見図会　戸塚　歌川広重（初代）　弘化年間(1844～48)　神奈川県立歴史博物館
2-31　東海道五拾三次　戸塚　歌川広重(初代)　天保年間後期(1830～44)　神奈川県立歴史博物館
2-32　東海道五拾三次之内　藤沢　遊行寺　歌川広重(初代)　天保４年(1833)頃　神奈川県立歴史博物館
2-33　東海道五拾三次之内　藤沢　遊行寺　歌川広重(初代)　天保４年(1833)頃　神奈川県立歴史博物館
2-34　相州藤沢山遊行寺境内諸堂社略絵図并略縁記添　一広　江戸時代後期　神奈川県立図書館
2-35　東海道名所之内　ふじさは　遊行寺　五雲亭貞秀　文久３年(1863)　神奈川県立歴史博物館
2-36　五十三次名所図会　七　藤沢　南期の松原　左り不二　歌川広重(初代)　安政２年(1855)　神奈川県立歴史博物館
2-37　東海道五拾三次之内　平塚　縄手道　歌川広重(初代)　天保４年(1833)頃　神奈川県立歴史博物館
2-38　東海道五拾三次之内　平塚　縄手道　歌川広重(初代)　天保４年(1833)頃　神奈川県立歴史博物館
2-39　東海道五拾三次　平塚　歌川広重(初代)　天保年間(1830～44)後期　神奈川県立歴史博物館
2-40　五十三次名所図会　八　平塚　馬入川舟渡し　大山遠望　歌川広重(初代)　安政２年(1855)　神奈川県立歴史博物館
2-41　馬入川舟橋之図　江戸時代後期　一巻　平塚市博物館

2-42　平塚宿絵図　文化８年(1811)か　平塚市博物館
2-43　平塚宿本陣向三軒両隣旅籠間取図　江戸時代　一紙　平塚市博物館
2-44　高麗山絵図　江戸時代後期　一紙　厚木市郷土資料館
2-45　高麗山絵図　江戸時代後期　一紙　厚木市郷土資料館
2-46　東海道五拾三次之内　大磯　虎ヶ雨　歌川広重(初代)　天保４年(1833)頃　神奈川県立歴史博物館
2-47　東海道五拾三次之内　大磯　虎ヶ雨　歌川広重(初代)　天保４年(1833)頃　神奈川県立歴史博物館
2-48　東海道　九　五十三次　大磯　鴫立澤西行庵　歌川広重(初代)　弘化４～嘉永５年(1847～52)　神奈川県立歴史博物館
2-49　東海道名所之内　梅沢　河鍋暁斎　文久３年(1863)　神奈川県立歴史博物館
2-50　東海道五十三次　九　大磯　葛飾北斎　文化年間(1804～18)中期　神奈川県立歴史博物館
2-51　大磯　葛飾北斎　文政年間(1818～30)か　神奈川県立歴史博物館
2-52　大磯　葛飾北斎　文化年間(1804～18)　神奈川県立歴史博物館
2-53　相州大磯西　鴫立沢記　鳥酔重利　明和４年(1767)　一冊　神奈川県立歴史博物館
2-54　某書簡　元禄８年(1695)頃　大磯町郷土資料館
2-55　大磯宿小嶋本陣宅間取図　文久３年(1863)頃　大磯町郷土資料館
2-56　東海道五拾三次之内　小田原　酒匂川　歌川広重(初代)　天保４年(1833)頃　神奈川県立歴史博物館
2-57　東海道五拾三次之内　小田原　酒匂川　歌川広重(初代)　天保４年(1833)以降　神奈川県立歴史博物館
2-58　小田原　葛飾北斎　文政年間(1818～30)か　神奈川県立歴史博物館
2-59　小田原　葛飾北斎　文化年間(1804～18)　神奈川県立歴史博物館
2-60　道中膝栗毛　小田原泊り　歌川広重(初代)　天保年間(1830～44)中期　神奈川県立歴史博物館
2-61　東海道五十三次細見図会　小田原　歌川広重(初代)　弘化年間(1844～48)　神奈川県立歴史博物館
2-62　東海道　小田原　歌川国輝(二代)　文久３年(1863)　神奈川県立歴史博物館
2-63　けいせい優曾我　天明８年(1788)頃　久崎教生氏
2-64　東海道五拾三次之内　箱根　湖水図　歌川広重(初代)　天保４年(1833)頃　神奈川県立歴史博物館
2-65　東海道五拾三次之内　箱根　湖水図　歌川広重(初代)　天保４年(1833)頃　神奈川県立歴史博物館
2-66　諸国名所　相州箱根関　魚屋北渓　天保年間(1830～44)前期　神奈川県立歴史博物館
2-67　箱根　葛飾北斎　文化年間(1804～18)　神奈川県立歴史博物館
2-68　諸国名所百景　豆州箱根権現　歌川広重(二代)　安政６年(1859　神奈川県立歴史博物館
2-69　冨嶽三十六景　相州箱根湖水　葛飾北斎　天保２年(1831)頃　神奈川県立歴史博物館
2-70　箱根山七温泉江之島鎌倉廻金草鞋　二十三編　十返舎一九、歌川国安　天保４年(1833)　神奈川県立金沢文庫
2-71　鎌倉江ノ嶋大山新板往来双六　柳亭種彦、葛飾北斎　天保２年(1831)頃　一舗　神奈川県立歴史博物館
2-72　鎌倉江ノ島大山新板往来双六と畳紙　柳亭種彦、葛飾北斎　天保２年(1831)頃　神奈川県立図書館
2-73　東海道五十三駅名所旧跡行程記新鐫道中双六　溪斎英泉　弘化元～２年(1844～45)頃　一舗　神奈川県立歴史博物館
2-74　秋葉鳳来寺伊勢参宮大和めくり 東海道道中双六　歌川国芳　天保年間(1830～44）前期　一舗　神奈川県立歴史博物館
2-75　五十三駅東海道冨士見双六　歌川広重（初代）　弘化元～２年(1844～45)　一舗　神奈川県立歴史博物館
2-76　江都名物吾妻錦画　東海道道中双六　北尾重政　江戸時代後期　一舗　神奈川県立歴史博物館
2-77　新板遊山道中き満ゝ双六　歌川広重(初代)　弘化元～２年(1844～45)　一舗　神奈川県立歴史博物館
2-78　東海道五拾三次双六　歌川広重(二代)　安政４年(1857)　一舗　神奈川県立歴史博物館
3-1　箱根七湯図会　湯もと　歌川広重(初代)　嘉永５年(1852)　神奈川県立歴史博物館
3-2　箱根七湯図会　塔の沢　歌川広重(初代)　嘉永５年(1852)　神奈川県立歴史博物館
3-3　箱根七湯図会　堂かしま　歌川広重(初代)　嘉永５年(1852)　神奈川県立歴史博物館
3-4　箱根七湯図会　宮の下　歌川広重(初代)　嘉永５年(1852)　神奈川県立歴史博物館
3-5　箱根七湯図会　底倉　歌川広重(初代)　嘉永５年(1852)　神奈川県立歴史博物館
3-6　箱根七湯図会　木賀　歌川広重(初代)　嘉永５年(1852)　神奈川県立歴史博物館
3-7　箱根七湯図会　芦のゆ　歌川広重(初代)　嘉永５年(1852)　神奈川県立歴史博物館
3-8　相州箱根七温泉絵図　宮亀年　天保13年(1842)　一紙　神奈川県立金沢文庫
3-9　七湯方角略図　歌川広重(初代)　安政年間(1854～60)　神奈川県立歴史博物館
3-10　滑稽冨士詣　五編上～七編上　仮名垣魯文、歌川芳虎　万延元～文久元年(1860～61)　神奈川県立金沢文庫
3-11　七湯の枝折(つたや本)巻二　文化８年(1811)　箱根町立郷土資料館
3-12　七湯の枝折(つたや本)巻九　文化８年(1811)　十巻のうち　箱根町立郷土資料館
3-13　箱根細工箪笥　明治20年代　箱根町立郷土資料館
3-14　規定書　天保14年(1843)　箱根町立郷土資料館
3-15　一夜湯治一件書類合巻帳　文化２年(1805)　（有）福住　(箱根町立郷土資料館寄託)

3-16　相模国輿地全図　江戸時代後期　一舗　神奈川県立歴史博物館
3-17　相州大山絵図　江戸時代後期　神奈川県立金沢文庫
3-18　大山道中張交図会　歌川広重(初代)　安政５年(1858)　神奈川県立歴史博物館
3-19　相模州大住郡雨降大山全図　歌川国芳　嘉永2～5年(1849～52)　神奈川県立歴史博物館
3-20　相模国大隅郡大山寺雨降神社真景　五雲亭貞秀　安政５年(1858)　神奈川県立歴史博物館
3-21　大山良弁瀧　歌川国芳　嘉永２年(1849)　神奈川県立歴史博物館
3-22　名勝八景　大山夜雨　従前不動頂上之図　歌川豊国（二代）　天保年間(1830～44）前期　神奈川県立歴史博物館
3-23　相州大山神社さんげさんげ　明治時代　神奈川県立金沢文庫
3-24　良弁瀧　五雲亭貞秀　天保７年(1836)　神奈川県立歴史博物館
3-25　大山詣の人々　明治時代　厚木市郷土資料館
3-26－１　大山道中膝栗毛　仮名垣魯文・歌川芳宗　安政３年(1856)　久崎教生氏
3-26－２　大山道中膝栗毛　仮名垣魯文・歌川芳宗　安政３年(1856)　神奈川県立図書館
3-27　万象写真図譜　五雲亭貞秀　元治元年(1864)　厚木市郷土資料館
3-28　御神酒枠　文久３年(1863)銘　川崎市市民ミュージアム
3-29　大山道石造道標(複製)　現品文化10年(1813)　平塚市博物館　原品　清雲寺
3-30　大山道石造道標　明治６年(1873)　厚木市郷土資料館
3-31　大山阿夫利神社奉納木太刀　明治時代　厚木市郷土資料館
3-32　大山講講札(まねき)　小伝馬上町　文政５年(1822)　神奈川県立公文書館
3-33　大山講講札(まねき)　西よ組　天保３年(1832)　神奈川県立公文書館
3-34　大山講講札(まねき)　神田今川橋　弘化２年(1845)　神奈川県立公文書館
3-35　大山講講札(まねき)　引又町講中　弘化２年(1845)　神奈川県立公文書館
3-36　大山講講札(まねき)　熊ヶ谷石原　慶応元年(1865)　神奈川県立公文書館
3-37　大山講講札(まねき)　元大工町護摩講　年不詳(江戸時代)　神奈川県立公文書館
3-38　大山講講札(まねき)　東神田　年不詳(江戸時代)　神奈川県立公文書館
3-39　大山講講札(まねき)　浦賀宮下町　神奈川県立公文書館
3-40　江之島金亀山三宮細見之図　江戸時代後期　神奈川県立金沢文庫
3-41　江之島金亀山三宮細見之図　吉田蘭香　江戸時代後期　神奈川県立歴史博物館
3-42　江嶋一望図　文化５年(1808)　神奈川県立歴史博物館
3-43　江ノ島鎌倉道中記　景斎英寿　嘉永２～５年(1849～52)　神奈川県立歴史博物館
3-44　風流四季の遊　弥生の江之島詣　喜多川歌麿(初代)　寛政10～11年(1798～99）頃　藤沢市
3-45　山海名産尽　相模ノ堅魚　歌川国芳　文政年間(1818～30)後期　神奈川県立歴史博物館
3-46　冨嶽三十六景　相州江の嶌　葛飾北斎　天保２年(1831)頃　神奈川県立歴史博物館
3-47　名勝八景　江嶋晴嵐　小由留木の磯もろこしが原　歌川豊国(二代)　天保年間(1830～44）前期　神奈川県立歴史博物館
3-48　相州江之嶋岩屋之図　歌川広重(初代)　天保４年(1833)　神奈川県立歴史博物館
3-49　相州江之嶋弁才天開帳参詣群集之図　歌川広重(初代)　嘉永４～５年(1851～52)　神奈川県立歴史博物館
3-50　相州江の嶋弁才天開帳詣本宮岩屋の図　歌川広重(初代)　弘化４～嘉永５年(1847～52)　神奈川県立歴史博物館
3-51　相州江ノ嶋弁才天巌屋祭礼之図　歌川国安　天保年間(1830～44)前期　神奈川県立歴史博物館
3-52　江の嶋まうで浜のさざ波　畑銀鶏　江戸時代後期　一冊　神奈川県立金沢文庫
3-53　鎌倉絵図　元禄４年(1691)　神奈川県立歴史博物館
3-54　鎌倉絵図　一光斎芳盛　江戸時代後期　神奈川県立歴史博物館
3-55　相州鎌倉之本絵図　江戸時代後期　神奈川県立歴史博物館
3-56　鎌倉勝概図　秦檍丸　寛政10年(1798)　神奈川県立歴史博物館
3-57　名勝八景　鎌倉晩鐘　鶴ヶ岡より房州山の図　歌川豊国(二代)　天保年間(1830～44）前期　神奈川県立歴史博物館
3-58　文政改正新版　鎌倉名所記　家根屋四郎右衛門　文政年間(1818～30)　神奈川県立歴史博物館
3-59　鎌倉物語　中川喜雲　万治２年(1659)　神奈川県立歴史博物館
3-60　鎌倉詣　高蘭山　江戸時代後期　神奈川県立歴史博物館
3-61　八景安見図　宝暦３年(1753)　神奈川県立図書館
3-62　西湖之八景武之金沢模写図　北尾重政(二代)　文政10年(1827)頃　神奈川県立歴史博物館
3-63　武州金沢擲筆山地蔵院能見堂八景之画図　歌川国直　天保７年(1836)　神奈川県立歴史博物館
3-64　金沢八景　内川暮雪　歌川広重(初代)　弘化年間(1844～48)頃　神奈川県立歴史博物館
3-65　金沢八景　小泉夜雨　歌川広重(初代)　弘化年間(1844～48)頃　神奈川県立歴史博物館

3-66　金沢八景　瀬戸秋月　歌川広重(初代)　弘化年間(1844～48)頃　神奈川県立歴史博物館
3-67　金沢八景　称名晩鐘　歌川広重(初代)　弘化年間(1844～48)頃　神奈川県立歴史博物館
3-68　金沢八景　野島夕照　歌川広重(初代)　弘化年間(1844～48)頃　神奈川県立歴史博物館
3-69　金沢八景　乙艫帰帆　歌川広重(初代)　弘化年間(1844～48)頃　神奈川県立歴史博物館
3-70　金沢八景　平潟落雁　歌川広重(初代)　弘化年間(1844～48)頃　神奈川県立歴史博物館
3-71　金沢八景　洲崎晴嵐　歌川広重(初代)　弘化年間(1844～48)頃　神奈川県立歴史博物館
3-72　名勝八景　金沢帰帆　従瀬戸橋野嶌之図　歌川豊国(二代)　天保年間(1830～44)前期　神奈川県立歴史博物館
3-73　金沢八景　歌川広重(初代)　嘉永６年(1853)一幅　神奈川県立歴史博物館
3-74　金沢八景案内子　天明４年(1784)　神奈川県立図書館
3-75　杉田日記　清水浜臣　文化７年(1810)　神奈川県立金沢文庫
3-76　杉田図会　上、中、下　竹村立義　文政８年(1825)　写本　西尾市岩瀬文庫
3-77　武州杉田の梅林　歌川広重(初代)　嘉永５年(1852)　神奈川県立歴史博物館
3-78　花名所東百景　杉田之梅林遠景　溪斎英泉　天保年間(1830～44)　神奈川県立歴史博物館
3-79　坂東三十三所巡礼記　元禄14年(1701)　神奈川県立歴史博物館
3-80　坂東巡礼独案内　江戸時代　神奈川県立歴史博物館
3-81　坂東巡礼独案内　江戸時代　厚木市郷土資料館
3-82　観音霊験記　坂東順礼第一番　相州鎌倉大蔵山杉本寺　歌川豊国(三代)・歌川広重(二代)　万延元年(1860)　神奈川県立歴史博物館
3-83　観音霊験記　坂東順礼第三番　相州鎌倉田代堂　歌川豊国(三代)・歌川広重(二代)　万延元年(1860)　神奈川県立歴史博物館
3-84　観音霊験記　坂東順礼第四番　相州鎌倉海光山長谷寺　歌川豊国(三代)・歌川広重(二代)　万延元年(1860)　神奈川県立歴史博物館
3-85　観音霊験記　坂東順礼第五番　相州足柄郡飯泉山勝福寺　歌川豊国(三代)・歌川広重(二代)　万延元年(1860)　小田原市郷土文化館
3-86　観音霊験記　坂東順礼第六番　相州愛甲郡飯上山長谷寺　歌川豊国(三代)・歌川広重(二代)　万延元年(1860)　厚木市郷土資料館
3-87　観音霊験記　坂東順礼第七番　相州大住郡金目山光明寺　歌川豊国(三代)・歌川広重(二代)　万延元年(1860)　神奈川県立歴史博物館
3-88　観音霊験記　坂東順礼第八番　相州鎌倉郡座間の郷妙法山星谷寺　歌川豊国(三代)・歌川広重(二代)　万延元年(1860)　神奈川県立歴史博物館
3-89　観音霊験記　坂東順礼十四番　武州久良岐郡瑞応山弘明寺　歌川豊国(三代)・歌川広重(二代)　万延元年(1860)　神奈川県立歴史博物館
3-90　百番観音霊験記のうち「坂東」　服部応賀・梅堂国政　明治15年(1882)　厚木市郷土資料館
参考　大山寺不動明王(複製)　神奈川県立歴史博物館　原品　大山寺
参考　制吒迦童子(複製)　神奈川県立歴史博物館　原品　大山寺
参考　矜迦羅童子(複製)　神奈川県立歴史博物館　原品　大山寺
参考　道中日記　文化11年(1814)　神奈川県立歴史博物館
参考　道中日記　文化３年(1806)　神奈川県立歴史博物館
参考　往来手形　文化12年(1815)　個人
参考　緡銭　神奈川県立歴史博物館
参考　東海道五十三次　かな川　葛飾北斎　文化年間(1804～18)　神奈川県立歴史博物館
参考　諸国瀧廻り相州大山ろうべんの瀧　葛飾北斎　天保年間(1830～44)前期　神奈川県立歴史博物館
参考　鎌倉総図江之嶋金澤遠景　江戸時代後期　神奈川県立歴史博物館

イ　「キングの塔」誕生！－神奈川県庁本庁舎とかながわの近代化遺産－

会　期：平成25年７月20日(土)～９月16日(月・祝)
主　催：神奈川県立歴史博物館
後　援：神奈川新聞社、朝日新聞横浜総局、毎日新聞社横浜支局、読売新聞東京本社横浜支局、産経新聞社横浜総局、東京新聞横浜支局、日本経済新聞社横浜支局、NHK横浜放送局、tvk(テレビ神奈川)、日刊建設工業新聞社、日刊建設産業新聞社、建通新聞社、日刊建設通信新聞社、神奈川県建築士会、神奈川県建築士事務所協会、神奈川県建築業協会、横浜建設業協会、日本建築学会関東支部神奈川支所、神奈川県建築安全協会、日本建築家協会関東甲信越支部神奈川地域会
展示資料件数：161件
入場者数：8,031名(有料4,314名、無料3,717名)

担　当：主任学芸員　丹治 雄一

概　要：　横浜三塔のひとつ「キングの塔」として親しまれている神奈川県庁本庁舎は、関東大震災後の1928（昭和3）年10月に竣工した四代目の神奈川県庁舎で、本県でも最もよく知られた近代化遺産（近代建築）のひとつである。スクラッチタイルと幾何学模様の装飾からなる外観は、当時流行していたアール・デコ様式の影響を色濃く感じさせるとともに、建物正面に立ち上がっている「キングの塔」は、帝冠様式建築の先駆的事例とされている。

加えて、本県は日本の近代化の過程において、欧米からの文化や技術導入の窓口としての役割を果たした地域でもあったため、横浜・横須賀・箱根など県内各地に現在も多くの近代化遺産が残されている近代化遺産の宝庫と言うこともできる。

本展は、当館が保管する神奈川県庁本庁舎の実施設計図や部材など初公開資料にもよりながら、現存する県庁本庁舎とそれに先立つ初代から三代目までの歴代神奈川県庁舎の歴史をたどり、さらに県内に所在する近代化遺産とその関係資料を紹介することで、かながわという地域の魅力と先人たちの歩みを再認識しようとしたものである。

○特別展関連行事

①記念講演会(無料、ただし特別展観覧券が必要)

日　時：9月7日(土) 14:00～16:00
演　題：「かながわの近代化遺産の魅力」
講　師：建築写真家　増田 彰久氏
応募者：133名
受講者：79名

②県博セミナー(生涯学習課主管の県立機関活用講座、4回連続、有料〈4,000円・1回のみ受講の場合は、1,000円〉、14：00～16：00、現地見学会のみ14：00～16：30)

・全体テーマ：「発見！神奈川県庁本庁舎の魅力」(応募者61名)
・第1回 :8月3日(土)　(受講者34名)
「建築史的に見る歴代の神奈川県庁舎」　京都工芸繊維大学大学院教授　石田 潤一郎 氏
・第2回 :8月10日(土)　(受講者26名)
「神奈川県庁本庁舎の『弟』たち」　名古屋市立大学名誉教授　瀬口 哲夫 氏
・第3回 :8月17日(土)　(受講者40名)
「神奈川県庁舎とフランク・ロイド・ライト」　かながわ住まい・まちづくり協会相談役　佐藤 嘉明 氏
・第4回 :8月24日(土)　(受講者36名)
現地見学会「県庁本庁舎と県立歴史博物館(旧横浜正金銀行本店)の建物見学」　神奈川県施設整備課長　村島 正章 氏・主任学芸員　丹治 雄一

③子供向け行事「夏休み県庁探検－神奈川県庁の建物と神奈川県庁の仕事を楽しく学ぶ－」

日　時：8月22日(木)
講　師：主任学芸員　丹治 雄一
応募者：21名(付添の保護者17名)
受講者：17名(付添の保護者13名)

④神奈川県庁本庁舎一般公開および神奈川県庁本庁舎建物解説　　全4回

会　場：神奈川県庁本庁舎
講　師：主任学芸員　丹治 雄一
・第 1回：7月 21日(日)　　参加者:午前　29名、 午後 88名
・第 2回：8月　4日(日)　　参加者：午前200名、 午後140名
・第 3回：8月 18日(日)　　参加者：午前300名、 午後170名
・第 4回：9月 15日(日)　　参加者:午前　74名、 午後109名

⑤学芸員による展示解説

・第１回
日　時：7 月 28 日(日) 13:30～
講　師：主任学芸員　丹治 雄一
参加者：32 名

・第２回
日　時：8 月 11 日(日) 13:30～
講　師：主任学芸員　丹治 雄一
参加者：22 名

・第３回
日　時：8 月 25 日(日) 13:30～
講　師：主任学芸員　丹治 雄一
参加者：20 名

・第４回
日　時：9 月 8 日(日) 13:30～
講　師：主任学芸員　丹治 雄一
参加者：33 名

○出品目録

凡例) No.、資料名、作者･編者、年代、所蔵

1 横浜弐覧之真景　五雲亭貞秀　1871(明治 4)年　神奈川県立歴史博物館
2 御開港横浜之全図　五雲亭貞秀　1860(万延元)年頃　神奈川県立歴史博物館
3 初代神奈川県庁舎外観(『ファー・イースト』1 巻 18 号所収)1871(明治 4)年 2 月 16 日　横浜開港資料館
4 初代神奈川県庁舎側面外観　明治時代前期　個人
5 初代神奈川県庁舎構内での集合写真　明治時代前期　個人
6 初代神奈川県庁舎挿絵(『イラストレイテッド・ロンドン・ニューズ』1872 年 1 月 13 日号所収)　1872(明治 5)年 1 月 13 日　横浜開港資料館
7 東京横浜名所一覧図会　横浜裁判所　歌川広重(三代)　1872(明治 5)年　神奈川県立歴史博物館
8 横浜名所之内　本町朝きり　永林　1872(明治 5)年　神奈川県立歴史博物館
9 横浜繁栄本町通時計台神奈川県全図　歌川国鶴　1874(明治 7)年　神奈川県立歴史博物館
10 ベランダ改修後の初代神奈川県庁舎　1874(明治 7)年頃　横浜開港資料館
11 明治 10 年頃の居留地全　1877(明治 10)年頃　横浜開港資料館
12 横浜名勝競本町通神奈川県庁より時計台の一覧　歌川国松　1879(明治 12)年頃　神奈川県立歴史博物館
13 MAIN ST. YOKOHAMA(横浜本町通り)　明治時代前期　神奈川県立歴史博物館
14 改正横浜明細全図　山村清助　1878(明治 11)年 5 月　神奈川県立歴史博物館
15 旧新潟税関庁舎外観現況　2007(平成 19)年撮影
16 二代目神奈川県庁舎外観(『ファー・イースト』5 巻 1 号所収)　1874(明治 7)年 1 月 1 日　横浜開港資料館
17 二代目神奈川県庁舎外観(幻燈用種板)　明治時代　横浜開港資料館
18 二代目神奈川県庁舎正面玄関前での集合写真　明治時代　個人
19 横浜名所一覧　早川松山　1876(明治 9)年　神奈川県立歴史博物館
20 絵葉書　横浜全景　日本大通　明治時代　横浜開港資料館
21 絵葉書　横浜郵便局及県庁　明治時代　横浜開港資料館
22 絵葉書　横浜神奈川県庁　明治時代　横浜開港資料館
23 RAILWAY STATION AT YOKOHAMA(横浜駅)　明治時代　神奈川県立歴史博物館
24 横浜諸会社諸商店之図　町会所　明治時代　神奈川県立歴史博物館
25 二代目神奈川県庁舎正門　2013(平成 25)年撮影
和 3)年　大林組
26 三代目神奈川県庁舎　外観(『神奈川県写真帖』所収)　1913(大正 2)年 10 月　神奈川県立歴史博物館
27 三代目神奈川県庁舎　正庁(『神奈川県写真帖』所収)　1913(大正 2)年 10 月　神奈川県立歴史博物館
28 三代目神奈川県庁舎　議場(『神奈川県写真帖』所収)　1913(大正 2)年 10 月　神奈川県立歴史博物館
29 三代目神奈川県庁舎　貴賓室(『神奈川県写真帖』所収)　1913(大正 2)年 10 月　神奈川県立歴史博物館
30 三代目神奈川県庁舎　警察部庁舎(『神奈川県写真帖』所収)　1913(大正 2)年 10 月　神奈川県立歴史博物館
31 絵葉書　横浜神奈川県庁　大正時代　横浜開港資料館

32 絵葉書　神奈川県庁ト日本大通　大正時代　神奈川県立歴史博物館

33 絵葉書　神奈川県庁（横浜）　大正時代　神奈川県立歴史博物館

34 三代目神奈川県庁舎彩色立面図　岡　義男　現代　個人(神奈川県立歴史博物館保管)

35 関東大震災で被災した三代目神奈川県庁舎(『関東震災地写真帖』所収)　1923(大正12)年9月個人

36 『大正大震火災誌』に掲載された三代目神奈川県庁舎の震災時の状況　神奈川県警察部　1926(大正15)年6月　神奈川県立歴史博物館

37 絵葉書　神奈川県庁ノ惨害　1923(大正12)年9月　神奈川県立歴史博物館

38 旧東宮御所(迎賓館赤坂離宮)外観現　2009(平成21)年撮影　迎賓館提供

39 神奈川県庁舎新築概略　1925(大正14)年8月　個人(神奈川県立公文書館寄託)

40 神奈川県庁舎建築設計図案懸賞募集規程(『神奈川県庁舎競技設計図集』所収)　1926（大正15）年8月(1929年11月第3版)　神奈川県立公文書館

41 設計心得(『神奈川県庁舎競技設計図集』所収)　1926(大正15)年8月(1929年11月第3版)神奈川県立公文書館

42 設計説明書の一例(『神奈川県庁舎競技設計図集』所収)　小尾嘉郎　1926(大正15)年8月(1929年11月第3版)　神奈川県立公文書館

43 神奈川県庁舎競技設計図　一等当選　透視図(『神奈川県庁舎競技設計図集』所収)　小尾嘉郎　1926(大正15)年8月(1929年11月第3版)　神奈川県立公文書館

44 堀切善次郎知事から小尾嘉郎あての当選状　1926(大正15)年6月21日　神奈川県立公文書館

45 神奈川県庁舎設計競技入選作と応募作(『神奈川県庁舎競技設計図集』所収)　1926(大正15)年8月(1929年11月第3版)　神奈川県立公文書館

46『建築世界』20巻8号に掲載されたコンペの批評　1926(大正15)年8月　横浜国立大学附属図書館

47 小尾嘉郎と家族写真(「小尾嘉郎整理アルバム」所収)　1932(昭和7)年1月　個人

48 尋五六作文　小尾嘉郎　1909(明治42)年～1911(明治44)年頃　神奈川県立公文書館

49 冬季休暇日記　小尾嘉郎　1910(明治43)年12月～1911(明治44)年1月　神奈川県立公文書館

50 短歌集　小尾嘉郎　1924(大正13)年　神奈川県立公文書館

51 神奈川県庁舎設計競技一等当選案透視図写真　昭和戦前期　個人

52 帝国ホテルの写真(「小尾嘉郎整理アルバム」所収)　年代不詳　個人

53 小尾嘉郎が設計に関わった大島観光ホテル(「小尾嘉郎整理アルバム」所収)　年代不詳　個人

54-1 四代目神奈川県庁舎新築工事　鉄骨工事および鉄筋コンクリート工事　1928(昭和3)年頃　神奈川県立公文書館

54-2 四代目神奈川県庁舎新築工事　鉄筋コンクリート工事　1928(昭和3)年頃　神奈川県立公文書館

54-3 四代目神奈川県庁舎新築工事　議場内装工事　1928(昭和3)年頃　神奈川県立公文書館

55 四代目神奈川県庁舎定礎式　1928(昭和3)年5月4日　神奈川県立公文書館

56 四代目神奈川県庁舎定礎銘拓本　1928(昭和3)年　神奈川県立公文書館

57 四代目神奈川県庁舎工事関係者集合写真　1928(昭和3)年5月4日　神奈川県立公文書館

58 四代目神奈川県庁舎実施設計図　平面図（第壱階）　神奈川県庁舎建築事務所　1926(大正15)年11月30日　神奈川県庁(神奈川県立歴史博物館保管)

59 四代目神奈川県庁舎実施設計図　平面図(第参階)　神奈川県庁舎建築事務所　1926(大正15)年11月30日　神奈川県庁(神奈川県立歴史博物館保管)

60 四代目神奈川県庁舎実施設計図　平面図(第四階　神奈川県庁舎建築事務所　1926(大正15)年11月30日　神奈川県庁(神奈川県立歴史博物館保管)

61 四代目神奈川県庁舎実施設計図　平面図(塔屋)　神奈川県庁舎建築事務所　1926(大正15)年11月30日　神奈川県庁(神奈川県立歴史博物館保管)

62 四代目神奈川県庁舎実施設計図　正面立面図　神奈川県庁舎建築事務所　1926(大正15)年頃　神奈川県庁(神奈川県立歴史博物館保管)

63 四代目神奈川県庁舎実施設計図　南側立面図　神奈川県庁舎建築事務所　1926(大正15)年頃　神奈川県庁(神奈川県立歴史博物館保管)

64 四代目神奈川県庁舎実施設計図　断面図(内庭横断面)　神奈川県庁舎建築事務所　1926(大正15)年11月30日　神奈川県庁(神奈川県立歴史博物館保管)

65 四代目神奈川県庁舎実施設計図　断面図(室内横断面)　神奈川県庁舎建築事務所　1926(大正15)年11月30日　神奈川県庁(神奈川県立歴史博物館保管)

66 四代目神奈川県庁舎実施設計図　基礎詳細　其五(正面玄関部)　神奈川県庁舎建築事務所　1927(昭和2)年3月9日　神奈川県庁(神奈川県立歴史博物館保管)

67 四代目神奈川県庁舎実施設計図　鉄骨柱詳細図　其一　神奈川県庁舎建築事務所　1927(昭和2)年3月1日　神奈川県庁(神奈川県立歴史博物館保管)

68 四代目神奈川県庁舎実施設計図　三階議場詳細(正面図)　神奈川県庁舎建築事務所　1927(昭和2)年12月17日　神奈川県庁(神奈川県立歴史博物館保管)

69 四代目神奈川県庁舎実施設計図　三階議場詳細(縦断面図)　神奈川県庁舎建築事務所　1927(昭和2)年12月24日　神奈川県庁(神奈川県立歴史博物館保管)

70 四代目神奈川県庁舎実施設計図　三階貴賓室詳細　神奈川県庁舎建築事務所　1927(昭和2)年10月3日　神奈川県庁(神奈川県立歴史博物館保管)

71 四代目神奈川県庁舎実施設計図　三階貴賓応接室詳細(第一室及第二室)　神奈川県庁舎建築事務所　1928(昭和3)年2月20日　神奈川県庁(神奈川県立歴史博物館保管)

72 四代目神奈川県庁舎実施設計図　三階知事室詳細図(一部平面及西側詳細図)　神奈川県庁舎建築事務所　1927(昭和2)年10月25日　神奈川県庁(神奈川県立歴史博物館保管)

73 四代目神奈川県庁舎実施設計図　三階知事室詳細図(各壁姿図及天井伏)(北側詳細)　神奈川県庁舎建築事務所　1927(昭和2)年10月22日　神奈川県庁(神奈川県立歴史博物館保管

74 四代目神奈川県庁舎実施設計図　四階正庁外部窓側詳細及間仕切側S1/50図　神奈川県庁舎建築事務所　1927(昭和2)年12月7日　神奈川県庁(神奈川県立歴史博物館保管)

75 四代目神奈川県庁舎実施設計図　四階正庁詳細　神奈川県庁舎建築事務所　1927(昭和2)年12月23日　神奈川県庁(神奈川県立歴史博物館保管)

76 四代目神奈川県庁舎実施設計図　一階中央広間詳細　神奈川県庁舎建築事務所　1927(昭和2)年9月30日　神奈川県庁(神奈川県立歴史博物館保管)

77 四代目神奈川県庁舎実施設計図　一階正面玄関詳細　神奈川県庁舎建築事務所　1927(昭和2)年6月18日　神奈川県庁(神奈川県立歴史博物館保管)

78 四代目神奈川県庁舎実施設計図　一階外部西玄関外部詳細　神奈川県庁舎建築事務所 1927(昭和2)年6月21　神奈川県庁(神奈川県立歴史博物館保管)

79 四代目神奈川県庁舎実施設計図　一階西玄関内部詳細　神奈川県庁舎建築事務所　1927(昭和2)年6月27日　神奈川県庁(神奈川県立歴史博物館保管)

80 四代目神奈川県庁舎実施設計図　特別照明器具　神奈川県庁舎建築事務所　1928(昭和3)年3月3日　神奈川県庁(神奈川県立歴史博物館保管)

81 四代目神奈川県庁舎実施設計図　特別照明器具　神奈川県庁舎建築事務　1928(昭和3)年3月1日神奈川県庁(神奈川県立歴史博物館保管)

82 神奈川県庁新築工事概要　1928(昭和3)年　神奈川県立公文書館

83-1 四代目神奈川県庁舎竣工写真　外観　1928(昭和3)年　大林組

83-2 四代目神奈川県庁舎竣工写真　正面玄関広間　1928(昭　大林組

83-3 四代目神奈川県庁舎竣工写真　貴賓室　1928(昭和3)年　大林組

83-4 四代目神奈川県庁舎竣工写真　議場　1928(昭和3)年

83-5 四代目神奈川県庁舎竣工写真　知事室　1928(昭和3)年　大林組

83-6 四代目神奈川県庁舎竣工写真　正庁　1928(昭和3)年　大林組

84-1 『国際建築』5巻1号に掲載された四代目神奈川県庁舎竣工写真　塔屋最頂部のスケッチ　1929(昭和4)年1月　横浜国立大学附属図書館

84-2 『国際建築』5巻1号に掲載された四代目神奈川県庁舎竣工写真　正面玄関広間などの照明器具1929(昭和4)年1月　横浜国立大学附属図書館

84-3 『国際建築』5巻1号に掲載された四代目神奈川県庁舎竣工写真　正庁装飾灯　1929(昭和4)年1月　横浜国立大学附属図書館

84-4 『国際建築』5巻1号に掲載された四代目神奈川県庁舎竣工写真　貴賓室のソファーと衝立　1929(昭和4)年1月　横浜国立大学附属図書館

85 開庁式次第(「開庁式関係書類」所収)　1928(昭和3)年11月1日　神奈川県立公文書館

86 工事報告(「開庁式関係書類」所収」　1928(昭和3)年11月1日　神奈川県立公文書館

87 開庁式書類　1928(昭和3)年　神奈川県立公文書館

88 神奈川県庁舎開庁記念絵葉書　1928(昭和3)年11月1日　神奈川県立公文書館

89 神奈川県庁舎開庁式を報じた東京日日新聞　1928(昭和3)年11月1日　神奈川県立図書館

90 神奈川県庁舎開庁式を報じた東京日日新聞　1928(昭和3)年11月2日　神奈川県立図書館

91 四代目神奈川県庁舎正庁　シャンデリア　1928(昭和3)年　神奈川県庁(神奈川県立歴史博物館保管)

92 四代目神奈川県庁舎正庁　装飾灯　1928(昭和3)年　神奈川県庁(神奈川県立歴史博物館保管)

93 四代目神奈川県庁舎貴賓室　綴織額　川島織物　昭和戦前期　神奈川県庁

94 四代目神奈川県庁舎貴賓室　織額原画　横浜開港　川島織物考案部(大高為山)　昭和戦前期　川島織物セルコン織物文化館

95 四代目神奈川県庁舎貴賓室　椅子張地背もたれ本図　鳳凰に葡萄唐草　川島織物考案部　　1928(昭和3)年頃　川島織物セルコン織物文化館

96 四代目神奈川県庁舎貴賓室　椅子張地座面・肘掛本図　鳳凰に葡萄唐草　川島織物考案部　1928（昭和3）年頃　川島織物セルコン織物文化館

97 四代目神奈川県庁舎貴賓室　衝立　川島織物　1928(昭和3)年頃　神奈川県庁

98 四代目神奈川県庁舎　欄間彫刻　「橘」と「桜」　1928(昭和3)年頃　神奈川県庁

99 四代目神奈川県庁舎貴賓室に飾られた真葛焼香炉　宮川香山(二代)　大正時代～昭和初期　神奈川県庁

100 四代目神奈川県庁舎模型　大林組　1927(昭和2)年頃　神奈川県庁

101 絵葉書　大横浜名勝　神奈川県庁　昭和戦前期　神奈川県立歴史博物館

102 絵葉書　(大横浜名所)　神奈川県　昭和戦前期　神奈川県立歴史博物館

103 名古屋市庁舎新築工事写真帖　大倉土木名古屋出張所　1933(昭和 8)年　個人
104 愛知県庁舎実施設計図　一階平面図　愛知県営繕課　1935(昭和 10)年 8 月　愛知県公文書館
105 愛知県庁舎実施設計図　正面中央部屋根詳細図　愛知県営繕課　1935(昭和 10)年 8 月　愛知県公文書館
106 愛知県庁舎実施設計図　議場詳細図　其ノ一　愛知県営繕課　1935(昭和 10)年 8 月　愛知県公文書館
107 愛知県庁舎実施設計図　貴賓室詳細図　愛知県営繕課　1935(昭和 10)年 8 月　愛知県公文書館
108 愛知県庁舎実施設計図　正庁詳細図　其ノ一　愛知県営繕課　1935(昭和 10)年 8 月　愛知県公文書館
109 愛知県庁舎新築落成記念　愛知県営繕課　1938(昭和 13)年　愛知県公文書館
110 四代目神奈川県庁舎彩色立面図　岡　義男　現代　個人(神奈川県立歴史博物館保管)
111 開港記念横浜会館彩色立面図　岡　義男　現代　個人(神奈川県立歴史博物館保管)
112 開港記念横浜会館図譜　清水組横浜支店　1917(大正 6)年 11 月　横浜開港資料館
113 横浜税関本関彩色立面図　岡　義男　現代　個人(神奈川県立歴史博物館保管)
114 横浜正金銀行本店本館彩色立面図　岡　義男　現代　個人(神奈川県立歴史博物館保管)
115 空襲を免れた神奈川県庁舎　1945（昭和 20）年 10 月 16 日　米国国立公文書館
116-1 神奈川県庁本庁舎現況　外観　2009(平成 21)年撮影
116-2 神奈川県庁本庁舎現況　正面玄関ホール　2012(平成 24)年撮影
116-3 神奈川県庁本庁舎現況　正面玄関ホール階段の装飾灯の宝相華　2012(平成 24)年撮影
116-4 神奈川県庁本庁舎現況　大会議場(旧議場)　2012(平成 24)年撮影
116-5 神奈川県庁本庁舎現況　第 3 応接室(旧貴賓室)　2012(平成 24)年撮影
116-6 神奈川県庁本庁舎現況　第 3 応接室シャンデリアの宝相華　2012(平成 24)年撮影
116-7 神奈川県庁本庁舎現況　第 3 応接室ドアの宝相華　2012(平成 24)年撮影
116-8 神奈川県庁本庁舎現況　知事室　2012(平成 24)年撮影
116-9 神奈川県庁本庁舎現況　旧正庁　2012(平成 24)年撮影
116-10 神奈川県庁本庁舎現況　旧正庁前廊下の宝相華　2012(平成 24)年撮影
117 京都府庁舎彩色立面図　岡　義男　現代　個人
118 山形県庁舎彩色立面図　岡　義男　現代　個人
119 山口県庁舎彩色立面図　岡　義男　現代　個人
120 旧諸戸邸(鎌倉市長谷子ども会館)実測調査図面　南立面図　横浜国立大学吉田鋼市研究室　1994(平成 6)年　横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院建築史・建築芸術研究室
121 旧諸戸邸（鎌倉市長谷子ども会館）実測調査図面　西立面図　横浜国立大学吉田鋼市研究室　1994(平成 6)年　横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院建築史・建築芸術研究室
122 旧華頂宮邸実測調査図面　南立面図　横浜国立大学吉田鋼市研究室　1985(昭和 60)年　横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院建築史・建築芸術研究室
123 旧東伏見宮別邸(イエズス孝女会修道院旧館)実測調査図面　南立面図　横浜国立大学吉田鋼市研究室　1985(昭和 60)年　横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院建築史・建築芸術研究室
124 旧東伏見宮別邸(イエズス孝女会修道院旧館)実測調査図面　西立面図　横浜国立大学吉田鋼市研究室　1985(昭和 60)年　横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院建築史・建築芸術研究室
125 松籟荘実測調査図面　北立面図　横浜国立大学吉田鋼市研究室　1984(昭和 59)年　横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院建築史・建築芸術研究室
126 松籟荘実測調査図面　西立面図　横浜国立大学吉田鋼市研究室　1984(昭和 59)年　横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院建築史・建築芸術研究室
127 松籟荘ステンドグラス　1931(昭和 6)年頃　茅ヶ崎市文化資料館
128 松籟荘灰皿　1931(昭和 6)年頃　茅ヶ崎市文化資料館
129 富士屋ホテル実測調査図面　本館正面立面図　横浜国立大学吉田鋼市研究室　1984(昭和 59)年～1985(昭和 60)年　横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院建築史・建築芸術研究室
130 富士屋ホテル実測調査図面　二号館北東立面図　横浜国立大学吉田鋼市研究室　1984(昭和 59)年 横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院建築史・建築芸術研究室
131 富士屋ホテル実測調査図面　花御殿正面立面図　横浜国立大学吉田鋼市研究室　1985(昭和 60)年 横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院建築史・建築芸術研究室
132 富士屋ホテル実測調査図面　アイリー北立面図　横浜国立大学吉田鋼市研究室　1984(昭和 59)年 横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院建築史・建築芸術研究室
133 富士屋ホテル実測調査図面　食堂北立面図　横浜国立大学吉田鋼市研究室　1985(昭和 60)年　横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院建築史・建築芸術研究室
134 富士屋ホテル彩色写真　明治時代　神奈川県立歴史博物館
135 横浜海岸通之図　歌川広重(三代)　1870(明治 3)年　神奈川県立歴史博物館
136 横浜海岸之風景　五雲亭貞秀　1869(明治 2)年頃　神奈川県立歴史博物館
137 氷川丸一等船客サロン(社交室)カラースキーム(透視図)(横浜市指定文化財)　マルク・シモン　1928(昭和 3)年頃　三菱重工業横浜製作所

138 氷川丸主階段カラースキーム(側面図)(横浜市指定文化財)　マルク・シモン　928(昭和3)年頃　三菱重工業横浜製作所
139 氷川丸竣工写真　1930(昭和5)年　日本郵船歴史博物館
140 氷川丸パンフレット　日本郵船株式会社　1932(昭和7)年9月　日本郵船歴史博物館
141 横須賀明細弐覧図　山本良助　1885(明治18)年8月　神奈川県立歴史博物館
142 横須賀製鉄所副首長官舎跡出土「ヨコスカ製鋲所」刻印入り煉瓦　明治時代　横須賀市教育委員会
143 横須賀製鉄所副首長官舎跡出土「ヨコスカ造船所」刻印入り煉瓦　明治時代　横須賀市教育委員会
144 猿島砲台跡出土「東洋組」刻印入り煉瓦　明治時代　横須賀市教育委員会
145 猿島砲台跡出土「東洋組西尾分局」刻印入り煉瓦　明治時代　横須賀市教育委員会
146 横須賀海軍軍需部比与宇火薬庫出土「い」刻印入り煉瓦　明治時代　横須賀市教育委員会
147 横須賀海軍軍需部比与宇火薬庫出土「○」刻印入り煉瓦　明治時代　横須賀市教育委員会
148 観音崎第3砲台跡出土「桜（単弁a種）」刻印入り煉瓦　明治時代　横須賀市教育委員会
149 小原台堡塁跡出土「桜（単弁a種・単弁b種）」刻印入り煉瓦　明治時代　横須賀市教育委員会
150 小原台堡塁跡出土「桜（複弁a種）」刻印入り煉瓦　明治時代　横須賀市教育委員会
151 小原台堡塁跡出土「桜（複弁b種）」刻印入り煉瓦　明治時代　横須賀市教育委員会
152 小原台堡塁跡出土「桜（つぼみ）」刻印入り煉瓦　明治時代　横須賀市教育委員会
153 千代ヶ崎砲台跡出土「桜（単弁a種）」刻印入り煉瓦　明治時代　横須賀市教育委員会
154 箱崎高砲台跡出土「横浜煉化」刻印入り煉瓦　明治時代　横須賀市教育委員会
155 旧横須賀海軍工廠製缶工場腰壁使用「日本煉瓦」刻印入り煉瓦　明治時代～大正時代　横須賀市教育委員会
156 旧横須賀海軍工廠製缶工場腰壁使用「大阪窯業」刻印入り煉瓦　明治時代～大正時代　横須賀市教育委員会
157 第三海堡跡出土「C」刻印入り煉瓦　大正時代　横須賀市教育委員会
158 横須賀海軍経理部付属家壁使用透孔（鉄筋）煉瓦　昭和戦前期　横須賀市教育委員会
159 横須賀海軍経理部付属家壁使用透孔（鉄筋）煉瓦（「特許」刻印あり）　昭和戦前期　横須賀市教育委員会
160 竣工当時の日産自動車本社ビル　1935(昭和10)年頃　日産自動車横浜工場
161 日産自動車横浜工場敷地と本社ビル(『日産の工場見学』所収)　日産自動車株式会　1958(昭和33)年6月　日産自動車横浜工場

ウ　こもんじょ ざんまい―鎌倉ゆかりの中世文書―

会　期：平成25年10月5日(土)～12月1日(日)
主　催：神奈川県立歴史博物館
共　催：神奈川県立金沢文庫
後　援：神奈川新聞社、朝日新聞横浜総局、毎日新聞社横浜支局、読売新聞東京本社横浜支局、産経新聞社横浜総局、東京新聞横浜支局、日本経済新聞社横浜支局、NHK横浜放送局、ｔｖｋ(テレビ神奈川)
展示資料件数：199件　270点
入場者数：　10,331名(有料2,552名、無料7,779名)
担　当：主任学芸員　古川 元也、専門学芸員　永井 晋
概　要：　本展では武家文化発祥の地である鎌倉を中心とする東国世界が生み出した古文書を一堂に展示した。日本では古くから多くの文書が作られ、大切に伝えられてきた。古文書は歴史を雄弁に物語ってくれるものだが、読みづらく難解であるという印象があるため敬遠されてしまいがちである。実際には中世の文書は様式を踏まえていて、それを知ることで文書をいっそう楽しむことができるようになる。また、文書はそこに書かれてある内容も重要だが、料紙や墨色、筆跡といった文書そのものの雰囲気も時代を知るには大切な要素である。
　そこで「もの」としての古文書に焦点を当てて、中世の文書を見直し、日頃目にする機会の少ない源頼朝、源義経、足利尊氏をはじめとする有名武将の文書をはじめ、寺社に秘蔵されてきた珍しい古文書からなる展示により、中世文書の楽しさ、美しさを堪能できる展示とした。

○特別展関連行事

①記念講演会Ⅰ(無料、ただし特別展観覧券が必要)
日　時：11月3日(日・祝)　14:00～16:00

演　題：中世古文書とその料紙
講　師：神奈川県立金沢文庫文庫長　永村　眞 氏
応募者：150 名
受講者：83 名

②記念講演会Ⅱ(無料、ただし特別展観覧券が必要)
日　時：11 月 23 日(土・祝) 14:00～16:00
演　題：古文書を修補する－宮内庁書陵部の修補から東日本大震災まで
講　師：元宮内庁修補室修補師長　横山　謙次 氏　　元宮内庁修補室修補師長
応募者：50 名
受講者：40 名

③県博セミナー (生涯学習課主管の県立機関活用講座、全 5 回連続、有料〈5,000 円・1 回のみの受の場合は 1,000 円〉14：00～16：00)
・全体テーマ：「鎌倉をとりまく中世文書の世界」(応募者 78 名)
・第 1 回　10 月 19 日(土) (受講者 42 名)
「こもんじょを鑑賞すること」 主任学芸員　古川 元也
・第 2 回　10 月 26 日(土) (受講者 46 名)
「鎌倉の中世文書」東京大学大学院人文社会学系研究科准教授　高橋 典幸 氏
・第 3 回　11 月 2 日(土) (受講者 47 名)
「武家文書の世界」 専門学芸員　永井 晋
・第 4 回　11 月 9 日(土) (受講者 39 名)
「金沢文庫の書状と聖教」 愛知学院大学文学部教授　福島 金治 氏
・第 5 回　11 月 16 日(土) (受講者 36 名)
「戦国大名北条氏とその文書」 専門員　鳥居 和郎

④紙漉体験講座
日　時：10 月 20 日(日)「植物から紙をつくる－みっちりと紙漉きを体験しよう－」
講　師：紙漉工房・小川和紙職人　田村 正 氏
場　所：当館会議室
応募者：16 名
参加者：12 名

⑤現地見学会「中世文書の世界を歩く」
日　時：11 月 14 日(木) 13:00～16:00
講　師：当館学芸員　鎌倉国宝館　阿部 能久 氏
応募者：54 名
参加者：27 名

⑥高校生向け古文書講座「歴史好き集まれ！」
日　時：11 月 10 日(日) 13:00～16:00
講　師：主任学芸員　古川 元也
応募者：21 名
受講者：16 名

⑦学芸員による展示解説
・第 1 回
日　時：10 月 13 日(日) 13:30～14:30
講　師：専門学芸員　永井 晋
参加者：70 名

・第2回
日　時：10月20日(日) 13:30～14:30
講　師：主任学芸員　古川 元也
参加者：24名
・第3回
日　時：10月27日(日) 13:30～14:30
講　師：専門学芸員　永井 晋
参加者：35名
・第4回
日　時：11月10日(日) 13:30～14:30
講　師：主任学芸員　古川 元也
参加者：45名
・ 第5回
日　時：11月17日(日) 13:30～14:30
講　師：専門学芸員　永井 晋
参加者：45名
・第6回
日　時：11月24日(日) 13:30～14:30
講　師：主任学芸員　古川 元也
参加者：45名

○出品目録

(凡例) No.、指定、資料名、紙数、製作年、時代、所蔵
(指定は◎：国指定重要有形文化財 ○:神奈川県指定有形文化財□:市町指定重要文化財)
(年月日は発給年、推定は括弧書)

〔序章　古文書のかたち〕
1-1 □　官宣旨（武蔵国宛）　一紙(一巻のうち)　嘉慶　二月三日　北朝時代　浄光明寺
1-2 □　官宣旨（伊豆国宛）　一紙(一巻のうち)　嘉慶三年二月三日　北朝時代　光明寺
2-1 ◎　宣旨（相模国宛）　一紙(一巻のうち)　至徳三年六月十五日　北朝時代　覚園寺
2-2 ◎　官宣旨（上総国宛）　一紙(一巻のうち)　至徳三年六月十五日　南北朝時代　覚園寺
3 ○　将軍家政所下文　一紙　弘安五年七月十六日　鎌倉時代　個人
4 ◎　将軍家政所下文　一紙　建久三年十月二十一日　鎌倉時代　山形大学小白川図書館
5 ○　源頼家袖判下文　一幅　正治二年正月二十五日　鎌倉時代　神奈川県立歴史博物館
6　関東下知状　一紙　正和二年十二月二十三日　鎌倉時代　東京大学文学部
7 ○　源頼朝下文　一紙(一巻のうち)　元暦二年八月二十一日　鎌倉時代　鹿島神宮
8 ○　源実朝奥上判下文　一紙(一巻のうち)　元久二年八月二十三日　鎌倉時代　鹿島神宮
9 ○　安達泰盛奉書　一紙(一巻のうち)　文永五年十一月十七日　鎌倉時代　鹿島神宮
10 □　関東下知状　一紙(巻一のうち)　嘉暦四年正月二十三日　鎌倉時代　立川市歴史民俗資料館
11 □　関東下知状　一紙(巻一のうち)　嘉暦四年八月七日　鎌倉時代　立川市歴史民俗資料館
12 □　関東下知状　一紙(巻一のうち)　文保二年十二月十日　鎌倉時代　立川市歴史民俗資料館
13-1 □　交名　一紙(巻一のうち)　鎌倉時代　立川市歴史民俗資料館
13-2 □　交名断簡　一紙(巻一のうち)　鎌倉時代　立川市歴史民俗資料館
14-1 ◎　関東下知状　一紙　寛元元年十二月二十三日　鎌倉時代　慶應義塾図書館
14-2 ◎　関東下知状案　一紙　元弘三年八月二十一日　南北朝時代　慶應義塾図書館
14-3 関東下知状続紙　三紙　永仁三年三月二十八日　鎌倉時代　東北大学大学院文学研究科日本史研究室
15-1 ◎　関東下知状　一紙　久二年十二月十日　鎌倉時代　山形大学小白川図書館
15-2 ◎　関東下知状　一紙　元久二年二月二十二日　鎌倉時代　山形大学小白川図書館
15-3 ◎　桓武平氏諸流系図　巻き替えあり　室町時代　山形大学小白川図書館
16 ○　関東下知状　一紙(一巻のうち)　正安三年三月三日　鎌倉時代　鹿島神宮
17-1 ◎　後醍醐天皇綸旨　一紙(一巻のうち)　元弘三年十二月二十一日　南北朝時代　覚園寺

17-2 ◎　後醍醐天皇綸旨　一紙(一巻のうち)　建武元年八月五日　南北朝時代　覚園寺
17-3 ◎ 光厳上皇院宣　一紙(一巻のうち)　八月十四日　南北朝時代　覚園寺
17-4 ◎　後醍醐天皇綸旨　一紙(一巻のうち)　康暦元年四月二十一日　南北朝時代　覚園寺
18 □　後醍醐天皇綸旨　一紙（一巻のうち）　元弘三年十月五日　南北朝時代　浄光明寺
19 □　成良親王令旨　一紙（一巻のうち）　元弘三年十二月二十日　南北朝時代　浄光明寺
20 ○　護良親王令旨　一紙　元弘三年五月二十六日　南北朝時代　個人
21-1 □　後白河上皇院宣　一紙(一巻のうち)　(寿永二年)七月十七日　平安時代　多聞院
21-2 □　後嵯峨上皇院宣　一紙(一巻のうち)　(建長二年)十二月二十九日　鎌倉時代　多聞院
21-3 □　光厳上皇院宣　一紙(一巻のうち)　貞和二年五月二十四日　南北朝時代　多聞院
22 久我前右大臣家御教書　一紙　暦応三年十一月七日　南北朝時代　東京大学文学部
23 ◎　尼浄智申状　一紙　元弘三年十二月日　南北朝時代　山形大学小白川図書館
24 □　足利尊氏御判御教書　一紙(一巻のうち)　観応三年十月十五日　南北朝時代　浄光明寺
25-1 ◎　足利直義御判御教書　一紙(一巻のうち)　建武三年十一月二十七日　北朝時代　覚園寺
25-2 ◎　足利尊氏御判御教書　一紙(一巻のうち)　貞和二年五月七日　南北朝時代　覚園寺
25-3 ◎　御判御教書　一紙(一巻のうち)　文和三年十二月八日　南北朝時代　覚園寺
25-4 ◎　足利基氏御判御教書　一紙(一巻のうち)　文和二年十月二十九日　南北朝時代　覚園寺
26　土屋宗直軍忠状　一幅　建武二年九月二日　南北朝時代　神奈川県立歴史博物館
参考 □　守邦親王寄進状　一紙(一巻のうち)　正和元年八月十一日　鎌倉時代　鎌倉国宝館
27 □　関東御教書　一紙(一巻のうち)　文永六年二月十六日　鎌倉時代　鎌倉国宝館
28 □　関東御教書　1紙(一巻のうち)　正和六年正月十二日　鎌倉時代　鎌倉国宝館
29 □　北条高時書状　一紙(一巻のうち)　十月二十日　鎌倉時代　鎌倉国宝館
参考 □　足利直義御判御教書　一紙(一巻のうち)　貞和元年十二月十九日　南北朝時代　鎌倉国宝館
参考 □　足利直義御判御教書　一紙(一巻のうち)　観応二年六月二十五日　南北朝時代　鎌倉国宝館
参考 □　今川範国奉書　一紙(一巻のうち)　観応三年五月九日　南北朝時代　鎌倉国宝館
30 □　足利尊氏御判御教書　一紙(一巻のうち)　観応三年五月十三日　南北朝時代　鎌倉国宝館
31 □　足利尊氏安堵状　一紙(一巻のうち)　観応三年九月三日　南北朝時代　鎌倉国宝館
32 □　足利尊氏御判御教書　一紙(一巻のうち)　観応三年十月七日　南北朝時代　鎌倉国宝館
参考 □　吉良貞家書状　一紙(一巻のうち)　八月六日　南北朝時代　鎌倉国宝館
参考 □　足利氏満御判御教書　一紙(一巻のうち)　永和四年五月二十六日　南北朝時代　鎌倉国宝館
34 □　足利氏満御判御教書　一紙(一巻のうち)　永徳元年十一月十八日　南北朝時代　鎌倉国宝館
35 □　足利氏満寄進状　一紙(一巻のうち)　永徳二年二月二十三日　南北朝時代　鎌倉国宝館
参考 □　足利義持御判御教書　一紙(一巻のうち)　五月十九日　室町時代　鎌倉国宝館
参考 □　上杉憲定奉書　一紙(一巻のうち)　応永十四年三月十五日　室町時代　鎌倉国宝館
参考 □　上杉氏憲奉書　一紙(一巻のうち)　応永十七年十月十一日　室町時代　鎌倉国宝館
参考 □　足利持氏御判御教書　一紙(一巻のうち)　応永二十五年十二月十三日　室町時代　鎌倉国宝館
36 足利氏満御教書　一紙　明徳四年三月晦日　室町時代　慶應義塾図書館
36-1 ◎　足利高氏書状　一紙　（元弘三年）六月七日　南北朝時代　東京大学史料編纂所
36-2 ◎　足利高氏書状　一紙　（元弘三年）六月八日　南北朝時代　東京大学史料編纂所
37 足利義昭御内書　一紙　六月十二日　室町時代　神奈川県立歴史博物館
38 ◎　源頼朝善光寺参詣由緒　二紙　建久八年三月二十三日　鎌倉時代　慶應義塾図書館
39 足利尊氏髻御教書　一紙　建武三年二月五日　南北朝時代　慶應義塾図書館
40 一切経御供米請状　一紙　永仁三年五月十二日　鎌倉時代　慶應義塾図書館
41 兵庫北関公用銭切符　一紙(一巻のうち)　文安二年十月二十三日　南北朝時代　慶應義塾大学文学部古文書室
42 利銭借用状　一紙(一巻のうち)　康永二年八月十七日　北朝時代　慶應義塾大学文学部古文書室
43 ◎　称名寺講堂上棟日時勘文　一紙　元亨元年十二月三日　鎌倉時代　称名寺
44 ◎　新田義貞証判市河経助着到状　一紙(一巻のうち)　元弘三年六月七日　南北朝時代　本間美術館
45 ◎　中野家平着到状　一紙(一巻のうち)　元弘三年五月八日　南北朝時代　本間美術館
46 足利尊氏証判小河成春軍忠状　一紙　建武三年正月四日　南北朝時代　慶應義塾図書館
47 新田義貞証判市村王石丸軍忠状　一紙　元弘三年六月十四日　南北朝時代　東京大学文学部
48 豊島範泰軍忠状　一紙　応永二十四年正月日　室町時代　国立公文書館

49 某売券　一紙(一巻のうち)　嘉暦三年十二月八日　鎌倉時代　慶應義塾大学文学部古文書室
50 興福寺年預下知状　一紙(一巻のうち)　建武二年十一月十一日　南北朝時代　慶應義塾大学文学部古文書室
51 今下済通売券　一紙(一巻のうち)　応安元年四月二十一日　南北朝時代　慶應義塾大学文学部古文書室
52 妙性売券　一紙(一巻のうち)　応永五年八月二十一日　室町時代　慶應義塾大学文学部古文書室

〔第１章　花押と墨色〕

1 源義経外題安堵源康忠解　一幅　寿永三年二月日　平安時代　個人
2 源義経書状　一幅　二月二十四日　鎌倉時代　個人
3 ◎　木曽義仲下文　一紙(一巻のうち)　治承四年十一月十三日　平安時代　本間美術館
4 ◎　将軍家政所下文　一紙(一巻のうち)　建久三年十二月十日　鎌倉時代　本間美術館
5 ◎　北条時政安堵状　一紙(一巻のうち)　建仁三年九月四日　鎌倉時代　本間美術館
6 ○　源頼朝袖判下文　一幅　建久三年九月十二日　鎌倉時代　神奈川県立歴史博物館
7 将軍家政所下文　一幅　建久三年九月十二日　鎌倉時代　個人
8 源頼朝袖判下文　一幅　寿永三年六月三日　平安時代　神奈川県立歴史博物館
9 源頼朝下文　一紙　治承五年十一月十一日　平安時代　東京大学文学部
10 ○　源頼朝書状　一紙(一帖のうち)　(文治元年)三月二日　平安時代　下関市立長府博物館
11-1 ○　源義経書状断簡　一紙(一帖のうち)　(寛元四年十一月三日)　鎌倉時代　下関市立長府博物館
11-2 ○　九条嗣頼袖判下文断簡　一紙(一帖のうち)　鎌倉時代　下関市立長府博物館
12 ○　足利義持御判御教書　一紙(一帖のうち)　応永二十九年十二月二十日　室町時代　下関市立長府博物館
13 ○　足利義教御判御教書　一紙(一帖のうち)　永享十年六月十三日　室町時代　下関市立長府博物館
14 ○　足利義輝御内書　一紙(一帖のうち)　四月二十三日　室町時代　下関市立長府博物館
15 ○　足利義昭御内書　一紙(一帖のうち)　八月十六日　室町時代　下関市立長府博物館
16 ○　少弐頼尚施行状　一紙(一帖のうち)　建武三年四月二十九日　南北朝時代　下関市立長府博物館
17 ○　名和長年軍勢催促状　一紙(一帖のうち)　建武二年二月二十日　南北朝時代　下関市立長府博物館
18 □　関東下知状　一幅　承久三年八月三十日　鎌倉時代　川崎市市民ミュージアム
19 ◎　北条時宗書下　一紙(一巻のうち)　(弘安四年)閏七月二十七日　鎌倉時代　三嶋大社
20 ◎　北条実時書状　一幅　文永十年三月二十九日　鎌倉時代　称名寺
21 六波羅施行状　一幅　延慶二年五月八日　鎌倉時代　神奈川県立歴史博物館
22 ◎　金沢貞顕書状　一紙　(嘉元三年)十二月九日　鎌倉時代　称名寺
23 ◎　金沢貞顕書状　一紙　三月六日　鎌倉時代　称名寺
24 ◎　金沢貞顕書状　一紙　元徳二年三月四日　鎌倉時代　称名寺
25 ◎　金沢貞将袖判盛久奉書　一紙　正慶元年七月五日　鎌倉時代　称名寺
26 管蠡抄　一紙　鎌倉時代　神奈川県立金沢文庫
27 ◎　倉栖兼雄書状　一巻(嘉元三年)　閏十二月十二日　鎌倉時代　称名寺
28 ◎　金沢貞顕書状・釼阿状裏書状　一紙　(元応元年)閏七月二十七日　鎌倉時代　称名寺
29 ◎　最勝光院御仏開眼次第　一冊　(延慶二年)六月十七日　鎌倉時代　称名寺
30 地頭政所某定書　一紙　建武二年三月十日　南北朝時代　大本山總持寺
31 足利義満御判御教書　一紙　応永六年六月十七日　室町時代　大本山總持寺
32 ◎　順忍書状　折本　十月十七日　鎌倉時代　称名寺
33-1 吉良貞家寄進状　一紙　応二年十一月二十日　南北朝時代　京大学文学部
33-2 吉良貞家充行状　一紙　観応二年九月二十二日　南北朝時代　東北大学大学院文学研究科日本史研究室
33-3 和賀吉勝代野田盛綱軍忠状　二年二月　北朝時代　北大学大学院文学研究科日本史研究室
33-4 吉良貞家感状　一紙　応二年二月日　北朝時代　北大学大学院文学研究科日本史研究室
33-5 結城顕朝書状　一紙　(観応二年)二月十三日　北朝時代　北大学大学院文学研究科日本史研究室保管
34-1 足利氏満寄進状　一紙(一巻のうち)　永徳二年十月二十九日　南北朝時代　別願寺
34-2 足利氏満寄進状　一紙(一巻のうち)　明徳二年九月八日　南北朝時代　別願寺
34-3 上杉朝宗施行状　一紙(一巻のうち)　応永七年九月二十八日　室町時代　別願寺
34-4 足利満兼寄進状　一紙(一巻のうち)　応永七年十二月三十日　室町時代　別願寺

〔第２章　権利と伝来〕

1 関東御教書　一紙　建長二年七月二十五日　鎌倉時代　神奈川県立歴史博物館
2-1 鶴岡八幡宮相撲奉行和与状　一紙　嘉暦元年八月二十日　鎌倉時代　神奈川県立歴史博物館
2-2 関東下知状　一紙　嘉暦元年十月十二日　鎌倉時代　神奈川県立歴史博物館
2-3 鶴岡八幡宮相撲奉職補任状　一紙　文明十二年二月十三日　室町時代　神奈川県立歴史博物館

3 上杉憲顕奉書　一紙　観応二年七月二十二日　南北朝時代　神奈川県立公文書館

4-1 ○　鹿島大神宮枝家禰宜職補任状　一紙(一巻のうち)　(永正四年) 八月六日　室町時代　鹿島神宮

4-2 鹿島大神宮補任状　一紙　天正十年十二月十八日　桃山時代　東京大学文学部

5-1 足利尊氏御判御教書　一紙　(一巻のうち)　文和元年十一月十五日　南北朝時代　妙本寺

5-2 足利持氏御教書　一紙(一巻のうち)　応永二十二年十二月二十日　室町時代　妙本寺

5-3 足利政氏書状　一紙(一巻のうち)　八月十六日　室町時代　妙本寺

6 ◎　北条高時書状　一幅　(正中二年) 五月二十一日　鎌倉時代　称名寺

7 ◎　右馬頭□泰寄進状　一紙　正平二十六年二月二十七日　南北朝時代　称名寺

8 ◎　益性法親王書状　一紙　三月五日　鎌倉時代　称名寺

9 ◎　足利直義安堵状　一紙　建武元年十一月十六日　南北朝時代　称名寺

10 ◎　足利直義書状　一紙　四月二十日　南北朝時代　称名寺

11-1 平某寄進状　一紙　永仁三年十一月三日　南北朝時代　大本山總持寺

11-2 沙弥某寄進状　一紙　建武元年十二月二十日　南北朝時代　大本山總持寺

11-3 某寄進状　一紙　元弘三年十一月日　南北朝時代　大本山總持寺

12-1 ○　足利直義御判御教書　一紙　暦応元年九月二十八日　南北朝時代　個人

12-2 ○　相模国早川荘内風祭郷訴論人系図　一紙　鎌倉時代　個人

13 ◎　称名寺領東六郎盛義三分之一具書案　一巻　南北朝時代　称名寺

14 ◎　下総国下河辺庄新方検見帳　一紙　嘉暦元年十月三日　鎌倉時代　称名寺

15 ◎　高師冬書状　一紙　貞和五年二月七日　南北朝時代　称名寺

16 ◎　益済所領沽券　一紙　元亨三年十二月二十六日　鎌倉時代　称名寺

17 ◎　尼序妙譲状　一紙 (一隻のうち)　康和四年六月二十四日　平安時代　大倉集古館

18-1 ○　足利直義下文　一紙(一巻のうち)　建武三年十二月十一日　南北朝時代　埼玉県立文書館

18-2 ○　高重茂奉書　一紙(一巻のうち)　建武四年四月十二日　南北朝時代　埼玉県立文書館

18-3 ○　高師直宛行状　一紙(一巻のうち)　観応六年八月九日　南北朝時代　埼玉県立文書館

18-4 ○　安保光泰譲状　一紙(一巻のうち)　暦応三年正月二十四日　南北朝時代　埼玉県立文書館

19-1 足利尊氏袖判下文　一紙(一巻のうち)　正平七年二月十六日　南北朝時代　横浜市立大学学術情報センター

19-2 足利尊氏袖判下文　一紙(一巻のうち)　元弘三年十二月二十九日　南北朝時代　横浜市立大学学術情報センター

参考 鎌倉府執事高重茂奉書　一紙(一巻のうち)　建武三年十二月十七日　南北朝時代　横浜市立大学学術情報センター

20 所領譲渡目録　一紙(一巻のうち)　暦応三年十一月二十四日　南北朝時代　横浜市立大学学術情報センター

21-1 関東公方足利氏満御教書　一紙(一巻のうち)　永徳二年四月四日　南北朝時代　横浜市立大学学術情報センター

21-2 関東公方足利氏満御教書　一紙(一巻のうち)　永徳二年十一月二日　南北朝時代　横浜市立大学学術情報センター

21-3 関東公方足利氏満御教書　一紙(一巻のうち)　永徳二年十二月二十五日　南北朝時代　横浜市立大学学術情報センター

21-4 関東公方足利氏満御教書　一紙(一巻のうち)　応永二年十月十七日　南北朝時代　横浜市立大学学術情報センター

22-1 後小松天皇口宣案　一紙(一巻のうち)　応永十六年七月二日　室町時代　横浜市立大学学術情報センター

22-2 後小松天皇口宣案　一紙(一巻のうち)　応永十六年七月二日　室町時代　横浜市立大学学術情報センター

23-1 沙弥円忍譲状　一紙(一巻のうち)　文保二年四月三日　鎌倉時代　慶應義塾図書館

23-2 関東下知状　一紙(一巻のうち)　文保二年七月二十九日　鎌倉時代　慶應義塾図書館

24-1 水谷重親譲状　一紙(一巻のうち)　正慶元年十二月十四日　鎌倉時代　慶應義塾図書館

24-2 水谷重親着到状(足利尊氏証判)　一紙(一巻のうち)　元弘三年六月二日　南北朝時代　慶應義塾図書館

25 足利尊氏感状　一紙(一巻のうち)　建武三年九月五日　南北朝時代　慶應義塾図書館

26 水谷重親軍忠状(摂津親秀証判)　一紙(一巻のうち)　建武三年九月日　南北朝時代　慶應義塾図書館

27 足利直義軍勢催促状　一紙(一巻のうち)　建武四年八月三日　南北朝時代　慶應義塾図書館

28 上杉重能証判成田親貞軍忠状　一紙(一巻のうち)　建武五年三月日　南北朝時代　慶應義塾図書館

29 足利直義下文　一紙(一巻のうち)　康永四年五月二十七日　南北朝時代　慶應義塾図書館

30 六箇里通時言上状　一紙(一巻のうち)　貞和六年十一月日　南北朝時代　慶應義塾図書館

31 足利直冬御教書　一紙(一巻のうち)　貞和六年十一月二十八日　南北朝時代　慶應義塾図書館

参考 ◎　浄光明寺敷地絵図　一点　南北朝時代　浄光明寺

32 ◎　上杉重能施行状　一紙　建武元年三月六日　南北朝時代　三嶋大社矢田部家

33 ◎　石堂義房打渡状　一紙（一巻のうち）　建武元年十月十七日　南北朝時代　三嶋大社
34 ◎　鎌倉府奉行人連署奉書　一紙（一巻のうち）　観応二年十一月十三日　南北朝時代　三嶋大社
35 ◎　上杉憲顕書状　一紙(一巻のうち)　(貞和五年ヵ)五月九日　南北朝時代　三嶋大社矢田部家
36 ◎　足利基氏御判御教書　一紙　延文元年八月六日　南北朝時代　三嶋大社
37 ◎　足利基氏御教書　一紙(一巻のうち)　康安二年七月六日　南北朝時代　三嶋大社
38 ◎　足利基氏御教書　一紙(一巻のうち)　康安二年四月二十五日　南北朝時代　三嶋大社
39 足利基氏還補状　一紙　貞治五年四月二十二日　南北朝時代　神奈川県立公文書館
参考 足利持氏寄進状　一紙　応永三十年霜月十一日　室町時代　神奈川県立公文書館
40 足利政氏書状　一幅　(明応六年ヵ)十月一日　室町時代　個人

〔第３章　墨跡と置文〕
1 ◎　釼阿置文　二紙　建武五年六月二十六日　南北朝時代　称名寺
2 ◎　智海心慧置文　一幅　嘉元四年四月十一日　鎌倉時代　覚園寺
3 ◎　尼妙阿譲状　一紙　文永六年十月十日　鎌倉時代　慶應義塾図書館
4 民安占子家地処分状　一紙(一巻のうち)　延喜九年十一月十五日　平安時代　国立公文書館
5 ◎　相良蓮道置文　一紙　延慶四年二月二十五日/三月五日　鎌倉時代　慶應義塾図書館
6 □　薬師堂免田畠寄進状　一紙(一巻のうち)　嘉吉二年四月二十六日　室町時代　宝生寺
7 ◎尼忍照置文　一紙　正和三年二月二十八日　鎌倉時代　東京大学史料編纂所
8 ◎渋谷定心置文　一紙　寛元三年五月十一日　鎌倉時代　東京大学史料編纂所
9-1 □　良忠上人附法状　一紙(一巻のうち)　弘安九年九月六日　鎌倉時代　光明寺
9-2 □　良忠上人附法状　一紙(一巻のうち)　弘安十年六月日　鎌倉時代　光明寺
10-1 □　良忠上人譲状　一紙(一巻のうち)　文永九年正月十六日　鎌倉時代　光明寺
10-2 □　良忠上人譲状　一紙(一巻のうち)　弘安九年八月日　鎌倉時代　光明寺
11-1 □　真阿上人譲状　一紙(一巻のうち)　永仁四年正月二十三日　鎌倉時代　浄光明寺
11-2 □　石橋禅梁坊地売券　一紙(一巻のうち)　永和四年十二月二十七日　南北朝時代　浄光明寺
12-1 袖判下文(吉書)　一紙(一巻のうち)　元応三年一月三日　鎌倉時代　東北大学附属図書館
12-2 足利貞氏吉書　一紙(一巻のうち)　永仁二年正月二日　鎌倉時代　東北大学附属図書館
13-1 足利氏所領奉行人番文　二紙(一巻のうち)　応安四年四月二十日　南北朝時代　東北大学附属図書館
13-2 倉持氏文書目録　一紙(一巻のうち)　寛正六年　室町時代　東北大学附属図書館
14 東大寺文書目録　二紙(一巻のうち)　建久年間　鎌倉時代　慶應義塾文学部古文書室
15 總持寺文書目録　一紙　貞治五年十二月五日　南北朝時代　大本山總持寺
16-1 ◎　覚園寺文書目録　二紙(一巻のうち)　康永元年八月三日　南北朝時代　覚園寺
16-2 ◎　覚園寺文書目録　二紙(一巻のうち)　応永十四年六月十九日　室町時代　覚園寺
17-1 定賢寺領敷地寄進状　一幅　元亨元年七月二十二日　鎌倉時代　大本山總持寺
17-2 定賢寄進状　一紙　嘉暦四年二月十三日　鎌倉時代　大本山總持寺
18 関東下知状　一紙　永仁六年七月十三日　鎌倉時代　東京大学文学部
19 ◎　足利持氏血書願文　一紙　永享六年三月十八日　室町時代　鶴岡八幡宮
20 ◎　不断光明真言并浄土宗等四宗興隆發願文　三紙(一巻のうち)　正和三年十一月十四日　鎌倉時代　覚園寺
21 ◎　鎌倉府侍所禁制　一紙(一巻のうち)　貞和四年五月日　南北朝時代　覚園寺
22 ○　上杉憲政願文　一紙(一巻のうち)　天文十一年六月吉日　室町時代　鹿島神宮
23 ○　弥勒院恵堅霊夢記　一紙(一巻のうち)　永禄四年四月日　室町時代　鹿島神宮
24 ○　石室善久墨跡　一幅　応安二年　南北朝時代　神奈川県立歴史博物館
25 ○　清拙正澄墨跡　一幅　建武五年春八月　南北朝時代　神奈川県立歴史博物館
〔第４章　料紙の妙味〕
1 ◎　伊豆国司庁宣　一紙　建長元年十月日　鎌倉時代　三嶋大社
2 ◎　性心書状　二紙　嘉暦二年閏九月六日　鎌倉時代　称名寺
3 ◎　平氏女諷誦文　一紙　嘉暦元年十一月三日　鎌倉時代　称名寺
4 杉原式部丞元助書状案　一紙　十一月九日　桃山時代　慶應義塾文学部古文書室
5 ◎　審海授釼阿伝法灌頂印信　一紙　乾元元年十二月十八日　鎌倉時代　個人
6 ◎　金沢貞顕書状　一紙　十二月四日　鎌倉時代　称名寺
7 ◎　向山景定書状　一紙　徳治二年四月二十五日　鎌倉時代　称名寺
8 ◎　金沢貞顕書状　一紙　四月十六日　鎌倉時代　称名寺
9 ◎　金沢貞顕書状　一紙　正月十五日　鎌倉時代　称名寺

10 ◎　金沢貞顕書状　一紙　(徳治二年)二月一日　鎌倉時代　称名寺
11 ◎　倉栖兼雄書状　二紙　(徳治二年)二月一日　鎌倉時代　称名寺
12-1 北条氏伝馬手形　一巻　(天正十一年)七月二十八日　桃山時代　早稲田大学図書館
12-2 北条家船手形朱印状　一幅　天正二年七月十日　桃山時代　横浜市歴史博物館
12-3 北条家船手形朱印状　一紙　天正二年七月十日　桃山時代　神奈川県立歴史博物館
13 豊臣秀吉朱印状　一幅　天正十七年十一月二十四日　桃山時代　早稲田大学図書館
14 徳川家康起請文　一紙　(天正十年)十月二十四日　桃山時代　神奈川県立歴史博物館
15 豊臣秀吉朱印状　一巻　(天正十九年)二月七日　桃山時代　神奈川県立歴史博物館
16 □　豊臣秀吉禁制　一紙　天正十八年卯月　桃山時代　浄光明寺
17 妙法経料足寄進札　一枚　弘治三年八月二十六日　桃山時代　個人

〔第５章　紙背文書と胎内文書〕

1 武蔵国留守所代某書状　一紙(一巻のうち)　七月十六日　鎌倉時代　早稲田大学図書館
2 某書状　一紙(一巻のうち)　正月二十二日　鎌倉時代　早稲田大学図書館
3 某書状　一紙(一巻のうち)　卯月晦日　鎌倉時代　早稲田大学図書館
4 ◎　関東御教書案　一紙(一巻のうち)正和二年五月八日　鎌倉時代　鶴岡八幡宮
5 ◎　沙弥道秀書状并三浦高経返書　一紙　(建武四年)六月十二日　南北朝時代　山形大学小白川図書館
6 ◎　兵法供記　一冊　鎌倉時代　称名寺
7 ◎　金発揮抄　一冊　鎌倉時代　称名寺
8 ○　僧形八幡神坐像像内納入文書　数葉　弘安五年以前　鎌倉時代　峯が岡八幡神社
9-1 伏見上皇院宣案　一紙　(正安元年)十月二十八日　鎌倉時代　個人
9-2 落書起請文　一紙　永和三年九月十五日　南北朝時代　個人
10 ◎　めうき童年紀売券　一紙(一巻のうち)　康応二年三月十四日　南北朝時代　覚園寺
11 ◎　大番用途請取状　五紙　建武元年四月二十一日ほか　南北朝時代　覚園寺
12 ◎　土橋知事書状　一紙　六月十七日　南北朝時代　称名寺
13 ◎　氏名未詳書状　一紙　(元徳三年)十月　南北朝時代　称名寺
14 ◎　釼阿書状・長井貞秀状裏書状　一紙　乃刻　鎌倉時代　称名寺
15-1 ◎　恵翁書状・長井貞秀請返状　一紙　九月二十二日　鎌倉時代　称名寺
15-2 ◎　釼阿書状・長井貞秀状裏書状　一紙　乃刻　鎌倉時代　称名寺

〔第６章　かな文書の世界〕

1 ◎　女子いぬまさ売券　一紙　元亨四年十一月十九日　鎌倉時代　称名寺
2 ◎　金沢貞顕書状　一紙　鎌倉時代　称名寺
3 ◎　氏名未詳書状　一紙　鎌倉時代　称名寺
4 □　鎌倉時代仮名消息　一紙(一巻のうち)　鎌倉時代横浜市歴史博物館
5 ◎　沙弥道秀譲状　一紙　建武四年六月十日　南北朝時代　山形大学小白川図書館
6-1 大河戸隆行申状并陸奥国宣　一紙　建武元年八月日　南北朝時代　東北大学大学院文学研究科日本史研究室
7 ◎　万福寺百姓等申状　一紙　鎌倉時代　称名寺
8 ◎　足利尊氏自筆清水寺奉納願文　一幅　建武三年八月十七日　南北朝時代　常盤山文庫
9 豊臣秀吉書状　一幅　(天正十八年)五月十四日　桃山時代　神奈川県立歴史博物館
10 ◎　向山敦利裏書状　一紙　十一月二十五日　鎌倉時代　称名寺
11-1 ◎　日課諷誦日記　五紙(一巻のうち)　応永十年四月十五日～　室町時代　覚園寺
11-2 ◎　落書　二紙(一巻のうち)　室町時代　覚園寺
12 ◎　くわんしやう譲状　一紙　元応元年五月三十日　南北朝時代　国立公文書館
13 □　堀之内百姓連署請文　一紙(一巻のうち)　天文十一年十一月十五日　室町時代　宝生寺
14-1 沙弥西信譲状　一紙　弘安七年正月十六日　鎌倉時代　個人
14-2 関東下知状　一紙　嘉暦四年八月七日　鎌倉時代　個人
14-3 関東下知状　一紙　正和四年十二月二十七日　鎌倉時代　個人
15-1 ◎　相良迎蓮譲状　一紙　正応三年五月八日　鎌倉時代　慶應義塾図書館
15-2 ◎　相良迎蓮譲状　一紙　正応三年五月八日　鎌倉時代　慶應義塾図書館
16 日朗上人書状　一幅　応長二年三月二十日　鎌倉時代　妙本寺

(3) コレクション展

1階フリーゾーンにあるコレクション展示室において、常設展示では紹介しきれない館のコレクションの一部を、2〜3ヶ月ごとに展示している。観覧料無料。

「アメリカ人女性が巡った明治の日本」

会　期：平成26年3月15日(土)〜平成26年4月13日(日)
展示資料点数：87点
出品リスト・解説配布数：　1,525枚
担　当：主任学芸員　嶋村 元宏

概　要：　日本が開国した19世紀半ばは、鉄道および船舶航路などの交通網が整備されたこともあり、多くの欧米人が世界旅行を楽しむグローブトロッター（世界漫遊家）の時代だった。そのような旅行者のひとりだった米国人女性ルイーズ・ウィリアムズが1897年の夏に横浜の地を踏み、その後日光、東京、箱根、伊勢、京都、神戸、広島、長崎を巡り日本を離れるまでの間に観光したり、買い物をしたりした際に入手し、その後も大切にのこしていたショップカード、領収書、古写真などを紹介した。米国人ウィリアムズが来日した当時、東北地方は前年に発生した明治三陸地震からの復興の途中であり、また1895年の日清講和条約（下関条約）に対する三国干渉のため、日本を取り巻く国際環境は必ずしも良好とはいえない時期であった。そのような状況下に旅をしたウィリアムズがのこしてくれたものを通して、今日に至るまで外国人を魅了してやまない日本の文化を再確認する機会とした。

○　コレクション展関連行事

①記念講演会（無料、ただし常設展観覧料が必要）

日　時：3月30日(日) 14:00〜16:00
演　題：「世界漫遊家の時代」
講　師：元横浜開港資料館調査研究員 伊藤 久子 氏
応募者：28名
受講者：24名

②学芸員による展示解説

・第1回
日　時：3月22日(土)　13：30〜
講　師：主任学芸員　嶋村 元宏
参加者：8名

・第2回
日　時：4月6日(日)　13：30〜
講　師：主任学芸員　嶋村 元宏
参加者：25名

・第3回
日　時：4月13日(日)　13：30〜
講　師：主任学芸員　嶋村 元宏
参加者：12名

○　出品目録

(凡例)　No.、資料名、製作者など、時代

1 外国人内地旅行免状と附属書類　神奈川県庁／ジョン・マックリーン　明治30年8月18日
2 神奈川県庁の封筒　神奈川県庁　明治30年
3 ディナー・メニュー　グランドホテル　明治30年8月19日
4 ホテルオリジナル便箋　グランドホテル　明治時代
5 外国人宿泊者向け横浜明細地図　グランドホテル　明治時代
6 外国人宿泊者向け旅行ガイド　グランドホテル　明治時代

7 日光から米国へ書留を送った際の受領証　明治30年8月22日
8 日光から米国へ書留を送った際の受領証　明治30年8月22日
9 電報送達紙　チウゼンジ　レーキホテル　明治30年8月26日
10 中禅寺湖・和泉屋の宿泊証明書　明治30年8月30日
11 金谷ホテル沖田弥太郎宛神戸三宮山口運送店今井松之助配送状　神戸　今井松之助明治30年8月30日
12 野州二荒山中宮祠之図と外袋　田嶌鑛之助（発行者）　明治27年
13 野州二荒山中宮祠之図と外袋　田嶌鑛之助(発行者)　明治27年12月
14 東照宮金幣祈祷祭図　秦虎四郎(発行者)　明治30年3月
15 金幣祈祷祭順序・御宮殿内模様略記　　明治30年1月
16 大日本帝国日光山一覧全図の外袋　明治時代
17 日光山中宮祠撰八景之図　明治時代
18 神橋の名金堂名物 ねりようかんの広告　名金堂　明治30年
19 金谷ホテルのカード(裏面)交通案内　金谷ホテル　明治時代
20 W付沖田弥太郎宛封筒　金谷ホテル　明治時代
21 日刊 輸出入新聞　Box of Curios Printing Office　明治30年9月2日
22 キシヨシトモから贈られた「金沢八景」の写真　キシヨシトモ　明治30年9月3日
23 キシヨシトモから贈られた「金沢八景」の写真　キシヨシトモ　明治30年
24 玉村写真館の領収書　玉村写真店　明治30年9月7日
25 沼島美術店のショップカード　J. NUMASHIMA'S　明治時代
26 松石屋(井村彦次郎陶器店)のショップカード　Matsu-ishi-ya　明治時代
27 THE WEEKLY BOX OF CURIOS　明治時代
28 NAKAMURAの領収書　NAKAMURA　明治30年9月9日
29 NAKAMURAの領収書　NAMAMURA　明治30年9月14日
30 東京彫工会からの招待状　東京彫工会　明治30年9月12日
31 講釈師・伊藤仁太郎(痴遊)による「都新聞笠森団子十一串」伊藤仁太郎　明治30年9月15日
32 米国宛書留郵便受取証　櫻田本郷町 石神　明治30年9月13日
33 米国宛書留郵便受取証　櫻田本郷町 石神　明治30年9月13日
34 米国宛書留郵便受取証　帝国ホテル 石神　明治30年9月17日
35 米国宛書留郵便受取証　帝国ホテル 石神　明治30年9月17日
36 帝国ホテルのオリジナル便箋(部分)　帝国ホテル　明治時代
37 中村商店のショップカード　中村商店　明治時代
38 道明(岩本伝七)のショップカード　道明 岩本伝七　明治時代
39 丸善書店の新刊書目録　丸善書店　明治時代
40 丸善書店の工業関係新刊書目録　丸善書店　明治30年8月30日
41 米国宛書留郵便受取証　明治30年9月21日
42 米国宛書留郵便受取証　明治30年9月21日
43 米国宛書留郵便受取証　明治30年9月21日
44 米国宛書留郵便受取証　明治30年9月21日
45 O. Komaiの領収書　O.Komai　明治30年9月26日
46 黒田の領収書　黒田　明治30年9月30日
47 也阿彌ホテルの領収書　也阿彌ホテル　明治30年10月7日ヵ
48 也阿彌ホテルのホテルカード　也阿彌ホテル　明治時代
49 古美術商 林新助のショップカード　林新助　明治時代
50 古代縫織物商 野村商会のショップカード　野村商会　明治時代
51 工芸品商井上吉兵衛のショップカード　井上吉兵衛　明治時代
52 請印彫刻司 晴湖堂 園田耕三のチラシ　園田耕三　明治時代
53 印章(瑠威須印)と印章付属物　園田耕三ヵ　明治30年10月頃
54 印章(瑠威須印)と印章付属物　明治30年10月頃ヵ
55 備前屋の領収書　備前屋　明治30年10月4日
56 備前屋の袋　備前屋　明治30年
57 山田ホテル宇仁館の領収書　山田ホテル 宇仁館　明治30年10月
58 山田ホテル宇仁館の領収書　山田ホテル 宇仁館　明治30年10月
59 神楽の領収証と包紙　皇大神宮 神楽殿　明治30年10月4日
60 神楽の領収証と包紙　皇大神宮 神楽殿　明治30年
61 天照皇大神宮小御神楽　天照皇大神宮　明治30年
62 毎日新聞　明治30年10月14日
63 菊細工の広告　明治30年10月ヵ
64 高島屋の領収書　高島屋　明治30年10月26日
65 香港ホテルの領収書　THE HONGKONG HOTEL COMPANY, Ld.　明治30年10月26日
66 香港ホテルの領収書　THE HONGKONG HOTEL COMPANY, Ld.　明治30年10月27日
67 香港の写真館で撮影された外国人女性　MEE CHEUNG 写真館(香港)　明治30年
68 タク・シャン工芸品店のショップカード　TAK SHANG　明治時代
69 O. Komaiの領収書　O.Komai　明治30年11月9日ヵ
70 神戸オリエンタルホテルのディナーメニュー　ザ・オリエンタルホテル神戸　明治30年10月ヵ
71 IKEDA & Co.（ECHIGOYA）のショップカード　IKEDA & Co.(ECHIGOYA)　明治時代

72 IKEDA & Co.(ECHIGOYA)のショップカード　IKEDA & Co.(ECHIGOYA)　明治時代
73 伊東祐貞肖像写真　明治30年10月ヵ
74 伊東祐貞の家族写真と封筒　中村貞治(写真師)　明治30年10月ヵ
75 伊東祐貞の家族写真と封筒　明治時代
76 ふたりの外国人女性と日本人通訳　市田写真店　明治30年10月ヵ
77 ふたりの外国人女性と日本人通訳　明治時代
78 厳島神社の御札　厳島神社　明治時代
79 レストラン「どんこう」のショップカード　どんこう　明治30年
80 グリーティングカード　明治30年12月頃ヵ
81 CHINA MAIL　明治31年1月5日
82 鶴の折り紙　明治30年
83 福助の折り紙　明治30年
84 和歌　明治30年
85 カナダ太平洋鉄道会社の領収書　CANADIAN PACIFIC RAILWAY Co.　明治30年1月16日
86 カナダ太平洋鉄道会社蒸気船ルート図　CANADIAN PACIFIC RAILWAY　明治時代
87 『ある女性の愉快な冒険』　GEORGINA M.B. ROBERTS　明治31年

(4)　その他の展示

ア　特別陳列「眞葛焼―田邊哲人コレクションと館蔵の名品―」

会　期：平成26年1月11日(土)～3月2日(日)
会　場：神奈川県立歴史博物館　コレクション室
主　催：神奈川県立歴史博物館
協　力：田邊 哲人 氏
後　援：神奈川新聞社、朝日新聞横浜総局、毎日新聞社横浜支局、読売新聞東京本社横浜支局、産経新聞社横浜総局、東京新聞横浜支局、日本経済新聞社横浜支局、tvk(テレビ神奈川)
展示資料件数：30件
入場者数：9,649名(有料5,511名、無料4,138名)
担　当：学芸員　小井川 理
概　要：　眞葛焼は、開港後まもない横浜で、後に帝室技芸員となって明治の陶芸界を牽引することになる宮川香山によって始められたやきものである。京都の陶工として成長した初代香山は、明治時代以前から培われてきた陶磁技術を背景に、明治3年に横浜に移住して後は西洋文化の吸収によって新しい美を生みだし、眞葛焼を万国博覧会など世界でも認められる洗練されたやきものに育て上げた。

　眞葛焼は、近年特に注目を集めているが、当館では、かながわに根づいた陶磁器として、昭和42年の開館以来、その収集と調査研究展示につとめてきた。また、近年では、近代陶磁の研究家・蒐集家として有名な田邊哲人氏より、眞葛焼の中でも輸出陶磁として絶賛された高浮彫作品の寄託を受け、常設展示で公開を続けてきた。

　本展覧会では、当館寄託の田邊哲人コレクション17作品を中心に、館蔵資料を加え、横浜に花開いたやきもの・眞葛焼の魅力を紹介した。

○　特別陳列関連行事

①　県博講座（無料、ただし常設展観覧券が必要）

・全体テーマ「明治、横浜の花　眞葛焼の魅力」(応募者103名)
・第1回　1月12日(日)(受講者99名)
「眞葛焼、そして明治工芸の超絶技巧について」明治学院大学 教授　山下 裕二 氏
・第2回　2月9日(日)（受講者61名)
「明治陶芸における二つの“山”―二つの香山、そして板谷波山へ―」茨城県陶芸美術館 副主任学芸員　花井 久穂 氏
・第3回　2月22日(土)（受講者63名)
「明治時代の日本陶磁と眞葛焼」瀬戸市美術館 館長　服部 文孝 氏

②学芸員による展示解説

・第１回
日　時：１月19日(日) 15:00～
講　師：学芸員　小井川　理
参加者：43名

・第２回
日　時：２月２日(日) 15:00～
講　師：学芸員　小井川　理
参加者：24名

・第３回
日　時：２月16日(日) 15:00～
講　師：学芸員　小井川　理
参加者：52名

・第４回
日　時：２月23日(日) 15:00～
講　師：学芸員　小井川　理
参加者：45名

○出品目録

（凡例） No.、指定、資料名、制作年代、所蔵等

1 高浮彫牡丹に眠猫覚醒蓋付水指　初代宮川香山　明治前期　田邊哲人コレクション
2 高浮彫牡丹に眠猫覚醒大香炉　初代宮川香山　明治前期　田邊哲人コレクション
3 高浮彫群鳩飛来花瓶　初代宮川香山　明治16(1883)年　田邊哲人コレクション
4 高浮彫桜に群鳩花瓶　初代宮川香山　明治前期　田邊哲人コレクション
5 高浮彫金彩孔雀大花瓶　初代宮川香山　明治前期　田邊哲人コレクション
6 高浮彫四窓遊蛙獅子蓋付壺　初代宮川香山　明治前期　田邊哲人コレクション
7 高浮彫風神雷神花瓶　初代宮川香山　明治前期　田邊哲人コレクション
8 高浮彫葡萄の蔓に蜂の巣花瓶　初代宮川香山　明治前期　田邊哲人コレクション
9 高浮彫長命茸採取花瓶　初代宮川香山　明治前期　田邊哲人コレクション
10 高浮彫大鷲鯛捕獲花瓶　初代宮川香山　明治前期　田邊哲人コレクション
11 高浮彫南天に鶉花瓶　初代宮川香山　明治前期　田邊哲人コレクション
12 高浮彫蓮に鼠花瓶　初代宮川香山　明治前期　田邊哲人コレクション
13 高浮彫鴫花瓶　初代宮川香山　明治前期　田邊哲人コレクション
14 高浮彫水禽遊泳ランプ台　初代宮川香山　明治前期　田邊哲人コレクション
15 紫釉盛絵杜若花瓶　初代宮川香山　明治後期　田邊哲人コレクション
16 色嵌釉紫陽花花瓶　初代宮川香山　明治後期　田邊哲人コレクション
17 高取釉渡蟹水盤　初代宮川香山　大正５(1916)年　田邊哲人コレクション
18 窯場之画　初代宮川香山　大正５(1916)年　神奈川県立歴史博物館
19 百鬼夜行図花瓶　初代宮川香山　明治中期　神奈川県立歴史博物館
20 色絵香炉　初代宮川香山　明治中期　神奈川県立歴史博物館
21 山水之図花瓶　初代宮川香山　明治後期　神奈川県立歴史博物館
22 黄釉青竹に群雀文香炉　初代宮川香山　明治後期　神奈川県立歴史博物館
23 緑釉菊花文香炉　初代宮川香山　明治後期　神奈川県立歴史博物館
24 青磁向獅子香炉　初代宮川香山　明治後期～大正　神奈川県立歴史博物館
25 色絵金銀彩琵琶袋形香合　初代宮川香山　大正６(1917)年　神奈川県立歴史博物館
26 青磁鳳凰双耳花瓶　二代宮川香山　昭和初期　神奈川県立歴史博物館
27 色染付椿に文鳥花瓶　二代宮川香山　昭和初期　神奈川県立歴史博物館
28 染付山水図捻鉢　明治後期～大正　神奈川県立歴史博物館
29 青磁煎茶器揃　大正　神奈川県立歴史博物館
30 仁清意布袋形香炉　大正　神奈川県

イ　平成25年度かながわの遺跡展

「地中に埋もれた江戸時代の道具たち　－かながわの町と村の暮らしぶり－」

会　期：平成26年1月11日(土)～　2月23日(日)
主　催：神奈川県教育委員会(埋蔵文化財センター)、神奈川県立歴史博物館
後　援：神奈川新聞社・朝日新聞横浜総局・毎日新聞社横浜支局・読売新聞東京本社横浜支局・産経新聞社横浜総局・東京新聞横浜支局・日本経済新聞社横浜支局・NHK横浜放送局・tvk(テレビ神奈川)
展示資料点数：508件640点
入場者数：8,092名
担　当：埋蔵文化財センター　副主幹　冨永 樹之
会　場：神奈川県立歴史博物館　特別展示室
概　要：　近年、神奈川県では、様々な近世の遺跡が調査されて多く成果をあげ、注目されている。発掘調査の結果、地下に埋もれていた多種多様な道具が発見され、当時の町・村の生活の様子が明らかになりつつある。それは、陶磁器・土製品・石製品・金属製品・銭貨と多岐にわたり、まれに遺存しにくい漆器や木製品も出土することもある。江戸時代の町や村の暮らしは、このような様々な生活道具を日常の場面・場面で使いこなし、成り立っていたといえる。今回の展示では、遺跡から出土した多種多様な生活道具を「食べる」「遊ぶ」「祈る」「装う」「働く」などと用途別に展示し、江戸時代におけるかながわの町・村の人々の暮らしぶりを紹介した。

○関連行事
①特別講演第1回(無料、ただし常設展観覧券が必要)
日　時：1月19日(日)14:00～16:00
演　題：「出土遺物からみえる江戸のくらし」
講　師：東京大学 准教授　堀内 秀樹 氏
応募者：104名
受講者：91名

②特別講演第2回(無料、ただし常設展観覧券が必要)
日　時：2月15日(土) 14:00～16:00
演　題：「考古学からみた江戸と周辺の町・村」
講　師：早稲田大学教授　谷川 章雄 氏
応募者：203名
受講者：40名(大雪のため)

③イベント「江戸の遊びを体験しよう」（復刻玩具で遊ぶ）(申込不要)
日　時：2月1日(土) 13:30～15:00
会　場：当館1階会議室
参加者：131名

④展示解説
(講師：埋蔵文化財センター 副主幹　冨永 樹之)
・第1回：1月26日(日) 13時30分～14時30分　参加者22名
・第2回：2月2日(日)　13時30分～14時30分　参加者25名
・第3回：2月9日(日)　13時30分～14時30分　参加者22名

○出品目録

(凡例)　№、資料名称、出土遺跡名、所蔵、産地、時期(近世を三分割)

Ⅰ部　様々な江戸時代の道具たち

一、「食べる」

1　染付初期伊万里皿　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会　肥前　前期

2　白磁初期伊万里皿　小田原城三の丸杉浦平太夫邸跡 神奈川県教育委員会　肥前　前期

3　染付大鉢　小田原市本町遺跡第Ⅰ地点　小田原市教育委員会　肥前　後期

4　青磁大鉢　小田原市杉浦平太夫邸跡第Ⅳ地点他　小田原市教育委員会　肥前　前期

5　染付鍋島皿　小田原市杉浦平太夫邸跡第Ⅳ地点他　　小田原市教育委員会　肥前　前期

6　陶器黄瀬戸大鉢　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　前期

7　陶器三島手鉢 清川村馬場遺跡 神奈川県教育委員会　肥前　前期

8　陶器鉄絵鉢(笠原鉢)　厚木市城際遺跡　　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　前期

9　染付大鉢　小田原城三の丸跡東堀第Ⅳ・Ⅴ地点　小田原市教育委員会　肥前　後期

10 染付鉢　小田原城下　中宿町遺跡第Ⅲ地点　小田原市教育委員会　肥前　後期

11 染付大皿 厚木横町遺跡　厚木市教育委員会 肥前　後期

12　染付大皿　小田原市欄干橋町遺跡第Ⅳ地点　小田原市教育委員会 肥前　後期

13　染付角大皿(焼き継ぎ)　茅ヶ崎市上ノ町・広町遺跡　茅ヶ崎市教育委員会　肥前　後期

14　染付蛸唐草文皿　伊勢原市上粕屋・上尾崎遺跡　神奈川県教育委員会　肥前　後期

15　染付大皿　横浜市西ノ谷遺跡　横浜市歴史博物館　肥前　後期

16　染付大皿　小田原城下　中宿町遺跡第Ⅳ地点　小田原市教育委員会　　肥前　後期

17　染付皿　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会　肥前　前期

18　染付皿　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会　肥前　前期

19　色絵角皿　小田原城三の丸杉浦平太夫邸跡　神奈川県教育委員会　　肥前　前期

20　染付輪剥ぎ皿　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会　肥前　中期

21　陶器刷毛目碗　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　　後期

22　染付小皿　厚木市城際遺跡　　神奈川県教育委員会　　肥前　後期

23　染付五弁花皿　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会　　肥前　中期

24　染付広東碗　小田原城跡八幡山遺構群　　神奈川県教育委員会　　肥前　後期

25　染付碗　小田原城三の丸杉浦平太夫邸跡　　神奈川県教育委員会 肥前　前期

26　染付碗　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会　肥前系　前期

27　染付碗(筍取り文)　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会　肥前　後期

28　陶器碗　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会　関西系　中期

29　色絵碗　相模原市小保戸遺跡　神奈川県教育委員会　肥前　後期

30　染付筒碗　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会　肥前　後期

31　陶器碗(鎧手)　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　後期

32　陶器掛け分け碗　綾瀬市宮久保遺跡　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　後期

33　陶器碗(長の)　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　後期

34　陶胎染付碗　小田原城三の丸杉浦平太夫邸跡　神奈川県教育委員会　肥前系　中期

35　染付碗　小田原市杉浦平太夫邸跡第Ⅳ地点他　小田原市教育委員会　肥前　前期

36　染付碗(くらわんか茶碗)　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会　肥前系　中期

37　染付碗(広東碗)　小田原城跡八幡山遺構群　神奈川県教育委員会　肥前系　後期

38　磁器碗(蓋付碗)　海老名市跡堀遺跡　神奈川県教育委員会　肥前系　後期

39　磁器碗(蓋付碗)　東富岡・南三間遺跡　神奈川県教育委員会　肥前　後期

40　陶器碗(柳茶碗)　厚木市城際遺跡　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　後期

41　染付碗　小田原城跡八幡山遺構群　神奈川県教育委員会　関西系　後期

42　色絵鉢　横浜市西ノ谷遺跡　横浜市歴史博物館　肥前　後期

43　染付鉢　小田原市欄干橋町遺跡第Ⅳ地点　小田原市教育委員会　肥前　後期

44　志野織部向付　小田原市欄干橋町遺跡第Ⅳ地点　小田原市教育委員会　美濃　前期

45　漆器椀　小田原市杉浦平太夫邸跡第Ⅳ地点他　小田原市教育委員会　前期

46　染付猪口　逗子市正覚寺やぐら群　神奈川県教育委員会　肥前　後期
47　染付猪口　逗子市正覚寺やぐら群　神奈川県教育委員会　肥前　後期
48　陶器鉄釉大黒文鉢　厚木市城際遺跡　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　後期
49　漆器椀　小田原城三の丸跡東堀第２地点　小田原市教育委員会　前期
50　漆器椀　小田原城三の丸跡東堀第２地点　小田原市教育委員会　前期
51　漆器椀　小田原城三の丸跡東堀第２地点　小田原市教育委員会　前期
52　漆器椀蓋　小田原市杉浦平太夫邸跡第Ⅳ地点他　小田原市教育委員会　前期
53　漆器蓋　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会
54　漆器碗　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会
55　染付鉢　厚木市城際遺跡　神奈川県教育委員会　肥前　後期
56　染付月兎文皿　相模原市津久井城跡馬込地区　神奈川県教育委員会　肥前　前期
57　染付草花文皿　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会　肥前　前期
58　染付五弁花文皿　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会　肥前　中期
59　染付八角皿　小田原市大久保雅楽介邸跡第Ⅱ地点　小田原市教育委員会　肥前　前期
60　陶器石皿　厚木横町遺跡　厚木市教育委員会　瀬戸・美濃　後期
61　陶器木瓜形皿　相模原市津久井城跡馬込地区　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　中期
62　陶器菊皿　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　前期
63　絵唐津向付　小田原市杉浦平太夫邸跡第Ⅳ地点他　小田原市教育委員会　肥前　前期
64　陶器四方隅切皿　清川村表の屋敷遺跡　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　中期
65　青磁盤　清川村表の屋敷遺跡　神奈川県教育委員会　肥前　前期
66　箸　小田原市筋違橋町遺跡第Ⅲ地点　小田原市教育委員会
67　染付蓮華　小田原城下　中宿町遺跡第Ⅳ地点　小田原市教育委員会　瀬戸・美濃　後期
68　箸　小田原市筋違橋町遺跡第Ⅲ地点　小田原市教育委員会　中・後期
69　陶器灰釉水注　伊勢原市石田・外堀遺跡　伊勢原市教育委員会　瀬戸・美濃　前～中期
70　土瓶　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会　後期
71　土瓶　清川村表の屋敷遺跡　神奈川県教育委員会　後期
72　土瓶　伊勢原市東富岡・南三間遺跡　神奈川県教育委員会　後期
73　染付段重　伊勢原市上粕屋・上尾崎遺跡　神奈川県教育委員会　肥前　後期
74　小水注(醤油差しか)　横浜市本牧荒井横穴墓群　神奈川県教育委員会　後期
75　陶器行平　小田原市欄干橋町遺跡第Ⅳ地点　小田原市教育委員会　後期
76　陶器土鍋　小田原市欄干橋町遺跡第Ⅴ地点　小田原市教育委員会　後期
77　染付蓮華　小田原市欄干橋町遺跡第Ⅳ地点　小田原市教育委員会　肥前　後期
78　盆　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会
79　染付盃台　藤沢市№78遺跡第６地点　藤沢市　肥前
80　陶器鑑徳利　逗子市池子遺跡群№７地点東　逗子市教育委員会　瀬戸・美濃　後期
81　盃　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会
82　染付徳利　小田原市大久保弥六郎邸跡第Ⅳ地点　小田原市教育委員会　肥前　前期
83　陶器鉄釉舟徳利　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　前期
84　陶器鉄釉徳利　逗子市正覚寺やぐら群　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　前期
85　燗徳利　相模原市小保戸遺跡　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　後期
86　染付燗徳利　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会　後期
87　染付ちろり　小田原城下　中宿町遺跡第Ⅲ地点　小田原市教育委員会　瀬戸・美濃　後期
88　染付盃洗　小田原市杉浦平太夫邸跡第Ⅳ地点他　小田原市教育委員会　肥前　後期
89　染付盃　相模原市小保戸遺跡　神奈川県教育委員会　肥前
90　染付盃　相模原市小保戸遺跡　神奈川県教育委員会　肥前
91　染付盃　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会　肥前
92　染付盃　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会　肥前
93　染付盃　小田原城三の丸杉浦平太夫邸跡　神奈川県教育委員会　肥前
94　染付小坏　小田原城三の丸杉浦平太夫邸跡　神奈川県教育委員会　肥前　前期
95　陶器徳利(貧乏徳利)　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　後期
96　陶器徳利(貧乏徳利)　伊勢原市東富岡・南三間遺跡　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　後期

二、「調理する」

97　土器焙烙(２個体)　厚木市東町遺跡　厚木市教育委員会　江戸在地系

98　焼塩壺蓋　小田原市欄干橋町遺跡第Ⅳ地点　小田原市教育委員会　関西　後期
99　手ほうろく　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会　江戸在地系　後期
100　焼塩壺　小田原市杉浦平太夫邸跡第Ⅳ地点他　小田原市教育委員会　泉州　前・中期
101　焼塩壺　小田原市欄干橋町遺跡第Ⅳ地点　小田原市教育委員会　関西　後期
102　包丁　藤沢市№78遺跡第６地点　藤沢市
103　おろし金　藤沢市№78遺跡第４地点　藤沢市
104　木製杓子　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会
105　ざる　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会
106　曲物　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会
107　陶器片口鉢　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　後期
108　陶器片口鉢　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　後期
109　陶器灰釉水鉢　小田原城跡八幡山遺構群　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　後期
110　陶器灰釉双耳壺　相模原市小保戸遺跡　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　後期
111　陶器灰釉双三耳壺　鎌倉市円覚寺旧境内遺跡　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　後期
112　陶器壺　厚木市城際遺跡　神奈川県教育委員会　信楽
113　陶器鉄釉広口甕　鎌倉市円覚寺旧境内遺跡　神奈川県教育委員会　肥前系
114　陶器鉄釉甕　茅ヶ崎市上ノ町遺跡　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　後期
115　陶器甕　横浜市上行寺裏遺跡　神奈川県教育委員会　常滑
116　陶器甕　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会　常滑
117　鉄製鍋　平塚市原口遺跡　神奈川県教育委員会
118　陶器鉄釉擂鉢　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　前期

三、「住まう」

119　風炉　小田原城下　中宿町遺跡第Ⅲ地点　小田原市教育委員会　後期
120　土器火消し壺　横浜市西ノ谷遺跡　横浜市歴史博物館　江戸在地系　後期
121　土器火鉢　清川村表の屋敷遺跡　神奈川県教育委員会　江戸在地系　前期
122　赤絵瓶(広義の柿右衛門)　小田原城三の丸杉浦平太夫邸跡　神奈川県教育委員会　肥前　中期
123　箪笥の引き手　清川村北原遺跡　神奈川県教育委員会
124　錠前　小田原城三の丸杉浦平太夫邸跡　神奈川県教育委員会
125　瓦質土器火鉢(瓶掛)　小田原城跡八幡山遺構群　神奈川県教育委員会
126　瓦質土器火鉢　藤沢市用田鳥居前遺跡　神奈川県教育委員会　後期
127　陶器鉄釉しびん　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　後期
128　染付唾壺　小田原市杉浦平太夫邸跡第Ⅳ地点他　小田原市教育委員会　肥前
129　陶器灰釉花瓶　藤沢市№78遺跡第４地点　藤沢市　瀬戸・美濃
130　陶器刷毛目瓶　逗子市池子遺跡群№１－Ｃ地点　逗子市教育委員会　肥前　中期
131　陶器灯明皿・受皿・台付受皿　横浜市原宿町遺跡　神奈川県教育委員会　信楽系　後期
132　芯押さえ　藤沢市№78遺跡第６地点　藤沢市
133　土器灯明皿　小田原城三の丸杉浦平太夫邸跡　神奈川県教育委員会　江戸在地系　後期
134　土器灯明受皿　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会　江戸在地系　後期
135　土器灯明台付受皿　厚木市城際遺跡　神奈川県教育委員会　江戸在地系　後期
136　陶器鉄釉灯明台　伊勢原市東富岡・南三間遺跡　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　後期
137　陶器飴釉灯明台　厚木市城際遺跡　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　後期
138　摘み付き灯明皿　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会　志戸呂系　中期
139　陶器鉄絵行灯皿　横浜市本牧荒井横穴墓群　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　後期
140　陶器ひょうそく　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　後期
141　陶器台付きひょうそく　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　後期
142　陶器灯明受皿　横浜市原宿町遺跡　神奈川県教育委員会　信楽系　後期
143　土器ひょうそく　横浜市原宿町遺跡　神奈川県教育委員会　江戸在地系　後期
144　陶器ひょうそく　小田原市欄干橋町遺跡第Ⅳ地点　小田原市教育委員会　肥前か　後期
145　カンテラ　小田原市欄干橋町遺跡第Ⅷ地点　小田原市教育委員会　江戸在地系　後期
146　土器ひょうそく　烏山藩厚木役所　厚木市教育委員会　江戸在地系　後期
147　外口付きひょうそく　横浜市本牧荒井横穴墓群　神奈川県教育委員会　関西系　後期
148　陶器油差し　厚木市城際遺跡　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　後期
149　陶器油差し　小田原城跡八幡山遺構群　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　後期
150　陶器ひょうそく　小田原市欄干橋町遺跡第Ⅳ地点　小田原市教育委員会　後期

151　火打ち石　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会
152　火打ち石　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会
153　火打ち石　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会
154　火打ち石　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会
155　火打ち石　伊勢原市東富岡・南三間遺跡　神奈川県教育委員会
156　火打ち金　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会
157　火打ち金　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会
158　火打ち金　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会
159　火打ち金　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会
160　ヒデ鉢　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会
161　陶器受皿　横浜市原宿町遺跡　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　後期
162　陶器灯明皿　横浜市原宿町遺跡　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　後期
163　陶器灯明台付受皿　横浜市原宿町遺跡　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　後期
164　陶器灯明皿　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　後期
165　陶器灯明受皿　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　後期
166　銅製灯明皿　小田原市欄干橋町遺跡第Ⅳ地点　小田原市教育委員会　後期

四、「装う」

167　日本刀(太刀)　伊勢原市上粕屋・〆引北遺跡　神奈川県教育委員会
168　手鏡　綾瀬市宮久保遺跡　神奈川県教育委員会
169　銀製緒締め玉　綾瀬市宮久保遺跡　神奈川県教育委員会
170　日本刀(脇差か)　横浜市上行寺遺跡　神奈川県教育委員会
171　鍔　逗子市池子遺跡群№７地点西　逗子市教育委員会
172　下駄　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会
173　下駄　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会
174　下駄　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会
175　温石(昔のカイロ)　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会
176　鏡(中世のものを伝世)　逗子市池子遺跡群　神奈川県教育委員会
177　鏡　厚木市東町遺跡　厚木市教育委員会
178　染付油壺　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会　肥前
179　白磁紅皿　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会
180　赤絵紅猪口　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会　肥前　後期
181　染付合子(白粉入れか)　横浜市上行寺裏遺跡　神奈川県教育委員会　肥前　後期
182　染付合子身(縁に紅が付着)　厚木市城際遺跡　神奈川県教育委員会　肥前　後期
183　色絵うがい茶碗　相模原市津久井城跡馬込地区　神奈川県教育委員会　肥前　中期
184　ガラス製かんざし　小田原城下　筋違橋町遺跡第Ⅳ地点　小田原市教育委員会　後期
185　かんざし　厚木市城際遺跡　神奈川県教育委員会
186　ガラス製かんざし　小田原市欄干橋町遺跡第Ⅴ地点　小田原市教育委員会　後期
187　銅製笄(こうがい)　綾瀬市宮久保遺跡　神奈川県教育委員会
188　ガラス製かんざし　小田原市欄干橋町遺跡第Ⅴ地点　小田原市教育委員会　後期
189　染付油壺　小田原城三の丸杉浦平太夫邸跡　神奈川県教育委員会　肥前　後期
190　染付油壺　厚木市城際遺跡　神奈川県教育委員会　肥前　後期
191　染付油壺　厚木市城際遺跡　神奈川県教育委員会　肥前
192　陶器摺絵鬢水入れ　厚木市城際遺跡　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　中期
193　陶器摺絵鬢水入れ　厚木市城際遺跡　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　中期
194　お歯黒壺　小田原城跡八幡山遺構群　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　後期
195　お歯黒壺　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　後期
196　赤絵紅皿　茅ヶ崎市上ノ町・広町遺跡　茅ヶ崎市教育委員会　肥前　後期
197　日本刀　横須賀市向井将監正方墓　横須賀市教育委員会　市指定文化財　前期
198　脇差　横須賀市向井将監正方墓　横須賀市教育委員会　市指定文化財　前期
199　小柄　横須賀市向井将監正方墓　横須賀市教育委員会　市指定文化財　前期
200　刀子　横須賀市向井将監正方室墓　横須賀市教育委員会　市指定文化財　前期
201　目貫　横須賀市向井将監正方墓　横須賀市教育委員会　市指定文化財　前期
202　栗形　横須賀市向井将監正方墓　横須賀市教育委員会　市指定文化財　前期
203　煙管　横須賀市向井将監正方墓　横須賀市教育委員会　市指定文化財　前期

五、「祈る」

204　染付神酒徳利　相模原市小保戸遺跡　神奈川県教育委員会　肥前　後期
205　染付神酒徳利　横浜市原宿町遺跡　神奈川県教育委員会　肥前　後期

206　染付神酒徳利　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会　肥前　後期
207　染付神酒徳利　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会　肥前　後期
208　染付瓶　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会　肥前　後期
209　染付瓶　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会　肥前　後期
210　染付瓶　横浜市原宿町遺跡　神奈川県教育委員会　肥前　中期
211　染付仏花瓶　伊勢原市上粕屋・上尾崎遺跡　神奈川県教育委員会　肥前　後期
212　染付仏花瓶　伊勢原市上粕屋・上尾崎遺跡　神奈川県教育委員会　肥前　後期
213　染付香炉　伊勢原市上粕屋・上尾崎遺跡　神奈川県教育委員会　肥前　後期
214　染付仏飯器　清川村表の屋敷遺跡　神奈川県教育委員会　肥前　中期
215　瑠璃釉仏飯器　小田原城三の丸杉浦平太夫邸跡　神奈川県教育委員会　肥前　前期
216　仏飯器　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会　肥前
217　染付仏飯器　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会　肥前　後期
218　染付数珠玉　平塚市大会原遺跡　神奈川県教育委員会
219　数珠玉　平塚市大会原遺跡　神奈川県教育委員会
220　鉦吾　藤沢市№78 遺跡第４地点　藤沢市
221　りん　藤沢市№78 遺跡第４地点　藤沢市
222　御札　藤沢市№78 遺跡第６地点　藤沢市
223　青磁香炉　伊勢原市上粕屋・上尾崎遺跡　神奈川県教育委員会　肥前　後期
224　青磁香炉　厚木市城際遺跡　神奈川県教育委員会　肥前　前期
225　陶器呉須絵香炉　清川村表の屋敷遺跡　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　後期
226　陶器鉄釉香炉　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　中期
227　陶器黄釉香炉　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　中期
228　染付香炉　厚木市城際遺跡　神奈川県教育委員会　肥前　後期
229　染付仏飯器　横浜市原宿町遺跡　神奈川県教育委員会　肥前　後期
230　染付仏飯器　葉山町三ヶ岡遺跡　神奈川県教育委員会　肥前　後期

六、「学ぶ」

231　硯　厚木市城際遺跡　神奈川県教育委員会
232　銅製水滴　厚木市城際遺跡　神奈川県教育委員会
233　染付水滴　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会　肥前　後期
234　染付水滴　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会　肥前　後期
235　印(滑石)　小田原城下　筋違橋町遺跡第Ⅳ地点　小田原市教育委員会　後期
236　印(めのう製)　小田原城下　筋違橋町遺跡第Ⅳ地点　小田原市教育委員会　後期
237　矢立　厚木市東町遺跡　厚木市教育委員会
238　銅製ものさし　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会
239　硯　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会
240　硯　厚木市城際遺跡他　神奈川県教育委員会
241　硯　清川村表の屋敷遺跡　神奈川県教育委員会
242　染付水滴　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会　肥前　後期
243　水滴　横浜市上行寺裏遺跡他　神奈川県教育委員会
244　染付水滴　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　後期
245　陶器灰釉水滴　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　後期
246　白磁水滴　平塚市大会原遺跡　神奈川県教育委員会

七、「遊ぶ」

247　土製人形(幼児)　伊勢原市成瀬第二地区遺跡群下糟屋D地区　伊勢原市教育委員会　江戸在地系　中・後期
248　人形(女)　小田原市杉浦平太夫邸跡第Ⅳ地点他　小田原市教育委員会　江戸在地系
249　土笛　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会　江戸在地系　後期
250　陶器犬形　小田原城三の丸杉浦平太夫邸跡　神奈川県教育委員会
251　小型人形(大黒)　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会　江戸在地系　後期
252　小型人形(大黒)　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会　江戸在地系　後期
253　人形(鳥形)　横浜市原宿町遺跡　神奈川県教育委員会　江戸在地系　後期
254　ままごと道具　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会
255　ままごと道具　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会
256　ままごと道具　相模原市小保戸遺跡　神奈川県教育委員会
257　ままごと道具　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会
258　ミニチュア七輪　藤沢市№78 遺跡第６地点　藤沢市
259　ミニチュア皿(天保通宝文)　藤沢市№78 遺跡第６地点　藤沢市
260　人形(俵持つ人)　小田原市杉浦平太夫邸跡第Ⅳ地点他　小田原市教育委員会　江戸在地系
261　ままごと道具　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会

262　ままごと道具　横浜市原宿町遺跡　神奈川県教育委員会
263　泥めんこ(芥子面)　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川教育委員会　江戸在地系　後期
264　泥めんこ(芥子面)　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会　江戸在地系　後期
265　泥めんこ(芥子面)　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会　江戸在地系　後期
266　泥めんこ(芥子面)　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会　江戸在地系　後期
267　泥めんこ(芥子面)　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会　江戸在地系　後期
268　泥めんこ(芥子面)　平塚市神明久保遺跡　神奈川県教育委員会　江戸在地系　後期
269　泥めんこ(芥子面)　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会　江戸在地系　後期
270　泥めんこ(面打)　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会　江戸在地系　後期
271　人形(軍配持つ人)　小田原市杉浦平太夫邸跡第Ⅳ地点他　小田原市教育委員会　江戸在地系
272　泥めんこ(芥子面)　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会　江戸在地系　後期
273　土製小判形　厚木市城際遺跡　神奈川県教育委員会　江戸在地系　後期
274　泥めんこ(芥子面)　横浜市原宿町遺跡　神奈川県教育委員会　江戸在地系　後期
275　泥めんこ(芥子面)　藤沢市用田鳥居前遺跡　神奈川県教育委員会　江戸在地系　後期
276　泥めんこ(芥子面)　平塚市神明久保遺跡　神奈川県教育委員会　江戸在地系　後期
277　泥めんこ(芥子面)　平塚市神明久保遺跡　神奈川県教育委員会　江戸在地系　後期
278　泥めんこ(芥子面)　平塚市神明久保遺跡　神奈川県教育委員会　江戸在地系　後期
279　羽子板(柄欠損)　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会
280　木製刀形　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会
281　木製刀形　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会
282　裸人形　鎌倉市西御門東やぐら群　神奈川県教育委員会　江戸在地系　後期
283　舟形　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会
284　陶器灰釉植木鉢　小田原市杉浦平太夫邸跡第Ⅳ地点他　小田原市教育委員会　瀬戸・美濃
285　舟形　藤沢市№78遺跡第６地点　藤沢市
286　植木鉢　小田原市欄干橋町遺跡第Ⅳ地点　小田原市教育委員会　瀬戸・美濃　後期
287　陶器植木鉢　相模原市津久井城跡馬込地区　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　後期
288　染付植木鉢　藤沢市№78遺跡第６地点　藤沢市　瀬戸・美濃
289　陶器鳥餌入れ　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　後期
290　陶器鳥餌入れ　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　後期
291　陶器鳥餌入れ　葉山町三ヶ岡遺跡　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　後期
292　陶器水指　逗子市池子遺跡群№１－Ｃ地点　逗子市教育委員会　瀬戸・美濃　前期
293　陶器天目碗　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　前期
294　人形　横浜市原宿町遺跡　神奈川県教育委員会
295　陶器天目碗　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　前期
296　陶器白天目碗　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　前期
297　七厘　小田原市杉浦平太夫邸跡第Ⅳ地点他　小田原市教育委員会　関西か
298　陶器碗(高麗写し)　伊勢原市下糟屋・丸山遺跡　神奈川県教育委員会　京都　前期
299　陶器碗　小田原城三の丸杉浦平太夫邸跡　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　前期
300　陶器碗　小田原城三の丸杉浦平太夫邸跡　神奈川県教育委員会　肥前　前期
301　陶器花生け　相模原市代官守屋左太夫陣屋跡　神奈川県教育委員会　九州
302　染付花生け　厚木市城際遺跡　神奈川県教育委員会　肥前
303　染付　人形　清川村表の屋敷遺跡　神奈川県教育委員会　肥前　前期
304　人形(通い帳持ち)　海老名市跡堀遺跡　神奈川県教育委員会
305　人形(鬼面)　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会
306　人形(ひょっとこ)　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会　江戸在地系　後期
307　延煙管　厚木市城際遺跡　神奈川県教育委員会
308　火入　厚木市城際遺跡　神奈川県教育委員会
309　灰吹　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会
310　瓦質土器火入　相模原市根小屋根本遺跡　神奈川県教育委員会
311　瓦質土器火入　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会
312　土器火入　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会　江戸在地系　後期
313　青磁火入　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会　肥前　前期
314　陶器灰吹　相模原市川尻遺跡　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃
315　青磁灰吹　清川村表の屋敷遺跡　神奈川県教育委員会

316　陶器練込手灰吹　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会
317　陶器灰吹　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会
318　煙管(雁首)　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会
319　煙管(吸口)　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会
320　煙管(雁首)　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会
321　煙管(吸口)　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会
322　煙管(雁首)　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会
323　煙管(吸口)　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会
324　煙管(雁首)　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会
325　煙管(吸口)　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会

八、「働く」

326　鍬　小田原市筋違橋町遺跡第III地点　小田原市教育委員会　中・後期
327　土錘(網のおもり)　葉山町三ヶ岡遺跡　神奈川県教育委員会
328　土錘(網のおもり)　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会
329　釣り針　綾瀬市宮久保遺跡　神奈川県教育委員会
330　のみ　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会
331　刀子(ナイフ)　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会
332　柄杓　伊勢原市東富岡・南三間遺跡　神奈川県教育委員会
333　鋸　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会
334　へら　小田原城三の丸杉浦平太夫邸跡　神奈川県教育委員会
335　ふいごの羽口　横浜市上行寺遺跡　神奈川県教育委員会
336　ふいごの羽口　横浜市上行寺遺跡　神奈川県教育委員会
337　鎌刃　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会
338　るつぼ　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会
339　鉄砲玉(鋳込でつくる)　清川村北原遺跡　神奈川県教育委員会
340　るつぼ　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会
341　るつぼ　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会
342　分銅　厚木市東町遺跡　厚木市教育委員会
343　叩き具(砧か)　海老名市社家宇治山遺跡　神奈川県教育委員会
344　桝　藤沢市№78遺跡第４地点　藤沢市
345　二朱金　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会
346　天保通宝　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会
347　天保通宝　相模原市津久井城跡馬込地区　神奈川県教育委員会
348　寛永通宝　清川村北原遺跡　神奈川県教育委員会
349　寛永通宝　清川村北原遺跡　神奈川県教育委員会
350　寛永通宝　清川村北原遺跡　神奈川県教育委員会
351　寛永通宝　清川村北原遺跡　神奈川県教育委員会
352　寛永通宝　清川村北原遺跡　神奈川県教育委員会
353　寛永通宝　清川村北原遺跡　神奈川県教育委員会
354　鎌刃　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会
355　鍬　横浜市西ノ谷遺跡　横浜市歴史博物館
356　なた　清川村馬場遺跡　神奈川県教育委員会
357　石臼(上臼)　相模原市津久井城跡馬込地区　神奈川県教育委員会
358　石臼(下臼)　相模原市津久井城跡馬込地区　神奈川県教育委員会
359　土錘(網のおもり)　葉山町三ヶ岡遺跡　神奈川県教育委員会
360　土錘(網のおもり)　葉山町三ヶ岡遺跡　神奈川県教育委員会
361　土錘(網のおもり)　葉山町三ヶ岡遺跡　神奈川県教育委員会

II部　遺跡の種類と道具の違い

一、城内の道具

362　陶器鉄釉皿　小田原市藩校集成館跡第III・第IV地点　小田原市教育委員会　初山または志戸呂　前期
363　染付水滴　小田原市藩校集成館跡第III・第IV地点　小田原市教育委員会　肥前　前期
364　水滴　小田原市藩校集成館跡第III・第IV地点　小田原市教育委員会　前・中期
365　染付牛形筆置　小田原市藩校集成館跡第III・第IV地点　小田原市教育委員会　肥前　前期
366　釣瓶汲桶　小田原市藩校集成館跡第III・第IV地点　小田原市教育委員会　前期
367　飾り金具　小田原市藩校集成館跡第III・第IV地点　小田原市教育委員会
368　襖引き手　小田原市藩校集成館跡第III・第IV地点　小田原市教育委員会　前・中期
369　飾り金具　小田原市藩校集成館跡第III・第IV地点　小田原市教育委員会
370　風鐸　小田原市藩校集成館跡第III・第IV地点　小田原市教育委員会　前・中期
371　軒平瓦　小田原市藩校集成館跡第III・第IV地点　小田原市教育委員会　前期
372　軒丸瓦　小田原市藩校集成館跡第III・第IV地点　小田原市教育委員会　前期
373　陶器煙硝擂り　小田原市藩校集成館跡第III・第IV地点　小田原市教育委員会　瀬戸・美濃　前期
374　軒平瓦　小田原市藩校集成館跡第III・第IV地点　小田原市教育委員会　前期
375　軒丸瓦　小田原市藩校集成館跡第III・第IV地点　小田原市教育委員会　前期
376　軒平瓦　小田原市藩校集成館跡第III・第IV地点　小田原市教育委員会　前期
377　軒丸瓦　小田原市藩校集成館跡第III・第IV地点　小田原市教育委員会　前期

378　染付鍋島皿　小田原市藩校集成館跡第III・第IV地点　小田原市教育委員会　肥前　中期
379　色絵鍋島皿　小田原市藩校集成館跡第III・第IV地点　小田原市教育委員会　肥前　中期
380　硯　小田原市藩校集成館跡第III・第IV地点　小田原市教育委員会　高嶋
381　硯　小田原市藩校集成館跡第III・第IV地点　小田原市教育委員会　高嶋
382　硯　小田原市藩校集成館跡第III・第IV地点　小田原市教育委員会　高嶋
383　硯　小田原市藩校集成館跡第III・第IV地点　小田原市教育委員会　高嶋
384　硯　小田原市藩校集成館跡第III・第IV地点　小田原市教育委員会

二、関所の道具

385　陶器鉄釉碗　箱根関跡　箱根町教育委員会　瀬戸・美濃
386　染付皿　箱根関跡　箱根町教育委員会　肥前　前期
387　洋式銃弾　箱根関跡　箱根町教育委員会
388　染付小皿　箱根関跡　箱根町教育委員会　瀬戸・美濃　後期
389　火縄銃球弾　箱根関跡　箱根町教育委員会
390　染付皿　箱根関跡　箱根町教育委員会　肥前　後期か
391　陶器灰釉皿　箱根関跡　箱根町教育委員会　肥前　中期
392　陶器鉄釉火鉢　箱根関跡　箱根町教育委員会　瀬戸・美濃　後期
393　陶器擂鉢　箱根関跡　箱根町教育委員会　瀬戸・美濃　後期
394　陶器鉄釉香炉　箱根関跡　箱根町教育委員会　瀬戸・美濃　後期
395　染付香炉　箱根関跡　箱根町教育委員会　肥前　後期か
396　陶器灰釉灰吹　箱根関跡　箱根町教育委員会
397　染付碗　箱根関跡　箱根町教育委員会　瀬戸・美濃　後期
398　鉄製ノミ　箱根関跡　箱根町教育委員会
399　染付碗　箱根関跡　箱根町教育委員会　肥前　前期
400　染付端反碗　箱根関跡　箱根町教育委員会　肥前　後期
401　染付碗　箱根関跡　箱根町教育委員会　肥前　中期
402　陶器腰錆碗　箱根関跡　箱根町教育委員会　瀬戸・美濃　後期
403　染付端反碗蓋　箱根関跡　箱根町教育委員会　肥前　後期
404　陶器徳利　箱根関跡　箱根町教育委員会　後期

三、陣屋の道具

405　陶器鉄釉筒形甕　烏山藩厚木役所　厚木市教育委員会　瀬戸・美濃　後期
406　鉄釘　烏山藩厚木役所　厚木市教育委員会
407　染付小皿(３個体)　烏山藩厚木役所　厚木市教育委員会　瀬戸・美濃　後期
408　白磁戸車　烏山藩厚木役所　厚木市教育委員会　肥前、瀬戸・美濃　後期
409　軒丸瓦・軒平瓦　烏山藩厚木役所　厚木市教育委員会
410　ふいごの羽口　烏山藩厚木役所　厚木市教育委員会
436　染付小鉢(３個体)　烏山藩厚木役所　厚木市教育委員会　肥前　後期
437　染付小皿(３個体)　烏山藩厚木役所　厚木市教育委員会　瀬戸・美濃　後期
438　染付小皿(４個体)　烏山藩厚木役所　厚木市教育委員会　瀬戸・美濃　後期
439　染付小坏　烏山藩厚木役所　厚木市教育委員会　肥前　後期
440　染付小杯　烏山藩厚木役所　厚木市教育委員会　肥前　後期
441　染付角皿　烏山藩厚木役所　厚木市教育委員会　肥前　後期
442　炭化米　烏山藩厚木役所　厚木市教育委員会
443　硯　烏山藩厚木役所　厚木市教育委員会

四、宿場の道具

444　染付大皿　藤沢市№78遺跡第６地点　藤沢市　肥前　後期
445　染付大皿　藤沢市№78遺跡第６地点　藤沢市　肥前　後期
446　色絵碗　藤沢市№78遺跡第４地点　藤沢市　肥前
447　色絵筒碗　藤沢市№78遺跡第４地点　藤沢市　肥前　中期
448　染付小皿　藤沢市№78遺跡第６地点　藤沢市　肥前　後期
449　染付小碗　藤沢市№78遺跡第６地点　藤沢市　肥前　後期
411　染付小皿　藤沢市№78遺跡第６地点　藤沢市　肥前　中期
412　染付小皿　藤沢市№78遺跡第６地点　藤沢市　肥前　後期
413　染付油徳利　藤沢市№78遺跡第６地点　藤沢市　瀬戸・美濃　後期
414　小水注　藤沢市№78遺跡第４地点　藤沢市　関西系　後期
415　陶器摺絵水注　藤沢市№78遺跡第４地点　藤沢市　瀬戸・美濃　中期
416　染付植木鉢　藤沢市№78遺跡第６地点　藤沢市　瀬戸・美濃　後期
417　水滴　藤沢市№78遺跡第６地点　藤沢市　肥前　後期
418　ミニチュア鉢　藤沢市№78遺跡第５地点　藤沢市　後期
419　ミニチュア鉢　藤沢市№78遺跡第４地点　藤沢市　後期

420　ミニチュア皿　藤沢市№78遺跡第４地点　藤沢市　後期
421　ミニチュア皿　藤沢市№78遺跡第４地点　藤沢市　後期
422　ミニチュア瓶　藤沢市№78遺跡第４地点　藤沢市　後期
423　ミニチュア土瓶　藤沢市№78遺跡第４地点　藤沢市　後期
424　蓋　藤沢市№78遺跡第６地点　藤沢市
425　陶器壺　藤沢市№78遺跡第４地点　藤沢市　信楽
426　渡し金(お歯黒道具)　藤沢市№78遺跡第６地点　藤沢市
427　飾り金具　藤沢市№78遺跡第６地点　藤沢市
428　水引箱　藤沢市№78遺跡第６地点　藤沢市
429　染付小皿　藤沢市№78遺跡第４地点　藤沢市　肥前　中期

五、寺院の道具

430　陶器鉄釉香炉　清川村長福寺址　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　中期
431　硯　清川村長福寺址　神奈川県教育委員会
432　硯　清川村長福寺址　神奈川県教育委員会
433　延煙管　清川村長福寺址　神奈川県教育委員会
434　碁石　清川村長福寺址　神奈川県教育委員会
435　陶器二彩手甕　清川村長福寺址　神奈川県教育委員会　肥前　中期
450　染付碗　清川村長福寺址　神奈川県教育委員会　肥前　後期
451　染付碗　清川村長福寺址　神奈川県教育委員会　肥前　後期
452　染付皿　清川村長福寺址　神奈川県教育委員会　肥前　後期
453　陶器緑釉土瓶　清川村長福寺址　神奈川県教育委員会
454　陶器鉄絵大鉢(笠原鉢)　清川村長福寺址　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　前期
455　染付仏飯器　清川村長福寺址　神奈川県教育委員会　肥前　中期
456　陶器灯明皿　清川村長福寺址　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　中期
457　陶器灯明受皿　清川村長福寺址　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　後期
458　陶器灯明受皿　清川村長福寺址　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　後期
459　軟質陶器コーヒーカップ　清川村長福寺址　神奈川県教育委員会　イギリス製
460　軟質陶器皿　清川村長福寺址　神奈川県教育委員会　北欧製
461　塩釉瓶（靴磨き液入れ）　清川村長福寺址　神奈川県教育委員会　イギリス製
462　塩釉瓶（ジャム瓶）　清川村長福寺址　神奈川県教育委員会　イギリス製
463　ガラス製ジンボトル　清川村長福寺址　神奈川県教育委員会　欧州
464　ガラス製ソーダボトル　清川村長福寺址　神奈川県教育委員会　イギリス製またはアメリカ製
465　軟質陶器皿　清川村長福寺址　神奈川県教育委員会　イギリス製
466　青磁仏花瓶　清川村長福寺址　神奈川県教育委員会　肥前　中期
467　軟質陶器皿　清川村長福寺址　神奈川県教育委員会　イギリス製
468　ワインボトル　清川村長福寺址　神奈川県教育委員会　欧州
469　鋺　清川村長福寺址　神奈川県教育委員会
470　飾り金具　清川村長福寺址　神奈川県教育委員会
471　風鐸の舌　清川村長福寺址　神奈川県教育委員会
472　風鐸　清川村長福寺址　神奈川県教育委員会
473　鐘の鋳型(一部　撞座部)　清川村長福寺址　神奈川県教育委員会
474　硯　清川村長福寺址　神奈川県教育委員会

六、農村の道具

475　石臼(下臼)　伊勢原市東富岡・北三間遺跡　神奈川県教育委員会
476　染付碗　伊勢原市東富岡・北三間遺跡　神奈川県教育委員会　肥前　中期
477　陶器碗　伊勢原市東富岡・北三間遺跡　神奈川県教育委員会　関西
478　陶器刷毛目碗　伊勢原市東富岡・北三間遺跡　神奈川県教育委員会　肥前　中期
479　染付小杯　伊勢原市東富岡・北三間遺跡　神奈川県教育委員会　肥前　中期
480　染付小碗　伊勢原市東富岡・北三間遺跡　神奈川県教育委員会　肥前　中期
481　染付皿　伊勢原市東富岡・北三間遺跡　神奈川県教育委員会
482　染付皿　伊勢原市東富岡・北三間遺跡　神奈川県教育委員会　肥前　中期
483　陶器摺絵鉢　伊勢原市東富岡・北三間遺跡　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　中期
484　陶器片口鉢　伊勢原市東富岡・北三間遺跡　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　中期
485　青磁仏花瓶　伊勢原市東富岡・北三間遺跡　神奈川県教育委員会
486　茶臼　伊勢原市東富岡・北三間遺跡　神奈川県教育委員会
487　陶器灯明皿　伊勢原市東富岡・北三間遺跡　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　中期
488　陶器灯明受皿(台付)　伊勢原市東富岡・北三間遺跡　神奈川県教育委員会　関西　後期
489　陶器灯明皿　伊勢原市東富岡・北三間遺跡　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　中期

490　陶器灯明受皿　伊勢原市東富岡・北三間遺跡　神奈川県教育委員会　瀬戸・美濃　後期
491　銅製匙　伊勢原市東富岡・北三間遺跡　神奈川県教育委員会
492　茶臼　伊勢原市東富岡・北三間遺跡　神奈川県教育委員会
493　砥石　伊勢原市東富岡・北三間遺跡　神奈川県教育委員会
494　砥石　伊勢原市東富岡・北三間遺跡　神奈川県教育委員会
495　砥石　伊勢原市東富岡・北三間遺跡　神奈川県教育委員会
496　錐　伊勢原市東富岡・北三間遺跡　神奈川県教育委員会
497　染付碗(一つは不良品)　伊勢原市東富岡・北三間遺跡　神奈川県教育委員会　肥前　後期
498　染付碗　伊勢原市東富岡・北三間遺跡　神奈川県教育委員会　肥前　後期
トピックス①
499　燗徳利(焼き継ぎ)　茅ヶ崎市上ノ町・広町遺跡　茅ヶ崎市教育委員会　肥前　後期
500　染付碗(焼き継ぎ)　茅ヶ崎市上ノ町・広町遺跡　茅ヶ崎市教育委員会　瀬戸・美濃　後期
501　染付碗(焼き継ぎ)　茅ヶ崎市上ノ町・広町遺跡　茅ヶ崎市教育委員会　瀬戸・美濃　後期
502　染付蓋(焼き継ぎ)　茅ヶ崎市上ノ町・広町遺跡　茅ヶ市教育委員会　肥前　後期
503　染付碗(焼き継ぎ)　茅ヶ崎市上ノ町・広町遺跡　茅ヶ崎市教育委員会　瀬戸・美濃　後期
504　染付中碗(焼き継ぎ)　茅ヶ崎市上ノ町・広町遺跡　茅ヶ崎市教育委員会　瀬戸・美濃　後期
505　染付皿(焼き継ぎ)　茅ヶ崎市上ノ町・広町遺跡　茅ヶ崎市教育委員会　肥前　後期
506　染付碗(焼き継ぎ)　茅ヶ崎市上ノ町・広町遺跡　茅ヶ崎市教育委員会　瀬戸・美濃　後期
トピックス②
507　墨書香炉　平塚市宮ノ脇遺跡　平塚市教育委員会　瀬戸・美濃　中期
トピックス③
508　商売往来絵字引　　個人

ウ　フリーゾーン等における「馬車道を描く日曜画家展 歴代金賞作品」展示

概　要：　昭和 55(1980)年から始められ 32 回目となった「馬車道を描く日曜画家展」の歴代金賞受賞作品を、当館フリーゾーン等に展示した。なお、当館角田学芸員が審査員の一人として協力した。

会　期：平成 25 年 10 月 26 日(土)～11 月 4 日(月・祝)

会　場：神奈川県立歴史博物館　フリーゾーン廊下、会議室

共　催：馬車道商店街協同組合

展示場所及び点数：合計 32 点　(馬車道側廊下(2 ヶ所・11 点)、会議室(21 点))

エ　フリーゾーンにおけるパネル展示

(ｱ)　「かながわの近代建築」

概　要：　神奈川県内には、現在も明治・大正・昭和戦前期に建てられた数多くの近代建築が残されている。これらの近代建築の多くは、横浜における開港場や居留地に由来する建築、湘南地域に幅広く分布する避暑・避寒のための別荘建築、海軍の軍都として発展した横須賀などに見られる軍事関連の建築、箱根を中心とした観光地に建てられた旅館やホテル建築、京浜工業地帯の一角を占める横浜・川崎の臨海部の工場建築という、五つの要素に大別してとらえることができる。これは神奈川県内の近代建築の特色を表現しているだけでなく、神奈川県の近代の歩みを考える上で重要な要素でもある。

本展示では、神奈川県内に現存する近代建築のうち、当館の建物である旧横浜正金銀行本店本館や「キングの塔」と通称される神奈川県庁本庁舎をはじめとする 24 棟の建物を取り上げ、その魅力を紹介した。

会　期：通年

会　場：神奈川県立歴史博物館　フリーゾーン　廊下

展示資料点数：25 点（番外のマップを含む）

○出品目録(いずれも写真パネル)

(凡例) № 名称 所在地 竣工年月

番外 かながわの近代建築MAP(神奈川県内の近代建築のうち60棟を地図上に示し、各建物の写真と概要データを紹介したもの)

1 旧横浜正金銀行本店本館(神奈川県立歴史博物館) 横浜市中区南仲通 1904(明治37)年7月

2 神奈川県庁舎(神奈川県庁本庁舎) 横浜市中区日本大通 1928(昭和3)年10月

3 旧新港埠頭煉瓦二号倉庫(横浜赤レンガ倉庫2号館) 横浜市中区新港 1911(明治44)年5月

4 旧三井物産横浜支店(三井物産横浜ビル) 横浜市中区日本大通1号ビル―1911(明治44)年8月、2号ビル―1927(昭和2)年

5 旧開港記念横浜会館(横浜市開港記念会館) 横浜市中区本町 1917(大正6)年6月

6 旧川崎銀行横浜支店(日本興亜馬車道ビル) 横浜市中区弁天通 1922(大正11)年

7 旧生糸検査所(横浜第2合同庁舎) 横浜市中区北仲通 1926(大正15)年2月

8 ホテルニューグランド本館 横浜市中区山下町 1927(昭和2)年11月

9 旧横浜商工奨励館(横浜情報文化センター) 横浜市中区日本大通 1929(昭和4)年4月

10 旧三井銀行横浜支店(三井住友銀行横浜支店) 横浜市中区本町 1931(昭和6)年3月

11 旧横浜英国総領事館(横浜開港資料館旧館) 横浜市中区日本大通 1931(昭和6)年

12 横浜税関本関庁舎 横浜市中区海岸通 1934(昭和9)年3月

13 横浜郵船ビル(日本郵船歴史博物館) 横浜市中区海岸通 1936(昭和11)年10月

14 旧内田家住宅(外交官の家) 横浜市中区山手町 1910(明治43)年

15 旧英国総領事公邸(横浜市イギリス館) 横浜市中区山手町 1937(昭和12)年

16 旧大倉精神文化研究所(横浜市大倉山記念館) 横浜市港北区大倉山 1932(昭和7)年4月

17 福住旅館金泉楼・萬翠楼 足柄下郡箱根町湯本 1877(明治10)・1878(明治11)年

18 富士屋ホテル本館 足柄下郡箱根町宮ノ下 1891(明治24)年

19 旧日本爆発物製造株式会社支配人執務室(旧海軍火薬廠将校クラブ、旧横浜ゴム平塚製造所記念館) 平塚市浅間町 1912(明治45)年頃

20 旧木下邸 中郡大磯町大磯 明治時代末期

21 旧近藤邸 藤沢市鵠沼東(同市内より移築) 1925(大正14)年

22 旧華頂家住宅主屋(旧華頂宮邸) 鎌倉市浄明寺 1929(昭和4)年

23 旧藤沢ゴルフ倶楽部クラブハウス(神奈川県立体育センター食堂) 藤沢市善行 1932(昭和7)年

24 旧前田家別邸(鎌倉文学館本館) 鎌倉市長谷 1936(昭和11)年8月

(イ) 「写真で見る馬車道の歴史」

概 要: 馬車道。本町4丁目の交差点から吉田橋までのわずか500メートルほどの通りであるが、歌謡曲でも歌われたヨコハマを代表する道路のひとつである。幕末横浜開港とともに生まれ、港と市街地を結ぶ往来として発展し、明治4(1871)年の地図には「馬車道」の名前が記されている。

輸出入の品々を運んだ荷馬車や外国人などが乗った馬車が通行していたことから「馬車道」とよばれ、多くの人たちが往来し、さまざまな商店が建ち並ぶ一方、貿易商社や金融機関が軒を並べる通りでもあった。馬車道150年の歩みを写真パネルで紹介した。

会 期:平成26年1月5日(日)～平成26年3月30日(日)

会 場:神奈川県立歴史博物館 フリーゾーン 廊下

展示資料点数:11点

○出品目録(いずれも写真パネル)

(凡例) № 名称(作者) 時代 所蔵・写真提供者

1 横浜一覧之真景色(部分) 橋本玉蘭斎(五雲亭)貞秀 明治4年(1871) 所蔵 神奈川県立歴史博物館

2 横浜吉田橋通繁盛之図 国輝 山本兵吉版 明治3年(1871) 所蔵 神奈川県立歴史博物館

3 (絵葉書)横浜正金銀行 明治末 所蔵 神奈川県立歴史博物館

4 (絵葉書)明治時代の馬車道 明治末 所蔵 神奈川県立歴史博物館

5 (絵葉書)横浜震災実況　横浜正金銀行付近の惨状　大正 12 年(1923)　所蔵 神奈川県立歴史博物館
6 空襲で焼け野原になった馬車道　昭和20年(1945)　写真提供　アメリカ国立公文書館
7 オート三輪が走る馬車道　昭和 35 年(1960)　写真提供 神奈川新聞社
8 東宝会館(現リッチモンドホテル)　昭和34年(1959)　写真提供 神奈川新聞社
9 国際仮装行列の仮面ライダー　昭和48年(1973)　写真提供 神奈川新聞社
10 馬車道まつりパレード　昭和51年(1976)　写真提供 馬車道商店街協同組合
11 馬車道で歌うピンクレディー　昭和52年(1977)　写真提供 馬車道商店街協同組合

(ｳ)「ようこそ、驚きのやきもの世界へ －横浜に花開いたやきもの眞葛焼の魅力－」

概　要：　眞葛焼は、開港後まもない横浜で、後に帝室技芸員となって明治の陶芸界を牽引することになる宮川香山(初代)によって始められたやきものである。明治時代前期には、立体的な装飾を駆使した高浮彫作品を万国博覧会などに出品、世界的に高い評価を得た。当館は、近代陶磁の蒐集家・研究家である田邊哲人氏より、眞葛焼の作品の寄託を受け、常設展示で展示公開を行っている。眞葛焼の魅力を紹介するとともに、常設展示への興味を喚起することを目的に、当館寄託の田邊哲人コレクションから、代表的な作品を部分の拡大を交えて写真パネルで紹介した。

会　期：平成 25 年 7 月 20 日(土)～平成 25 年 12 月 27 日（金）
会　場：神奈川県立歴史博物館　フリーゾーン　廊下
展示資料点数：7 点

○出品目録(いずれも写真パネル)

(凡例) № 名称(作者) 時代 所蔵･写真提供者

1 高取釉渡蟹水盤(部分)　宮川香山(初代)作　大正時代　田邊哲人コレクション(当館寄託)
2 色嵌釉紫陽花花瓶　宮川香山(初代)作　明治時代後期　田邊哲人コレクション(当館寄託)
3 高浮彫葡萄ノ蔓ニ蜂ノ巣花瓶(部分)　宮川香山(初代)作　明治時代前期　田邊哲人コレクション(当館寄託)
4 高浮彫南天ニ鶉花瓶(部分)　宮川香山(初代)作　明治時代前期　田邊哲人コレクション(当館寄託)
5 高浮彫風神雷神花瓶(部分)　宮川香山(初代)作　明治時代前期　田邊哲人コレクション(当館寄託)
6 高浮彫桜ニ群鳩花瓶(部分)　宮川香山(初代)作　明治時代前期　田邊哲人コレクション(当館寄託)
7 高浮彫牡丹ニ眠猫覚醒蓋付水指　宮川香山(初代)作　明治時代前期　田邊哲人コレクション(当館寄託)

(5)　学習支援事業

県民の学習ニーズに応えるべく学習の機会を提供し、博物館で行われる講座・講演会や各種行事などへの参加を通して、神奈川の歴史・文化や文化財についての知識関心を深めることを目的として実施した(一部再掲)。

ア　講座

県民に展示内容や文化財への興味関心を持ってもらい、より深い理解を図るため、県博講座をはじめとした次の講座を実施した。

(ｱ) 県博セミナー[Ⅰ期](生涯学習課主管の県立機関活用講座、4 回連続、有料〈4,000 円、全回申込者を優先するが定員に達しない場合は各回毎に単独受講可能。単独受講の場合は 1,000 円〉14:00～16:00)

テーマ：「発見！神奈川県庁本庁舎の魅力」(応募者 61 名〈単回を含む事前申込者〉)
概　要：特別展「『キングの塔』誕生！－神奈川県庁本庁舎とかながわの近代遺産－」にちなむ連続講座。1928（昭和 3）年に竣工した神奈川県本庁舎の実施設計図や部材や県内各地の近代化遺産に関する資料を紹介。

内　容
・第1回　8月3日(土)（受講者34名）
「建築史的に見る歴代の神奈川県庁舎」京都工芸繊維大学大学院教授　石田 潤一郎 氏
・第2回　8月10日(土)（受講者26名）
「神奈川県庁本庁舎の『弟』たち－名古屋市役所と愛知県庁舎－」名古屋市立大学名誉教授　瀬口 哲夫 氏
・第3回　8月17日(土)（受講者40名）
「神奈川県庁本庁舎建築とフランク・ロイド・ライト」（社）かながわ住まい・まちづくり協会相談役　佐藤 嘉明 氏
・第4回　8月24日(土)（受講者36 名）
現地見学会「県庁本庁舎と県立歴史博物館（旧横浜正金銀行本店）の建物見学」神奈川県施設整備課長　村島 正章 氏、主任学芸員　丹治 雄一

(ｲ) 県博セミナー[Ⅱ期](生涯学習課主管の県立機関活用講座、5回連続、有料〈5,000円、全回申込者を優先するが定員に達しない場合は各回毎に単独受講可能。単独受講の場合は1,000円〉、14:00～16:00)
テーマ：「鎌倉をとりまく中世文書の世界」(応募者78名〈単回を含む事前申込者〉)
概　要：　特別展「こもんじょざんまい」にちなむ連続講座。日頃目にする機会の少ない源頼朝、源義経などの有名武将の文書をはじめ、寺社に秘蔵されてきた珍しい古文書等の中世文書の楽しさ美しさを紹介。
内　容
・第1回　10月19日(土)（受講者42名）
「こもんじょを鑑賞すること」主任学芸員　古川 元也
・第2回　10月26日(土)（受講者46名）
「鎌倉の中世文書」東京大学大学院人文社会系研究科准教授　高橋 典幸 氏
・第3回　11月2日(土)（受講者47名）
「武家文書の世界」専門学芸員　永井 晋
・第4回　11月9日(土)（受講者39 名）
「金沢文庫の書状と聖教」愛知学院大学文学部教授　福島 金治 氏
・第5回　11月16日(土)（受講者36 名）
「戦国大名北条氏とその文書」専門員（学芸員）　鳥居 和郎

(ｳ) 県博講座Ⅰ(当館の学芸員等による4回連続講座、無料、ただし特別展観覧券が必要、第1～3回14:00～16:00、第4回13:30～16:00)
テーマ：「『道中記』の世界」(応募者100名)
概　要：　特別展「江戸時代　かながわの旅－『道中記』の世界－」にちなむ連続講座。江戸時代に出版された旅の案内書「道中記」により、江戸時代の“かながわ”の旅を紹介。
内　容
・第1回　5月11日(土)（受講者83名）
「『道中記』入門」企画普及課長　古宮 雅明
・第2回　5月18日(土)（受講者74名）
「描かれたかながわ」主任学芸員　桑山 童奈
・第3回　5月25日(土)（受講者79名）
「『道中日記』を読む」鎌倉国宝館館長　鈴木 良明 氏
・第4回　5月29日(水)（受講者65 名）
現地見学会「東海道を歩く－平塚宿から大磯宿－」館長　薄井 和男、企画普及課長　古宮 雅明、主任学芸員　桑山 童奈

(ｴ) 県博講座Ⅱ(外部講師による全3回講座、無料、ただし常設展観覧券が必要、14:00～16:00)
テーマ：「明治、横浜の花　眞葛焼の魅力」(応募者1回目103名、2回目97名、3回目96名)

概　要：　特別陳列「眞葛焼－田邊哲人コレクションと館蔵の名品－」にちなむ連続講座。横浜の近代を彩ったやきもの「眞葛焼」の魅力を、当館寄託の田邊哲人コレクションと館蔵の名品から紹介。

内　容

・第1回　1月12日(日)（受講者99名）
「眞葛焼、そして明治工芸の超絶技巧について」明治学院大学教授　山下 裕二 氏

・第2回　2月9日(日)（受講者61名）
「明治陶芸における二つの“山”－二つの香山、そして板谷波山へ」茨城県陶芸美術館副主任学芸員　花井 久穂 氏

・第3回　2月22日(土)（受講者63名）
「明治時代の日本陶磁と眞葛焼」瀬戸市美術館館長　服部 文孝 氏

(ｵ) 博物館入門講座(無料、ただし 常設展観覧券が必要)
（応募者140名・受講者第1回65名第2回57名）

概　要：　普段見ることのできない博物館の様々な活動や学芸員の仕事について紹介するとともに、当館の展示についても学ぶ。なお、当館のボランティア募集に際しては、当講座を受講済であることを応募の条件としている。

内　容(全2日間)

①1月18日(土) 10:00～15:30
当館の概要・博物館とその機能・博物館活動と学芸員の仕事・当館の企画普及事業・館内見学

②1月25日(土) 9:50～15:20
学芸員の技・学芸員の目(1)・(2)・ワークショップ

イ　特別展記念講演会等行事(特別展のテーマに沿った内容の講演会等の実施。無料、ただし(ｱ)、(ｲ)①、(ｳ)①第2回②③は特別展観覧券、(ｴ)(ｵ)①は常設展観覧券が必要。応募者数を記していない場合は自由参加。)

(ｱ) 特別展「江戸時代　かながわの旅　－『道中記』の世界－」関連講演会等
記念落語会(応募者199名・受講者 第1回91名、第2回86名)

日　時：6月1日(土) 第1回13:30～　第2回15:00～
演　題：「大山詣り」を聴く！
講　師：桂　歌助 師匠

(ｲ)　特別展「『キングの塔』誕生！－神奈川県庁本庁舎とかながわの近代化遺産－」関連講演会等

①記念講演会(応募者133名・受講者 79名)

日　時：9月7日(土) 14:00～16:00
演　題：「かながわの近代化遺産の魅力」
講　師：建築写真家　増田 彰久 氏

②子供向け行事「夏休み県庁探検」

日　時：8月22日(水) 10:00～15:00（応募者　子供21名（付き添いの保護者17名）・受講者　子供17名（付き添いの保護者13名）
内　容：神奈川県庁本庁舎の建物と神奈川県庁の仕事を楽しく学ぶことが出来る行事。
講　師：主任学芸員　丹治 雄一

③神奈川県庁本庁舎一般公開及びおよび神奈川県庁本庁舎建物解説

・第1回　7月21日(日) 県庁公開10:00～16:00（入場者615名）
建物解説11:00～、14:00～（参加者117名）

・第2回　8月　4日(日) 県庁公開10:00～16:00（入場者744名）
建物解説11:00～、14:00～（参加者340名）

・第3回　8月 18日(日) 県庁公開10:00～16:00（入場者1,297名）
建物解説11:00～、14:00～（参加者470名）

・第4回　9月 15日(日) 県庁公開10:00～16:00（入場者　352名）
建物解説11:00～、14:00～（参加者183名）
内　容：神奈川県庁一般公開に併せて、学芸員による建物解説を実施。
場　所：神奈川県庁本庁舎
講　師：主任学芸員　丹治　雄一

(ｳ) 特別展「こもんじょ ざんまい―鎌倉ゆかりの中世文書―」関連講演会等
①記念講演会
・第1回　(応募者150名・受講者 83名)
日　時：11月3日(日) 14:00～16:00
演　題：「中世古文書とその料紙」
講　師：県立金沢文庫文庫長　永村 眞 氏
・第2回　(応募者50名・受講者 40名)
日　時：11月23日(土・祝) 14:00～16:00
演　題：「古文書を修補する－宮内庁書陵部の修補から東日本大震災まで－」
講　師：元宮内庁修補室修補師長　横山 謙次 氏
②体験学習会「植物から紙をつくる－みっちりと紙漉きを体験しよう－」(応募者16名・受講者12名)
日　時：10月20日(日) 10:00～16:30
講　師：紙漉工房・小川和紙職人　田村 正 氏
③高校生のための古文書講座「歴史好き集まれ！」(応募者21名・受講者16名)
日　時：11月10日(木) 10:00～12:00
講　師：主任学芸員　古川 元也
④現地見学会「中世文書の世界を歩く」(応募者54名・受講者27名)
日　時：11月14日(木) 13:00～16:00
講　師：鎌倉国宝館学芸員　阿部 能久 氏、主任学芸員　古川 元也

(ｴ) コレクション展「アメリカ人女性が巡った明治の日本」関連講演会等
記念講演会(応募者28名・受講者 24名)
日　時：3月30日(日) 14:00～16:00
演　題：「世界漫遊家の時代」
講　師：元横浜開港資料館調査研究員　伊藤 久子 氏

(ｵ) その他の展示「平成25年度かながわの遺跡展　地中に埋もれた江戸時代の道具たち－かながわの町と村の暮らしぶり－」関連行事
①記念講演会
・第1回(応募者104名・受講者91名)
日　時：1月19日(日) 14:00～16:00
演　題：「出土遺物からみえる江戸のくらし」
講　師：東京大学准教授　堀内 秀樹 氏
・第2回(応募者203名・受講者40名)
日　時：2月15日(土) 14:00～16:00
演　題：「考古学からみた江戸と周辺の町・村」
講　師：早稲田大学教授　谷川 章雄 氏
②子ども向けイベント「江戸の遊びを体験しよう」(参加者 131名)
日　時：2月1日(土) 10:00～15:30
内　容：昔の玩具を現代の復刻版で再現し、自由に遊んでもらった。
講　師：埋蔵文化財センター 職員

ウ　学芸員による展示解説(特別展・コレクション展・特別陳列等の担当学芸員による展示解説、時間は

別記のない場合は13:30～、自由参加)

① 特別展「江戸時代　かながわの旅　－『道中記』の世界－」
- 5月　3日(金・祝)　担当：企画普及課長　古宮 雅明、参加者79名
- 5月　5日(日)　担当：主任学芸員　桑山 童奈、参加者70名
- 5月 12日(日)　担当：企画普及課長　古宮 雅明、参加者38名
- 5月 19日(日)　担当：主任学芸員　桑山 童奈、参加者28名
- 5月 26日(日)　担当：企画普及課長　古宮 雅明、参加者35名
- 6月　2日(日)　担当：主任学芸員　桑山 童奈、参加者18名
- 6月　9日(日)　担当：企画普及課長　古宮 雅明、参加者45名
- 6月 16日(日)　担当：主任学芸員　桑山 童奈、参加者36名

② 特別展「『キングの塔』誕生！－神奈川県庁本庁舎とかながわの近代化遺産－」
- 7月 28日(日)　担当：主任学芸員　丹治 雄一、参加者32名
- 8月 11日(日)　担当：主任学芸員　丹治 雄一、参加者22名
- 8月 25日(日)　担当：主任学芸員　丹治 雄一、参加者20名
- 9月　8日(日)　担当：主任学芸員　丹治 雄一、参加者33名

③ 特別展「こもんじょ　ざんまい－鎌倉ゆかりの中世文書－」
- 10月 13日(日)　担当：専門学芸員　永井　晋、参加者70名
- 10月 20日(日)　担当：主任学芸員　古川 元也、参加者24名
- 10月 27日(日)　担当：専門学芸員　永井　晋、参加者35名
- 11月 10日(日)　担当：主任学芸員　古川 元也、参加者45名
- 11月 17日(日)　担当：専門学芸員　永井　晋、参加者45名
- 11月 24日(日)　担当：主任学芸員　古川 元也、参加者45名

④ 特別陳列「眞葛焼－田邊哲人コレクションと館蔵の名品－」
- 1月 19日(日)　担当：学芸員　小井川 理、参加者43名
- 2月　2日(日)　担当：学芸員　小井川 理、参加者24名
- 2月 16日(日)　担当：学芸員　小井川 理、参加者52名
- 2月 23日(日)　担当：学芸員　小井川 理、参加者45名

⑤ その他の展示「平成25年度かながわの遺跡展　地中に埋もれた江戸時代の道具たち－かながわの町と村の暮らしぶり－」
- 1月 26日(日)　担当：文化遺産課　副主幹　冨永 樹之、参加者22名
- 2月　2日(日)　担当：文化遺産課　副主幹　冨永 樹之、参加者25名
- 2月　9日(日)　担当：文化遺産課　副主幹　冨永 樹之、参加者22名

⑥ コレクション展「アメリカ人女性が巡った明治の日本」
- 3月 22日(土)　担当：主任学芸員　嶋村 元宏、参加者8名
- 4月　6日(日)　担当：主任学芸員　嶋村 元宏、参加者25名
- 4月 13日(日)　担当：主任学芸員　嶋村 元宏、参加者12名

エ　ミュージアムトーク(常設展示室で展示資料を解説、自由参加)

日　時：12月7日(土) 13:30～14:30
テーマ：「小正月のどんど焼き」
担　当：学芸員　新井 裕美
参加者：10名

オ　その他の行事(無料、ただし常設展観覧券が必要)

(ｱ) 博物館建物見学会

概　要：国の重要文化財、史跡に指定されている当館建物について、通常は見ることのできない地下金庫扉や屋上ドーム見学し、学芸員が解説。①・②・④の見学会では、当館見学後、神奈川県庁本庁舎の見学を併せて行った。

① 日　時：5月4日(土) 第1回 10:00～12:00、第2回 13:30～15:30
講　師：主任学芸員　丹治 雄一
応募者：79名
参加者：第1回 27名、第2回 33名

② 日　時：10月20日(日) 第1回 10:00～12:00、第2回 13:30～15:30
講　師：主任学芸員　丹治 雄一
応募者：65名
参加者：第1回 27名、第2回 23名

③ 日　時：11月16日(土) 第1回 10:30～12:00、第2回　14:00～15:30
講　師：主任学芸員　丹治 雄一
応募者：34名
参加者：第1回 17名、第2回 10名

④ 日　時：3月9日(日) 第1回 10:00～12:00、第2回 13:30～15:30
講　師：主任学芸員　丹治 雄一
応募者：43名
参加者：第1回 13名、第2回 22名

(イ) ミュージアムコンサート

①「神奈川フィル木管五重奏ミニコンサート in 歴史博物館」
日　時：5月4日(土・祝) 14:00～14:30
内　容：フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、ホルンによる五重奏。ハイドンやモーツァルト作曲のクラシックの名曲をはじめ「わらの中の七面鳥」、「美空ひばりメドレー」など演奏。
演奏者：神奈川フィルハーモニー管弦楽団
会　場：当館講堂
応募者：161名
参加者：75名

②「浦賀ウインドオーケストラによる吹奏楽演奏会」
日　時：5月26日(日) 14:00～15:00
内　容：特別展「江戸時代　かながわの旅－『道中記』の世界－」にちなんだ、「旅」をテーマとした曲を演奏。
演奏者：浦賀ウインドオーケストラ
会　場：当館講堂
応募者：76名
参加者：65名

③「クラシック・ヨコハマ2013　ミュージアムコンサート in 県立歴史博物館」
日　時：12月15日(日) 14:00～15:00
内　容：「クラシック・ヨコハマ2013」の一環として行われた。ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロによる弦楽四重奏。
演奏者：「ミュージック・マスターズ・コース・ジャパン修了生」による弦楽四重奏
会　場：当館講堂
応募者：107名
参加者：77名

④「横浜『三塔の日』マグカル・イベント　『三塔＋エース』ミニコンサート」
日　時：3月9日(日) 13:15～13:35
内　容：「横浜三塔の日」のイベントの一環として行われた。各会場のイメージに合わせ、異なる編成で演奏。当館は木管五重奏。

演奏者：神奈川フィルハーモニー管弦楽団
会　場：当館講堂
応募者：244 名
参加者：74 名

(ｳ) 県博寄席

「県博寄席―落語を聴いて江戸時代を追体験―」
日　時：3 月 28 日(金)　第 1 回 13:30～14:30、第 2 回 15：00～16：00
内　容：博物館に親しむ機会を提供すると共に、落語を通じて「江戸時代」を実感してもらう。
演　目：小間物屋政談
演奏者：桂 歌助 師匠
会　場：当館講堂
応募者：115 名
参加者：第 1 回 53 名、第 2 回 46 名

カ　子ども・青少年向け教育普及事業

(ｱ) ミュージアムクイズ(自由参加)

内　容：常設展展示資料から出題したクイズシートを配布。
開催日：毎週土・日、祝日(のべ 87 日間)
参加者：401 名
担　当：非常勤学芸員　泉山 花江

(ｲ) ミュージアムクイズ GW スペシャル 2013 (自由参加)

内　容：子どもの日にちなんだ行事。常設展展示資料から出題したクイズを解きながら、展示室を回る。参加者には景品あり。平成 24 年度まで「博物館で遊ぼう!!」であった行事名を今年度から改名。
開催日：5 月 3 日(金・祝)～5 月 6 日(月・祝)
参加者：607 名
担　当：非常勤学芸員　泉山 花江

(ｳ) ミュージアム・クイズラリー よこはま 2013

内　容：夏休み期間に、近隣の博物館施設と共同で開催するクイズラリー。当館主催で参加館との連絡会を作り実施。参加者はクイズを解きながら各館を回り、クイズノートに館ごとのスタンプを押してもらう。スタンプ数に応じた賞品あり。平成 25 年度は「いちばん！」と題し、各館の収蔵資料や展示内容に関する一番(大きい・ 多い・最初等)にテーマを設定した。
　また、関連行事として、学芸員の同行のもとで 15 館のうち数館を回り、各館で説明を聞きながらクイズを解き、途中で周辺の歴史ある建物や史跡についての説明を聞く「ミュージアムツアー」を 5 コース実施した。今年度は NPO 法人横浜シティガイド協会の協力を得て、同協会員に施設間移動中の解説を委託した。
開催期間：7 月 13 日(土)～9 月 1 日(日)
参加館園：合計 15 館
　横浜みなと博物館・JICA 横浜 海外移住資料館・日本郵船歴史博物館・横浜税関資料展示室・横浜開港資料館・シルク博物館・日本新聞博物館・放送ライブラリー・横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館・横浜人形の家・岩崎ミュージアム・大佛次郎記念館・神奈川近代文学館・神奈川県立歴史博物館
参 加 者：全体 5,546 名(自由参加)
関連行事：ミュージアムツアー（5 コース）

① 日本新聞博物館～JICA 横浜 海外移住資料館コース
7 月 25 日(木) 10:00～12:30 (応募者 1 人、参加者 1 人)
② シルク博物館～横浜税関資料展示室～放送ライブラリーコース
8 月 2 日(金) 9:30～11:50 (応募者 7 人、参加者 4 人)
③ 神奈川近代文学館～大佛次郎記念館コース
8 月 2 日(金) 13:30～17:00 (応募者 2 人、参加者 3 人)
④ 神奈川県立歴史博物館～横浜みなと博物館・帆船日本丸コース
8 月 3 日(土)9：30～11：30(応募者 2 人、参加者 2 人)
⑤ 横浜ユーラシア文化館～横浜人形の家コース
8 月 3 日(土) 13:00～16:00 (応募者 13 人、参加者 13 人)

担　当：非常勤学芸員　泉山 花江

(ｴ) 子ども博物館教室

a 名　称：「浮世絵をまなぼう！」（全 2 日間）

概　要：「子ども博物館教室」は、子どもたちに当館の存在を知らせるとともに、体験型行事を通して、楽しみながら学習し、博物館に興味を持ってもらうことを目的に、毎年、夏休み期間中に開催している学習支援事業の一つである。
「浮世絵をまなぼう！」と題し、講師の指導のもとで浮世絵製作の実演観賞・体験をすることで、浮世絵についての知識をはじめ、当時の生活や歴史について興味を持ってもらうことを企図した。

内　容：　① 7 月 27 日(土) 10:20～15:00
午前：浮世絵の概要や歴史について解説
午後：版画の摺り実演観賞と体験。
② 7 月 28 日(日) 9:30～15:00
午前：1 日目に引き続き、浮世絵の概要や歴史について解説
午後：版画の手彩色体験

対　象：小学４年生以上～中学生(小学生は保護者の付き添いが必要)

参加者：応募者　8 名、受講者　8 名

講　師：（公財）アダチ伝統木版画技術保存財団 理事 中山 周 氏、摺師 京増 与志夫 氏、
主任学芸員　桑山 童奈（解説）

担　当：非常勤学芸員　泉山 花江

b 名　称：冬の子ども博物館教室「まがたまづくり」

概　要：「冬の子ども博物館教室」は、毎年夏に行っている「子ども博物館教室」に加えて、博物館に気軽に足を運んでもらい、楽しみ、親しんでもらい、これをきっかけにこれからも気軽に来館してもらえることを目指し、今年初めて実施した。
古代のアクセサリーであるまがたまを作ることを通して、古代の人々の暮らしや技術を知り、子どもたちが歴史をより身近に感じられるようにすることを目指した。

内　容：　12 月 7 日(土)・8 日（日） 14：00～16:00
・　展示室で本物のまがたまを観察
・　作り方の説明後、まがたまを作成

対　象：小学生（小学校３年生以下は、まがたま製作時に保護者付添必須。展示室へは保護者付添は希望者のみ。）

参加者：　12 月 7 日(土)応募者　12 名、受講者 9 名
12 月 8 日(日)応募者　18 名、受講者 13 名

講　師：非常勤学芸員　田辺 可奈

担　当：非常勤学芸員　田辺 可奈

キ　学校連携事業の状況

(ｱ) 展示見学学習等、小中高等学校及び特別支援学校の当館利用状況

	県　内									
	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		県内合計	
	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数
4月	2	257	0	0	1	242	0	0	3	499
5月	2	172	23	769	6	71	0	0	31	1,012
6月	1	70	24	661	3	66	0	0	28	797
7月	0	0	3	40	3	31	0	0	6	71
8月	0	0	2	15	0	0	0	0	2	15
9月	3	294	5	136	2	54	0	0	10	484
10月	13	838	4	91	4	103	0	0	21	1,032
11月	9	660	4	254	3	130	0	0	16	1,044
12月	6	347	5	237	1	3	0	0	12	587
1月	1	28	10	187	0	0	0	0	11	215
2月	3	140	9	342	1	5	2	20	15	507
3月	0	0	2	120	1	3	0	0	3	123
合計	40	2,806	91	2,852	25	708	2	20	158	6,386

	県　外									
	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		県外合計	
	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数
4月	0	0	24	576	4	382	0	0	28	958
5月	3	107	36	509	25	1,113	0	0	64	1,729
6月	3	207	11	289	1	22	0	0	15	518
7月	0	0	2	42	2	15	0	0	4	57
8月	0	0	1	9	0	0	0	0	1	9
9月	1	8	8	277	0	0	0	0	9	285
10月	3	65	10	205	3	40	1	4	17	314
11月	1	70	9	322	6	236	0	0	16	628
12月	0	0	2	44	1	5	0	0	3	49
1月	0	0	5	238	2	46	0	0	7	284
2月	0	0	13	560	2	140	0	0	15	700
3月	0	0	4	85	0	0	0	0	4	85
合計	11	457	125	3,156	46	1,999	1	4	183	5,616

	平成25年度総計		平成24年度総計		平成23年度総計	
	校数	人数	校数	人数	校数	人数
4月	31	1,457	54	1,217	19	1,233
5月	95	2,741	98	3,033	65	2,470
6月	43	1,315	52	1,538	51	1,613
7月	10	128	8	235	16	647
8月	3	24	1	7	4	55
9月	19	769	29	2,048	29	1,185
10月	38	1,346	21	822	39	2,117
11月	32	1,672	36	1,888	26	1,361
12月	15	636	19	933	14	629
1月	18	499	18	526	9	248
2月	30	1,207	27	958	37	1,109
3月	7	208	17	326	17	389
合計	341	12,002	380	1,3531	326	13,056

(ｲ)当館の利用目的

(単位：校数)

	利用目的	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	合計
県内	社会科(歴史学習)	18(53%)	6(16%)	8(57%)	0(0%)	32(36%)
	総合的な学習の時間	10(29%)	20(53%)	5(36%)	0(0%)	35(40%)
	学校行事(遠足、社会見学等)	6(18%)	12(31%)	1(7%)	2(100%)	21(24%)
県外	社会科(歴史学習)	1(11%)	5(14%)	1(8%)	0(0%)	7(12%)
	総合的な学習の時間	5(56%)	20(56%)	5(38%)	0(0%)	30(51%)
	学校行事(遠足、社会見学等)	3(33%)	11(30%)	7(54%)	1(100%)	22(37%)

※事前連絡校による統計

(ｳ) 学校の博物館利用の状況

(単位：校数)

校種	事前準備			歴博活用			利用形態			付帯施設利用			利用目的		
	下見来館	電話打合	資料提供	課題持参	ボラ活用	特別依頼	全員一斉	グループ	個人	駐車場	講堂	その他	歴史学習	総合学習	社会見学等
小学校	27	43	23	32	7	0	25	14	0	4	10	0	19	15	9
中学校	32	74	36	50	18	3	25	51	2	3	3	9	11	40	23
高等学校	15	24	10	18	5	2	14	10	2	0	0	2	7	9	8
特別支援学校	2	3	2	1	1	0	2	0	0	1	0	2	0	1	2
合計	76	144	71	101	31	5	66	75	4	8	13	13	37	65	42

※事前連絡校による統計
※課題持参＝学校がワークシートなどを用意して見学。質問などにボランティアが対応。
※ボラ活用＝ボランティアによる展示解説や質問への対応要請が事前にあったもの。
※特別依頼＝学芸員による館の概要説明や建物の解説など。
※付帯施設利用＝展示室等の一般利用施設以外に、駐車場(バス等)や講堂等の利用があったもの。

(ｴ) 見学学習(社会科の歴史学習、総合的な学習の時間等)への対応状況

ａ 見学に際し当館の概要などを説明
小学校 4 校、中学校 6 校、高等学校 1 校、大学 6 校

ｂ 見学に際し、学習を支援していくためのワークシート(素材)を提供
小学校 23 校、中学校 36 校、高等学校 10 校

ｃ 解説ボランティアが展示資料を解説
小学校 10 校、中学校 18 校、高等学校 8 校

(ｵ) 社会科の歴史学習、総合的な学習の時間(調べ学習)への対応状況
上記(ｴ)の見学学習において、特定テーマの解説などの求めに対応したもの。

(単位：校数)

依頼テーマ	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校
全般　テーマ1～5	1	0	0	0
テーマ1　さがみの古代に生きた人びと	3	0	1	0
テーマ2　都市鎌倉と中世人	2	1	1	0
テーマ3　近世の街道と庶民文化	0	0	0	0
テーマ4　横浜開港と近代化	4	9	2	1
テーマ5　現代の神奈川と伝統文化	1	1	0	0
特別展示・その他　（含む専門解説）	0	0	0	0

(ｶ)　インターンシップ(就業体験・職場訪問等)への対応状況

目的：　インターンシップは、生徒が学校に在学している期間中に、「勤労体験」「職業体験」活動を通じて、自主的に望ましい勤労観、職業観及び職業に関する知識や技術に触れ自己の個性を理解して、進路選択ができる能力及び態度を身につけることを目的とする。

当館のインターンシップは、簡略化した講座と見学を中心とした職場訪問的なものと、複数日にわたり、博物館という職場の役割や学芸員の仕事について紹介し、また、実際に資料を扱うことで、博物館の仕事をより具体的に知ることを目的とする就業体験的なものとがある。

対応状況：

ａ 就業体験的なもの(複数日にわたり博物館の業務・学芸員の仕事についての概要説明、施設の見学、就業体験等を実施)

○県立平塚商業高等学校(1名)、鎌倉女子大学高等部(1名)、相模女子大学高等部(1名)、星槎高等学校(1名)(合計4名)

・日　時：8月20日(火)～23日(金) 9：00～17:00

・内　容：8月20日(火)：ガイダンス、館内見学、図書整理業務補助

21日(水)：企画普及業務補助、団体の博物館利用業務補助

22日(木)：「夏休み県庁探検」開催補助

23日(金)：正金銀行貨幣コレクション整理補助、考古資料整理補助

ｂ 職場訪問的なもの(博物館の業務・学芸員の仕事についての概要説明を行い、施設見学を実施。2～3時間程度)

○	5月 16日(火)	平塚市立大洋中学校	2年 6名
○	5月 22日(水)	横須賀市立浦賀中学校	2年 21名
○	5月 28日(火)	横須賀市立武山中学校	2年 18名
○	6月 6日(日)	県立横浜清陵総合高校	1年 15名
○	6月 18日(火)	平塚市立金旭中学校	2年 20名
○	6月 18日(火)	自修館中等教育学校	2・3年 9名
○	7月 17日(水)	県立大磯高等学校	1年 25名
○	10月 24日(木)	県立住吉中学校	1～3年 46名

(ｷ)　『歴史博物館の展示(常設)目録 ―学習指導要領・教科書との対照表―』の更新

学校連携検討会議等での検討を受けて作成した『歴史博物館の展示(常設)目録 ―学習指導要領・教科書との対照表―』(当館の常設展示資料と学習指導要領、教科書の主な単元項目が対照でき、さらに学芸員が適宜見学のポイントを記したもの)について、平成17年度で小・中・高等学校の3種類の校種別目録が揃った。また、平成23年度からの小学校を初めとして中学校、高等学校と順次行われてきた新学習指導要領の全面実施を受けて、随時改訂作業を進めている。さらに、平成24年度には、県立高等学校等で実施された日本史必修化の教科書である「郷土史かながわ」との対照表を作成し、全県立高等学校・特別支援学校へ配付した経緯から、この資料を基に学校独自のワークシート作りを行う学校が増えてきている。

(ｸ)　『常設展示品キャプション』の更新

学校連携検討会議等での検討を受けて作成した『常設展示品キャプション』について、展示替えなどによる情報の更新を適宜行った。

(ｹ)　ワークシートの作成と更新

学校の見学学習の参考として活用するためにに作成した『ワークシート』について、実際の活用場面の調査をするとともに、広く現場の教員からも意見を聞くなどして内容の改訂を行っている。

(ｺ)　教員向け研修会の実施

ａ「教員のための博物館講座」の開催

日　時：8月1日(木) 9:50～17:00

受講者：28名

概　要：「教科書だけでは学べない神奈川の歴史」、「資料の読み取り方を学ぶ」について講義とワークショップ、常設展見学、グループ討議

(ｻ)　ホームページ上で「こどものページ」の公開

児童・保護者や学校関係者に親しみを感じてもらうことで館の利用促進を図るため、ホームページ上に小学生・中学生向けの「こどものページ」を設け、当館で見学学習を行なった小・中学生から作文や絵画などを募り、公開している。

掲出期間	学校名	内容
25年3月5日　～　25年11月12日	藤沢市立湘南台中学校 1年	新聞　12
25年5月1日　～　25年10月31日	逗子市立逗子小学校6年	感想文　12
25年6月13日　～　25年12月17日	平塚市立太洋中学校 2年	感想文　5
25年6月13日　～　25年 1月 21日	横須賀市立武山中学校2年	感想文　12
25年6月28日　～　25年 1月 21日	横須賀市立浦賀中学校2年	感想文　21
25年6月28日　～　25年11月26日	横須賀市立浦賀中学校 2年	新聞　20
25年7月 4日　～　25年11月26 日	神奈川県立横浜清陵総合高校1年	感想文　5
25年7月10日　～　26年 6月13日	自修館中等教育学校2・3年	感想文　4
25年7月20日　～　26年6月 18日	平塚市立金旭中学校2年	新聞　10
25年8月 6日　～　26年6月18日	JICA日本語学校生徒研修第1陣	感想文　13

(6)　ミュージアムライブラリー

県民の学習活動を支援する場として、1階フリーゾーンにミュージアムライブラリーを設置している。図書、映像 、情報システム(デジタルミュージアム)などがあり、展示を中心とした神奈川の歴史や文化について学ぶことが出来る。

職員が1名以上常駐し、質問等を受け付けるなど、生涯学習の場として広く利用されるように運営している(図書、映像、情報システムの内容についてはそれぞれの項目に記載)。平成25年度の利用者総数は7,552名、フリーゾーンを含めた入館者に対する比率は5.9%である。

ア　閲覧用座席数：14席、映像ブース：3ヶ所7名分、来館者用情報システム端末：3台

イ　利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
小学生	30	30	27	13	38	10	29	36	13	24	39	35	324
中学生	9	210	77	29	19	36	24	15	43	32	33	12	539
高校生	4	25	37	23	23	2	7	5	1	1	25	8	161
大学生	1	27	38	37	28	5	6	9	3	3	1	10	168
一般成人	321	452	359	384	417	310	379	397	231	310	289	314	4,163
65歳以上	154	277	198	161	211	185	184	306	92	150	120	148	2,186
生徒引率	0	5	2	1	2	0	1	0	0	0	0	0	11
合計	519	1,026	738	648	738	548	630	768	383	520	507	527	7,552
開館日数	26	28	25	27	27	26	28	27	21	24	24	26	309
1日平均	20.0	36.6	29.5	24.0	27.3	21.1	22.5	28.4	18.2	21.7	21.1	20.3	24.4

ウ　利用形態

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
映像利用		3	7	0	2	2	10	5	3	4	2	8	2	48
情報システム		30	56	34	33	26	21	36	34	18	13	33	26	360
図書閲覧		303	477	336	342	351	255	319	345	197	261	221	224	3,631
各種照会※		18	32	13	8	13	4	6	13	5	11	1	4	128
コピー・サービス	(件数)	20	27	26	25	24	18	31	28	13	23	15	20	270
	(枚数)	273	898	233	121	317	124	423	413	139	144	301	195	3,581

※写真資料の特別利用手続き、ポスター掲出・チラシ配架依頼、周辺施設の所在地に関する照会などへの対応

(7)　普及印刷物

ア　図録

特別展図録「江戸時代かながわの旅－『道中記』の世界－」　平成25年4月26日発行
特別展図録「『キングの塔』誕生！－神奈川県庁本庁舎とかながわの近代化遺産－」　平成25年7月19日発行
特別展図録「こもんじょ　ざんまい－鎌倉ゆかりの中世文書－」　平成25年10月4日発行
特別陳列図録「眞葛焼－田邊哲人コレクションと館蔵の名品－」　平成26年1月10日発行

イ　広報印刷物

「江戸時代かながわの旅－『道中記』の世界－」　ポスター・チラシ
「『キングの塔』誕生！－神奈川県庁本庁舎とかながわの近代化遺産－」　ポスター・チラシ
「これからの催しもの(2013年4月～2014年3月)　改訂版」　リーフレット　平成25年7月発行
「こもんじょ　ざんまい－鎌倉ゆかりの中世文書－」　ポスター・チラシ
「眞葛焼－田邊哲人コレクションと館蔵の名品－」　ポスター・チラシ
「博物館の誕生日」　チラシ
「これからの催しもの(2014年4月～2015年3月)」　リーフレット　平成26年2月発行

ウ　神奈川県立歴史博物館だより

『神奈川県立歴史博物館だより』　VOL.19　№1　通巻193号　平成25年　6月　20日　(2,000部)
『神奈川県立歴史博物館だより』　VOL.19　№2　通巻194号　平成25年　9月　1日　(2,000部)
『神奈川県立歴史博物館だより』　VOL.19　№3　通巻195号　平成25年　12月　3日　(2,000部)

(8)　ボランティアの活動

平成9年度から登録を行った博物館ボランティアは、平成24年度中の入門講座及び面接の結果、新たに19名の登録を行い、登録更新者88名を含めて107名となった。その内訳は、展示解説ボランティアが96名、情報処理ボランティアが2名(行事補助との兼任)、行事補助ボランティアが11名である。

また平成14年度から活動期間を5年間とし、平成25年3月31日での任期満了者は12名である。

ア　活動状況及び実績

展示解説ボランティアは、常設展展示解説のほか、特別展開催中には1日2回の定時解説(11時、15時)を行っている。

情報処理ボランティアは、所蔵資料のフィルムデータから電子データへの画像入力作業を行っている。

行事補助ボランティアは、子ども向け行事の指導補助をはじめ、受付や案内など、学習支援事業の補助を行なっている。

また、ボランティア会は、幹事会(各曜日ごとの班から２名選出)を組織し、月１回、館側の担当者と様々な調整や、情報の交換を行なっている。また、『ボランティアニュース』を年3回、編集・発行している。

(ｱ)　活動日数及び人数

月	活動日数(日)	活動人数(人)	累計(日)
4	26	290	290
5	28	316	606
6	25	348	954
7	27	346	1,300
8	27	354	1,654
9	26	342	1,996
10	28	366	2,362
11	27	337	2,699
12	17	237	2,936
1	23	295	3,231
2	24	270	3,501
3	26	318	3,819

(ｲ)　年代別・男女別人数等

年代	男	女	計
20	0	4	4
30	1	2	3
40	0	9	9
50	1	11	12
60	41	29	70
70	7	2	9
合計	50	57	107
平均年齢	60.6	51.4	55.7

(ｳ)　曜日別ボランティア数(展示解説ボランティアのみ)
火曜班：17 名、水曜班：15 名、木曜班：16 名、金曜班：17 名、土曜班：16 名、日曜班：15 名

(ｴ)　情報処理ボランティア
2 名(行事補助ボランティアと兼務)

(ｵ)　行事補助ボランティア
11 名

(ｶ)　画像入力実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数	108	98	108	48	110	100	96	114	61	113	103	83	1,142

イ　博物館入門講座（応募者 140 名・受講者第 1 日目 65 名、第 2 日目 57 名）（再掲）
普段見ることのできない博物館の様々な活動や学芸員の仕事について紹介するとともに、当館の展示についても学ぶ。当講座の受講が当館ボランティア応募の条件となる。

・第 1 回　1 月 18 日(土) 10:00～15:30
講義名：当館の概要・博物館活動と学芸員の仕事・館内見学
・第 2 回　1 月 25 日(土)10:00～15:30
講義名：「学芸員の目」(1)(2)・ワークショップ「学芸員の目を学ぶ」・「学芸員の技」

ウ　専門研修

展示解説に必要な当館の常設展示に関する知識や、資料の保存、教育普及活動について、その内容を知ってもらうために実施する。なお実地研修として、現役のボランティアとともに解説の演習を行なう。

日　時：平成25年4月7・14・21日、5月12・19・26(日) 10:00～15:00

エ　その他の研修

(ｱ)　特別展研修

特別展の展示解説に資する研修として、解説に必要な図録や資料を配布するとともに、展示された資料について、担当学芸員から解説の実地研修を行なった。

(ｲ)　フォローアップ研修

常設展示解説のフォローアップとして、個々のテーマで研修講座を実施した。

実施日	テ　ー　マ
6月8日(土)	源頼朝の生涯－その虚像と実像－
9月14日(土)	①弥生時代の米食について ②旧石器時代についての新知見－最新の発掘調査を踏まえて－
11月9日(土)	長屋王家木簡について－相模国と長屋王家との関わりを考える－
12月7日(土)	大山信仰について
1月11日(土)	特別陳列「眞葛焼－田邊哲人コレクションと館蔵の名品－」に関する勉強会
1月15日(水)	かながわの遺跡展「地中に埋もれた江戸時代の道具たち」勉強会
1月18日(土)	
3月1日(土)	コレクション展示「アメリカ人女性が巡った明治の日本」に関する勉強会

(9)　博物館実習生の受け入れ

「神奈川県立歴史博物館　博物館実習生受け入れ要領」に基づき、見学実習と実務実習を受け入れた。

ア　見学実習

当館の概要(歴史・施設・組織・展示や事業概要など)について説明した後、展示室、バックヤード等の見学を行なう。

○受入数　10大学　238名

○受入校(来館日・大学名・人数)

来館日	大学名	人数
平成25年 5月26日	学習院大学	72
平成25年 6月 9日	神奈川大学	10
平成25年 6月23日	大正大学	16
平成25年 7月15日	宮城学院女子大学	22
平成25年 9月10日	広島大学	30
平成25年 9月11日	龍谷大学	28
平成25年10月12日	昭和音楽大学	40
平成25年11月17日	学習院大学	10
平成25年11月22日	和光大学	5
平成25年　2月　1日	鶴見大学	5

イ　実務実習

前期3日間と後期4日間にわたって行なう。前期は企画情報部が担当し、受講者全体で博物館運営に関わる業務及び教育普及事業などについて学ぶ。後期は学芸部の各分野に分かれ、資料の取り扱いや整理の方法などについて学ぶ。

○受入数　19大学、23名

○受入校(大学名・受入人数)

大学名	人数	大学名	人数	大学名	人数
中央大学	1	神奈川大学	1	桜美林大学	1
跡見学園女子大学	1	東海大学	2	二松学舎大学	2
東洋英和女学院大学	2	関東学院大学	1	昭和女子大学	1
日本大学	1	昭和音楽大学	1	八洲学園大学	1
駒澤大学	1	日本女子大学	2	お茶の水女子大学	1
青山学院大学	1	学習院大学	1		
清泉女子大学	1	鎌倉女子大学	1		

※前期実習終了後、1名辞退。

(ｱ) 実務実習(前期実習)〈実施日順〉　　担当：企画情報部(全員参加、日程、内容)

ａ 1日目：6月5日(水) 10:00～17:00
- 前期実習のガイダンス
- 当館の概要について(施設の概要、当館の活動について)
- 教育普及活動の実践①(全体説明)
- 教育普及活動の概要(当館の教育普及事業、学校連携事業、子ども向け事業)
- 館内見学(常設展示室)
- 館内見学(バックヤード、収蔵庫周辺、設備・防災・防犯関係、屋上ドームなど)
- 広報活動について(博物館における広報、広報担当の役割、広報活動の現状)

ｂ 2日目：6月6日(木) 10:00～17:00
- 博物館と図書資料について(収集方針、所蔵資料、書庫・ミュージアムライブラリー見学)
- 当館のボランティア活動について(沿革、現在の活動)
- 博物館情報システムについて(収蔵品管理システム、デジタル・ミュージアム、セキュリティ、情報バリアフリー)
- 博物館と写真資料について(博物館における写真とは、撮影対象について、撮影後のこと)
- 写場、情報システム見学
- 資料の保存・IPMについて

ｃ 3日目：6月7日(金) 10:00～17:00
- 教育普及活動の実践②(開館記念日のイベント企画、作業)
- 教育普及活動の実践③(発表、講評)

(ｲ)　実務実習(後期実習)〈実施日順〉　　担当：学芸部(実習分野・グループ別参加者数、日程、内容)

ａ 近世4名、9月3日(火)～9月6日(金) 10:00～17:00
- 資料の取り扱い(点検、調書の作成、梱包)
- 史料撮影
- 展示準備(資料の確認、キャプションの作成)
- 展示替え見学
- 資料整理（版木整理）
- 防災訓練

b 考古 2 名、9 月 10 日(火)～13 日(金) 10:00～17:00、4 日目 12：45～17：45
・資料の取り扱い(点検、調書の作成、梱包)
・資料整理
・展示準備(資料の確認、キャプションの作成)
・展示作業
・考古資料の整理(実測、拓本、資料カードの作成)

c 近現代 8 名、10 月 8 日(火)～10 月 11 日(金) 10:00～17:00、3 日目 9：30～16：30
・近代美術資料の整理と保管（整理と保管の方法・保管容器の製作）
・保存環境整備の実際（温湿度自記記録用紙の交換／害虫駆除の実践）
・近代歴史資料の調査（調書作成）

d 中世 7 名、10 月 22 日(火)～25 日(金) 10:00～17:00
・歴史資料の取り扱いⅠ(中世古文書の形態と分類、中世古文書の保存及び取扱い〈掛幅・巻子〉)
・歴史資料の取り扱いⅡ(書跡・典籍作品の取り扱い、資料の点検と調書の作成、展示見学と巡回)
・美術資料の取り扱いⅠ(絵画作品〈掛幅・絵巻〉の鑑賞と取り扱い〈点検･梱包〉、絵画資料の展示と保管環境について、博物館の環境管理について)
・美術資料の取り扱いⅡ(工芸作品の鑑賞と取り扱い〈点検・梱包〉、梱包材の作成、彫刻作品の取り扱い〈点検･梱包〉)

e 民俗 2 名、11 月 19 日(火)～22 日(金) 10:00～17:00、3 日目 9：30～16：30、4 日目 11：00～18：00
・民俗資料の収集法・調査法について
・民俗資料カードの整理・整理法について
・民俗資料の取り扱いについて
・民俗資料の入力法・調書作成について

6　資料

(1)　条例・規則

ア　神奈川県立の博物館条例

昭和41年10月7日
条例第43号
最終改正 平成21年3月27日条例第25号

(趣旨)
第1条　この条例は、神奈川県立の博物館の設置、管理等に関し必要な事項を定めるものとする。
(設置)
第2条　博物館法(昭和26年法律第 285号)に基づき、次のとおり神奈川県立の博物館(以下「博物館」という。)を設置する。

名　　称	位　　置	目　　的
神奈川県立歴史博物館	横浜市中区南仲通5丁目60番地	神奈川の文化及び歴史に関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行い、県民の学習活動を支援すること。
神奈川県立生命の星・地球博物館	小田原市入生田499 番地	地球及び生命の営みに関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行い、県民の学習活動を支援すること。

(職員)
第3条　博物館に、事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。
(観覧料の納付)
第4条　博物館に展示している博物館資料を観覧しようとする者は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。ただし、公開の施設に展示している博物館資料の観覧については、この限りでない。
2　前項本文の規定にかかわらず、特別な企画の展覧会を開催する場合の観覧料は、神奈川県教育委員会(以下「教育委員会」という。)がその都度定めることができる。
3　前2項の観覧料は、前納とする。
(観覧料の減免)
第5条　前条第1項本文及び第2項の規定にかかわらず、教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者については、観覧料を減免することができる。
(1) 教育委員会が開催する行事に参加する者
(2) 教育課程に基づく教育活動として入館する高校生(学校教育法（昭和22年法律第26号。別表備考において「法」という。）第1条に規定する高等学校及び中等教育学校の後期課程並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者をいう。別表において同じ。)並びに児童及び生徒の引率者
(3) その他教育委員会が適当と認めた者
(観覧料の不還付)
第6条　既に納付された観覧料は、還付しない。ただし、教育委員会が災害その他特別の事情により還付するのを適当と認めたときは、この限りでない。
(資料の特別利用)
第7条　博物館資料を学術上の研究のため特に利用しようとする者は、教育委員会の承認を受けなければならない。
(利用の制限)
第8条　教育委員会は、博物館の利用者が次の各号のいずれかに該当する場合には、その利用を制限することができる。
(1) この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。
(2) 他の利用者に著しく迷惑をかけるおそれがあると認めるとき。
(3) 施設、博物館資料等を損傷するおそれがあると認めるとき。
(4) その他教育委員会が必要と認めるとき。
(委任)
第9条　この条例に定めるもののほか、博物館の管理等に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附　則

この条例は、公布の日から起算して6月をこえない範囲内で教育委員会規則で定める日から施行する。(昭和41年11月18日教育委員会規則第8号で、同41年11月21日から施行。ただし、第4条から第9条までの規定の施行期日にあつては昭和42年3月22日とし、第10条の規定の施行期日にあつては昭和42年4月1日とする。)

(略)

附　則(平成21年3月27日条例第25号)

この条例は、平成21年7月1日から施行する。

別表(第4条関係)(抄)

区　　分		個　　人	20人以上の団体
神奈川県立歴史博物館	20歳以上65歳未満の者(学生及び高校生を除く。)	1人につき　300円	1人につき　250円
	20歳未満の者(高校生を除く。)	同　200円	同　150円
	学生(65歳以上の者を除く。)		
	65歳以上の者	同　100円	同　100円
	高　校　生		

備考　1　学生とは、法第1条に規定する大学及び高等専門学校、法第124条に規定する専修学校並びに法第134条第1項に規定する各種学校に在学する者をいう。

2　学齢に達しない者、並びに法第1条に規定する小学校、中学校、中等教育学校の前期課程及び特別支援学校並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者は、無料とする。

イ　神奈川県立の博物館組織規則

〔昭和41年11月18日教育委員会規則第10号〕

最終改正　平成18年3月31日教育委員会規則第13号

(趣旨)

第1条　この規則は、神奈川県立の博物館の組織に関し必要な事項を定めるものとする。

(部等の設置)

第2条　神奈川県立の博物館に、次の部及び課を置く。

管理課

企画情報部

企画普及課

情報資料課

学芸部

(管理課の事務)

第3条　管理課においては、次の事務を分掌する。

(1) 公印に関すること。

(2) 文書の収受、発送、保存、閲覧等に関すること。

(3) 個人情報の開示、訂正、利用停止等に関すること。

(4) 人事に関すること。

(5) 財産の管理及び館内の秩序の維持に関すること。

(6) 予算の経理に関すること。

(7) 観覧料の徴収に関すること。

(8) 物品の調達及び処分に関すること。

(9) 寄贈品の受納並びに寄託品の受納及び返納に関すること。

(10)その他他部課の主管に属しないこと。

第4条　削除

(企画普及課の事務)

第5条　企画普及課においては、次の事務を分掌する。

(1) 博物館活動の企画及び調整に関すること。

(2) 博物館活動の普及及び広報に関すること。

(3) 博物館活動に関する講演会、講習会、研究会等の開催に関すること。

(4) 他の博物館その他教育、学術又は文化に関する施設、団体等との連絡、協力及び情報の交換に関すること。
(情報資料課の事務)
第6条　神奈川県立歴史博物館の情報資料課においては、次の事務を分掌する。
(1) 人文科学等に関する図書等の収集、整理、保管及び閲覧に関すること。
(2) 博物館情報システムの運用に関すること。
2　神奈川県立生命の星・地球博物館の情報資料課においては、次の事務を分掌する。
(1) 自然科学等に関する図書等の収集、整理、保管及び閲覧に関すること。
(2) 博物館情報システムの総合的企画及び調整並びに運用に関すること。
(学芸部の事務)
第7条　学芸部においては、次の事務を分掌する。
(1) 博物館資料の収集、製作、整理、保管、展示、解説及び指導に関すること。
(2) 博物館資料の専門的及び技術的な調査研究に関すること。
(委任)
第8条　この規則の施行に関し必要な事項は、神奈川県教育委員会教育長が定める。
附　則
この規則は、昭和41年11月21日から施行する。
(略)
附　則(平成18年3月31日教育委員会規則第13号)
この規則は、平成18年4月1日から施行する。

ウ　神奈川県立の博物館の利用等に関する規則

昭和41年11月18日
教育委員会規則第9号

最終改正　平成12年12月15日教育委員会規則第25号

(趣旨)
第1条　この規則は、神奈川県立の博物館の利用等に関し必要な事項を定めるものとする。
(権限の委任)
第2条　次に掲げる神奈川県教育委員会の権限は、神奈川県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)に委任する。
(1) 神奈川県立の博物館条例(昭和41年神奈川県条例第43号。以下「条例」という。)第4条第2項の規定により観覧料を定めること。
(2) 条例第5条の規定により観覧料を減免すること。
(3) 条例第6条ただし書の規定により観覧料の還付を認めること。
(4) 条例第7条の規定により利用を承認すること。
(5) 条例第8条の規定により利用を制限すること。
(休館日等)
第3条　神奈川県立歴史博物館及び神奈川県立生命の星・地球博物館(以下「博物館」という。)の休館日は、次のとおりとする。
(1) 月曜日(国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「国民の祝日等」という。)に当たるときを除く。)
(2) 国民の祝日等の翌日(土曜日、日曜日又は国民の祝日等に当たるときを除く。)
(3) 12月28日から翌年の1月4日まで
(4) その他教育長が定める日
2　前項の規定にかかわらず、教育長は、必要があると認めるときは、臨時に博物館を開館することができる。
(開館時間等)
第4条　開館時間は、次のとおりとする。

名　　称	開　　館　　時　　間
神奈川県立歴史博物館	午前9時30分から午後5時まで。ただし、午後4時30分以降は、入館することができない。
神奈川県立生命の星・地球博物館	午前9時から午後4時30分まで。ただし、午後4時以降は、入館することができない。

2　前項の規定にかかわらず、教育長は、必要があると認めるときは、これを変更することができる。
(観覧券の交付)
第5条　教育長は、博物館に展示している博物館資料を観覧するため、条例第4条の規定により観覧料を納めた者に観覧券を交付するものとする。
(観覧料の減免申請)
第6条　観覧料の減免を受けようとする者は、あらかじめ、観覧料減免申請書を教育長に提出し、観覧料減免承認書の交付を受けなければならない。
(観覧料の還付申請)
第7条　観覧料の還付を受けようとする者は、観覧料還付申請書に観覧券を添えて教育長に提出し、観覧料還付承認書の交付を受けなければならない。
(資料の特別利用)
第8条　条例第7条の規定により博物館資料の特別利用の承認を受けようとする者は、特別利用承認申請書を教育長に提出し、特別利用承認書の交付を受けなければならない。
(利用の方法)
第9条　博物館を利用する者は、博物館の管理上必要な事項を守り、職員の指示に従わなければならない。
(資料の館外貸出し)
第10条　次に掲げるものは、教育長の承認を受けて博物館資料の館外貸出しを受けることができる。
(1)　国立の博物館、博物館法(昭和26年法律第285号)第2条第1項に規定する博物館及び同法第29条の規定により文部科学大臣の指定した博物館に相当する施設
(2)　社会教育法(昭和24年法律第207号)第21条に規定する公民館
(3)　国立の図書館及び図書館法(昭和25年法律第118号)第2条第1項に規定する図書館
(4)　学校教育法(昭和22年法律第26号)第1条に規定する学校
(5)　その他教育長が適当と認めるもの
2　前項の規定による承認を受けようとするものは、館外貸出承認申請書を教育長に提出し、館外貸出承認書の交付を受けなければならない。
(館外貸出しの期間)
第11条　博物館資料の館外貸出しの期間は、30日以内とする。ただし、教育長は、特に必要があると認めるときは、これを延長することができる。
2　前項の館外貸出しの期間は、博物館が当該博物館資料を引き渡した日から起算してその返還を受ける日までの日数により算定するものとする。
3　教育長は、館務の都合により必要があるときは、博物館資料の館外貸出しの期間中であつても、当該博物館資料の返還を求めることができる。
(館外貸出しをした資料の利用方法)
第12条　博物館資料の館外貸出しを受けたものは、当該博物館資料を、承認を受けた利用の目的又は場所以外の目的又は場所で、利用してはならない。
(資料滅失等の届出)
第13条　博物館資料の館外貸出しを受けたものは、当該博物館資料を滅失し、又は損傷したときは、直ちに資料滅失(損傷)届出書を教育長に提出しなければならない。
(寄託を受けた資料の利用の制限)
第14条　寄託を受けた博物館資料の館外展示及び館外貸出しは、寄託者の承諾がある場合のほかは、行なうことができない。
(委任)
第15条　この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附　則

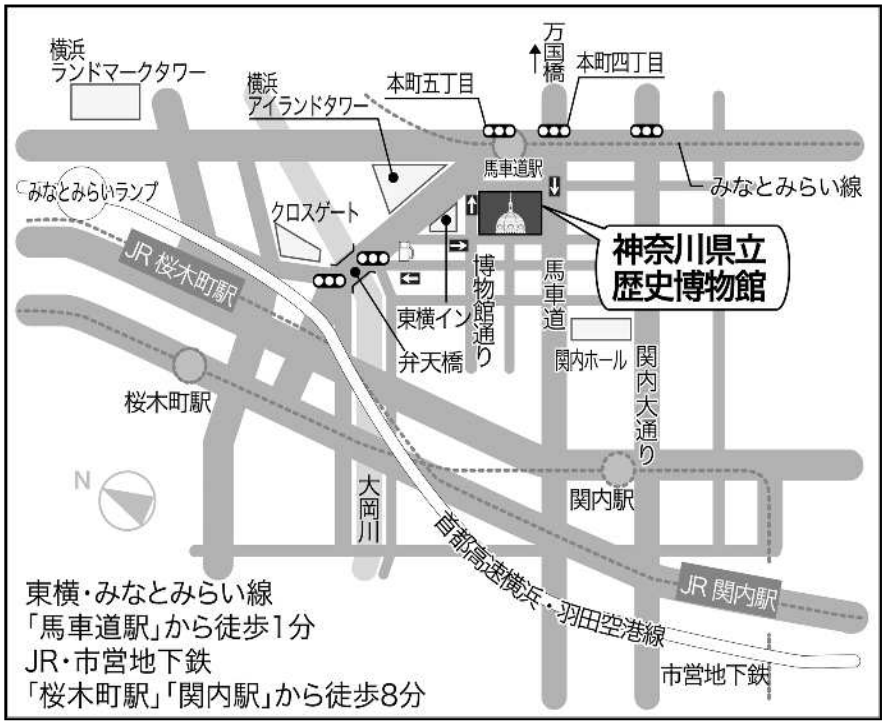
この規則は、昭和41年11月21日から施行する。ただし、第2条から第9条までの規定は、昭和42年3月22日から施行する。
(略)

附　則(平成12年12月15日教育委員会規則第25号)

この規則は、平成13年1月6日から施行する。

(2) 利用案内

1 名　　称 ： 神奈川県立歴史博物館 (Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History)
2 所 在 地 ： 横浜市中区南仲通5-60　〒231-0006
3 電　　話 ： 045-201-0926(代表)
4 ＦＡＸ ： 045-201-7364
5 ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ ： http://ch.kanagawa-museum.jp/
6 交　　通 ： 東横・みなとみらい線「馬車道」駅5番出口より徒歩1分、
JR京浜東北・根岸線、横浜市営地下鉄ブルーライン「桜木町」駅または「関内」駅より徒歩8分
7 休 館 日 ： 月曜日(ただし、祝日の場合は開館)、資料整理休館日、年末年始
8 観 覧 料 ： ○常設展
・20歳以上(学生を除く)：300円(250円)　(　)内は20名以上の団体
・20歳未満及び学生：200円(150円)
・高校生及び65歳以上：100円(100円)
・中学生以下及び障がい者手帳をお持ちの方は無料
○特別展
・常設展とは別料金となり、金額は展示ごとに別途定める。
○コレクション展
・無料
9 団体見学 ： 事前にご連絡ください。
10 地　　図



神奈川県立歴史博物館年報　平成 25 年度

2015 年 3 月 20 日

編集・発行　〒231-0006
横浜市中区南仲通 5-60
神奈川県立歴史博物館

本書の無断転載を禁ず